



第18回日本の次世代リーダー養成塾 報告書

開催日程 2021年7月27日～8月9日、22日、28日



Index

Contents

	Page
1. 第18回日本の次世代リーダー養成塾を開催して	1
2. 主催者からのメッセージ	4
3. 開催概要	5
4. 講師・講義内容一覧、カリキュラム表	6
5. 講義概要	9
6. 塾期間における成果・課題や卒塾後の様子	17
7. 塾を支えるスタッフ	28
8. カリキュラム	37
9. 新型コロナウイルス感染症への対応	48
10. 参画道県・市の声	53

【資料】

① 塾生アンケート調査結果	57
② 保護者・学校アンケート調査結果	64
③ 新型コロナウイルス感染症に関するアンケート調査結果	69
④ 塾生概要	73
⑤ 塾生高校一覧	74
⑥ クラス担任・学生リーダー及びスタッフ名簿	75

(巻末) ご協賛・ご協力・助成いただいた皆様

1. 第18回日本の次世代リーダー養成塾を開催して

高校生活はたった3年しかありません。コロナ禍に見舞われて、はや2年が終わろうとしています。今年こそは対面でのリアル開催がしたい。そのために1年がかりで様々な分野の専門家の皆様にご相談しながら、事務局で綿密な感染対策を立ててきました。しかし、開催まで1カ月を切っても、首都圏、大阪、沖縄は、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が発令されたままでした。この地域から参加する塾生や学生リーダーは、リーダー塾で経費を負担して、5日前から福岡でホテルでの実質的な隔離を提案し、ようやくリアル開催となりました。また、参加者全員に対して直前のPCR検査、塾開始当日の抗原検査を実施することとして、リーダー塾は始まりました。

しかし、開催4日目、緊急事態やまん防の対象地域以外から参加したボランティアスタッフから「同居していた人が陽性になった」との申し出があり、本人は無症状でしたが、万が一クラスターを起こしてはいけなと、すぐに福岡市にPCR検査を受けに行かせて、その夜、陽性が判明しました。たまたま、検査を受けたのが福岡市中央保健所管内、私たちが宿泊していたのが唐津保健所管内、前日までの宿泊先が宗像・遠賀保健所管内と3つの保健所が介在することとなり、当初65人に濃厚接触者の疑いがかけられました。宗像市に戻って宗像・遠賀保健所が再調査し、65人が行政検査による抗原定量検査を受け、全員陰性。濃厚接触者は陽性者と宿泊部屋を共にした1人と特定されました。万全を期すため濃厚接触者の疑いがない残りの参加者98人に対してリーダー塾がPCR検査を行い、こちらも全員陰性が判明しました。保健所からは塾継続をしてもいいとのことでしたが、9日目に全員帰宅措置をとり、翌日からオンラインで講師による講義や「アジア・ハイスchool・サミット」のディスカッションを再開し、待機中できなかった講義などは8月末までの週末に行い、すべてのプログラムを終了しました。

コロナ禍だけでなく、今夏は集中豪雨、台風の襲来に伴う洪水など、日本や世界で予想だにしない想定外のことが次々に起きました。講師の皆さまには危機の中でリーダーとして、いかに矜持を持つべきかもご経験から語っていただいたので、塾生にはことのほか心に響きました。また、帰宅までの事務局の対応が生きた教材になり、助け合うことの尊さを学んだとの声も塾生から寄せられました。

今年の「アジア・ハイスchool・サミット」では「ローカルからグローバルへ〜世界と繋がって、地球の未来にいいこと何ができる?」という課題を設定して会期中クラスごとに議論しました。一度、リアル開催していたため、途中でオンラインに切り替わっても議論は白熱。リーダー塾らしく、教育格差、ジェンダー格差、経済格差、海洋ゴミ削減、災害対策などをテーマに取り上げ、弱い人々にいかに寄り添った新しい社会をつくり、国境を越えて同世代が協力をしあえるか斬新な提案が出されました。

これまで18回連続して講師を務めていただいているマレーシアのマハティール元首相は、オンラインで「次世代のリーダーは、コロナだけでなく、気候変動など地球全体が解決すべき課題に全世界共通の単一機関をつくり、それぞれの国だけの利益ではなく、地球全体の人々が利益を享受できるようにしないといけない。それにはまず、コロナが終息したら自分の国を飛び出して、違う文化や宗教、考え方に触れてほしい」と激励してくださいました。マハティール氏の講義には、コロナ禍で来日が延期になった日本政府奨学生「アジア高校生架け橋プロジェクト」19か国200人余りの高校生もオンラインで参加し、鋭い質問を投げかけてくれました。日本人の高校生は英語のコミュニケーションで歯が立たず、悔しい思いをしました。世界で通用するには、語学に加え、話す中身を濃くしないといけない。そのためには専門分野だけでなく、リベラルアーツを学ばないといけないと自覚をしてくれたと思います。

そんな彼らの姿に、近い将来、アジアの次世代が手を携えて「次世代地球連合」を創造する日が来ると思いを馳せました。PCR検査で陰性が出るまでの待機の間、配ったお弁当の容器の上に「ご馳走様でした。ありがとうございます」と書き置きをする塾生の謙虚さ、優しさに触れ、日本の未来は明るく、託せると感じる事ができたことは、コロナ禍の中での大きな収穫でした。

日本の次世代リーダー養成塾専務理事・事務局長 加藤暁子





2. 主催者からのメッセージ



十 倉 雅 和 塾長（一般社団法人 日本経済団体連合会 会長）

コロナ禍の中、今、世界は行き過ぎた資本主義による格差の拡大、地球温暖化による生態系の破壊、保護主義やポピュリズムの台頭による地政学リスクの高まり、民主主義の危機など、多くの問題が顕在化しています。こうした経済や社会の状況を受け、サステナブルな資本主義への期待が高まっています。私は、市場経済の中に社会性の視点を入れる「ソーシャル・ポイント・オブ・ビュー」が大切であると考えています。

自国だけで対応することのできない地球温暖化、パンデミックに代表される生態系の破壊、人類が制御できなくなる恐れのある AI などのデジタル技術に対して、今こそ、国際協調が急務です。コロナ後の時代、わが国は自由・民主主義・人権・法の支配といった価値観を共有できる

国々との連携がこれまで以上に必要となります。

次世代のリーダーを目指す皆さんには、世界に目を向けて、地球環境問題など地球市民として解決しないといけない課題に、切磋琢磨をして、高い志を持って、果敢にイノベティブに挑戦をしていただきたいと思います。まずは、塾で大いに学び、仲間と未来を語り、視野を広げ、たくましい若きリーダーとして、将来、世界を舞台に活躍されることを心から願っています。

「日本の次世代リーダー養成塾」役員等名簿（2021年7月1日現在、五十音順）

塾 長	十 倉 雅 和	/	一般社団法人日本経済団体連合会会長
塾長代理	榑原 英資	/	一般財団法人インド経済研究所理事長
筆頭理事	服部 誠太郎	/	福岡県知事
理 事	浅野 史郎	/	土屋総研特別研究員・元宮城県知事
理 事 (顧問兼務)	麻生 渡	/	元全国知事会会長・ 一般財団法人九州オープンイノベーションセンター最高顧問
理 事	石原 進	/	九州旅客鉄道株式会社特別顧問
理 事	伊豆 美沙子	/	福岡県宗像市長
理 事	川勝 平太	/	静岡県知事
理 事	鈴木 直道	/	北海道知事
理 事	高橋 温	/	三井住友信託銀行株式会社名誉顧問
理 事	滝 久雄	/	株式会社ぐるなび取締役会長・創業者 株式会社NKB取締役会長・創業者
理 事	達増 拓也	/	岩手県知事
理 事	中村 時広	/	愛媛県知事
理 事	仁坂 吉伸	/	和歌山県知事
理 事	橋田 紘一	/	特定非営利活動法人九州・アジア経営塾理事長兼塾長
理 事	古田 肇	/	岐阜県知事
理 事	松尾 新吾	/	九州電力株式会社特別顧問
理 事	溝上 泰弘	/	株式会社ミズホールディングス代表取締役会長
理 事	三村 申吾	/	青森県知事
理 事	宗政 寛	/	株式会社サニックス代表取締役社長
理 事	山口 祥義	/	佐賀県知事
専務理事 (事務局長兼務)	加藤 暁子		
監 事	内村 芳郎	/	九州電力株式会社上席執行役員

3. 開催概要

1 主催者

日本の次世代リーダー養成塾

塾長：十倉 雅和／一般社団法人日本経済団体連合会会長

2 開催日程

2021年7月27日(火)～8月9日(月)、22日(日)、28日(土)

3 開催・宿泊施設

グローバルアリーナ（福岡県宗像市吉留46-1）

波戸岬少年自然の家（佐賀県唐津市鎮西町名護屋5581-1）

※自然の家は7月30日（金）～8月1日（日）の2泊3日で宿泊

4 塾生

対象：高校生（1年生～3年生） 139名

内 訳	参画道県・市推薦枠	
	（北海道、青森県、岩手県、静岡県、岐阜県、和歌山県、愛媛県 福岡県、佐賀県、福岡県宗像市、沖縄県うるま市）	110名
	全国からの一般公募枠	29名

5 カリキュラム概要

① 各界を代表する講師陣による講義

- 教養系 （哲学、近現代経済・文明史、医学、科学、芸術など）

日本や世界を代表する講師が高校生に知的好奇心を湧かせる講義をします。

- ビジネス系 （日本企業の強みと弱み、ビジネスのしくみなど）

世界を相手にビジネスの最先端で日夜活躍する講師が、日本の企業の強みや弱み、ひいては日本の国のあり方を伝えます。

- 国際系 （国際問題や外交、国連やNGO活動への理解）

世界に目を向け、日本人としてのアイデンティティを持ち、国際舞台で活躍できる力をつけます。

- 人間学 （将来の夢をどう具現化するか、リーダーとしての生き方など）

人生の先達が21世紀の日本を背負って立つ人材に必要なことは何かを語ります。

② 講義後のディスカッション

講義終了後にクラス担任の指導のもと、1クラス約20名によるグループディスカッションを行います。クラス担任は、日本を代表する企業の中堅社員が務めます。

③ プロジェクト型企画「アジア・ハイスクール・サミット」

2週間を通して社会課題の解決に向けた議論を行い、具体案を提言する「アジア・ハイスクール・サミット」を開催します。

④ 見学

世界遺産である宗像大社を訪問して、展示された国宝を見学します。

4. 講師・講義内容一覧、カリキュラム表

講師 20 名（敬称略、講義順）

講義日	お名前、お役職、演題	ページ
7/28 (水)	さかきばら えいすけ 榊原 英資 一般財団法人インド経済研究所理事長、元財務省財務官 「日本—この不思議な国」	9 ページ
	あしづ たかゆき 葦津 敬之 宗像大社宮司 「宗像の世界遺産への取り組みと環境問題」	9 ページ
	かとう あきこ 加藤 暁子 日本の次世代リーダー養成塾専務理事・事務局長、公益財団法人 A F S 日本協会理事長 「“Warm Heart Cool Head”で激動の時代を切り拓くリーダーに」	9 ページ
7/29 (木)	く ぜ あきひこ 久世 暁彦 宇宙航空研究開発機構（JAXA）GOSAT-2 プロジェクトマネージャー 「宇宙から地球温暖化を知り目に見える温室効果ガス削減策を考える」	10 ページ
	やまもと たろう 山本 太郎 長崎大学熱帯医学研究所国際保健学分野教授 「With コロナ～新たな社会の見取り図」	10 ページ
	こてがわ きょうじ 小手川 強二 フンドーキン醤油株式会社代表取締役社長 「発酵食品が繋ぐ国際化」	10 ページ
8/2 (月)	かまたみのる 鎌田 實 諏訪中央病院名誉院長 「Beyond Corona 『新しい人間』になろう」	11 ページ
8/3 (火)	あかし やすし 明石 康 元国連事務次長、公益財団法人国立京都国際会館理事長 「世界の中の日本—もっと外に開く国に」 “Japan in the world – towards a more open, dynamic country”	11 ページ
	たぐち かずなり 田口 一成 株式会社ボーダレス・ジャパン代表取締役社長 「社会問題をビジネスで解決する社会起業家という生き方」	11 ページ

講義日		お名前、お役職、演題	ページ
8/5 (木)		さ さ き く み こ 佐々木 久美子 株式会社グルーヴノーツ代表取締役会長 「高校生が知っておくべきテクノロジーのインパクト」	12 ページ
		む ら き あ つ こ 村木 厚子 津田塾大学客員教授 「事件から学んだこと～組織の在り方・人の生き方～」	12 ページ
		た き ひ さ お 滝 久雄 株式会社ぐるなび取締役会長・創業者、株式会社NKB取締役会長・創業者 「やらなければならないことは、やりたいことにしよう！」	12 ページ
8/6 (金)		か さ や か ず ひ こ 笠谷 和比古 大阪学院大学法学部教授（専門＝歴史学・武家社会論） 「幕末尊王攘夷論の虚実」	13 ページ
		む ろ ふ し こ 室伏 きみ子 お茶の水女子大学名誉教授、同大学前学長 「人々の心身の健康と幸せを目指す研究・開発と研究者の役割」	13 ページ
		あ そ う わ た る 麻生 渡 一般財団法人九州オープンイノベーションセンター最高顧問、元全国知事会会長 「君は人生100才時代をどう生きるのか」	13 ページ
8/8 (日)		マハティール・モハマド マレーシア第4代・第7代首相 「次世代のリーダーはコロナ後の世界をどう形づくることができるか」 “How can future leader shape the world after COVID-19”	14 ページ
		み や が わ ま き お 宮川 真喜雄 内閣国家安全保障局国家安全保障参与 「歴史を読み。科学を学べ。危機を予知し、皆を率いて対処せよ。日本のために、アジアのために」	14 ページ
8/22 (日)		む ら お か こ う じ 村岡 浩司 株式会社一平ホールディングス代表取締役社長 「世界があこがれる九州をつくる～九州を一つの島と捉えた、広域経済圏の考え方～」	14 ページ
8/28 (土)		り ぼ ん とう 李 鳳宇 映画プロデューサー、株式会社マンシーズエンターテインメント代表、株式会社スモモ代表取締役、日本大学芸術学部映画学科講師 「映画で日本の将来を考えよう」	15 ページ
		や ま ぐ ち よ し の り 山口 祥義 佐賀県知事 「未来のリーダーたちに伝えたいこと」	15 ページ

第18回 日本の次世代リーダー養成塾 カリキュラム表 (2021年7月27日～8月9日、22日、28日)

[illegible]

5. 講義概要

日本のみならず世界で活躍する講師陣にご講義いただいた。また、卒業生4名をゲストスピーカーとして招いた。塾生たちにとって、リーダーとしてあるべき姿を学ぶ貴重な時間となった。

(講義順)



榊原 英資 先生 一般財団法人インド経済研究所理事長、元財務省財務官 「日本—この不思議な国」

平安時代や江戸時代のように、日本は平和な時代が非常に長く、外国と比べると安全な国といえる。これまでの長い歴史の中で権力者は変わってきたが、「革命」が起きたことはなく天皇制が続いてきたことは特徴的であり、日本の平和の維持に大きな役割を果たした。また、「神仏習合」という考え方により仏教と神道が対立しなかったことで、日本では宗教を理由とする戦争がほとんどなかった。

皆さんには、ぜひ若いうちに留学をしてほしい。留学は、その国の文化や言語を学ぶことができるが、日本を知るという意味でも非常に重要である。この国で生活する中で当たり前になっていたことが、必ずしもそうではないと分かり、日本はどういう特徴があるのか客観的にみることができるようになると思う。外国と比べてみれば、日本はユニークな国だと分かるだろう。

講義の感想

- 歴史を振り返ることで見えてくる現代社会の特徴があることを実感し、歴史を学ぶ大切さを知りました。歴史から学び、成長できる人でありたいと思います。
- 留学すると日本を外国から見るができるという考え方が新しく、私も是非留学したいと思いました。榊原先生のように、経験を積んでも挑戦をやめない人になりたいです。



葦津 敬之 先生 宗像大社宮司 「宗像の世界遺産への取り組みと環境問題」

海水温度の上昇、磯焼け、漁獲量の減少や海洋ゴミなど宗像の海の状況に問題意識を持ち、宗像国際環境会議を立ち上げた。地球の7割は海であり、正常な生態系が壊れると、線状降水帯の発生など地球に大きな影響を与える。海という環境は水の中に隠れていて見落としがちだが、早急な対応が必要である。

宗像国際環境会議では、会議の開催だけでなく竹漁礁作りや地元中高生向けの育成プログラム、稚魚放流行事などの取り組みをしている。昨年は、世界遺産の連携として、海の神殿「宗像」×山の神殿「富士山」で手を組み、環境問題を訴えようということで福岡県と静岡県の間知事から共同声明を出した。

環境問題は心の問題であり、自然の流れや循環の中には神がいるという感覚を持つことで、解決へ向けた取り組みは大きく進むだろう。最終的には、神々が棲む海、神が鎮まる海を取り戻したい。

講義の感想

- 環境問題を心の問題として捉え、感じたことから技術を用いて問題解決に向かうという考えが新鮮でした。
- 伝統の美しさを守るために環境問題を解決しようという姿勢や、多方面に活動する姿が自分の憧れるリーダー像そのものでした。



加藤 暁子 先生 日本の次世代リーダー養成塾専務理事・事務局長、公益財団法人AFS日本協会理事長 「“Warm Heart Cool Head”で激動の時代を切り拓くリーダーに」

高校生活はたった3年しかない。すでにコロナ禍は2年目となり、何とかリアル開催をしたいと、ギリギリまで関係各所と協議を重ねた。「できない」ではなくて、「どうしたらできるのか」。送り出す側、迎え入れる側それぞれの地方自治体が不安視するなか、いかに説得できるのか。高校生の将来のためにも、決してあきらめず、様々な感染対策を話し合った。その結果、地方自治体や多くの協賛企業が助けてくれて、皆さんとこうして会うことができた。

これからの時代は、人類を脅かす感染症のパンデミックのみならず、地球温暖化など想定外の問題が次々と起こるだろう。そのような時、リーダーとして、熱い思いと冷静に物事を分析する両方の側面がないと、世の中は動かない。リーダーは孤独だが、「世のため、人のため」にやり続ければ、正義は勝つし、その思いを知った誰かが応援してくれる。皆さんも絶対にあきらめないで、自分を信じて突き進んで欲しい。

講義の感想

- 体力をつけ、非常時に自分の頭で考えて行動ができ、温かい心を持ち続けるような人間になりたいと思いました。
- 記者として内乱のある国で取材する事、途中で新しい仕事に飛び込む事は勇気のいることで格好いいと思いました。



久世 暁彦 先生 宇宙航空研究開発機構 (JAXA) GOSAT-2 プロジェクトマネージャー

「宇宙から地球温暖化を知り目に見える温室効果ガス削減策を考える」

ガス排出の削減をめざした京都議定書が採択され、世界初の温室効果ガス観測専用の人工衛星「GOSAT」を開発し、2009年に打上げた。主要温室効果ガスである二酸化炭素とメタンが地球全体で年々上昇していることを宇宙からとらえてきた。実際に観測してみないと、課題や現状はみえてこない。

今後、削減効果を目に見える形にしていくことが大切である。そのため、宇宙からだけではなく、新たに羽田・福岡などの定期航空便からの観測を始めた。この観測から、化石燃料の燃焼によるCO₂はどこから・どれだけでているか、また日本の森林はCO₂の吸収にどれだけ貢献しているか、詳細に確認できるようになってきた。

地球規模の課題は一つの専門分野だけでは解決できない。幅広い好奇心を持っていれば、次の一手を考える事ができる。皆さんには、理系・文系に分かれるのではなく、二刀流を狙ってほしいと思う。

講義の感想

- 専門性と幅広い知識のバランスが最重要であると学びました。これからは複合的に物事を考えなければ解決策は生まれない時代であるため、それらのバランスを保ちながら勉強することが今後の学生にとって必要だと思いました。
- 人口衛星や航空機を利用して、二酸化炭素やメタンの排出量、排出場所を特定するのは「目で見える」ということに焦点が当てられていて、とても分かりやすいと感じました。



山本 太郎 先生 長崎大学熱帯医学研究所国際保健学分野教授

「With コロナ～新たな社会の見取り図」

新型コロナウイルスの特徴は、無症状者から感染すること、一人の感染者が多くの人に感染させることだ。自然感染かワクチン接種のどちらか、あるいはその両者による集団免疫の達成が感染収束へと導く。それまでに、医療崩壊と社会インフラの破綻を防ぐことが重要だ。医療崩壊が起これば、命の選別をもたらすことになってしまう。私がハイチに滞在していた時、実際に医療崩壊に直面した。助けることのできる命を、助けられないと感じた経験は、非常に怖いものだった。

ウイルスの生存には宿主の存在が絶対的に必要であり、ウイルスが宿主の存在を否定するとは考えられない。また、人間の体内には100兆個以上の微生物が常在している。人間は、他の生物の存在の中で生かされていることがわかる。ウイルスの根絶を目指すのではなく、ウイルスと「共存」していく必要があるだろう。人間が自然の一部である限り、新たな感染症の出現は無くならない。感染症によって人類は多くの困難を抱えたが、一方で、感染症に対する免疫を有することで、社会は強くなるという側面もある。

講義の感想

- コロナなどの新型ウイルスに向き合うためには人間の視点からだけでなく病原体の視点などからもみていく必要があると思いました。このことからウイルスとの「共生」「共存」には相手をよく知ることが大切だと理解しました。
- コロナと戦うのではなく共生していかなければいけないという考え方が素晴らしいと思いました。



小手川 強二 先生 フンドーキン醤油株式会社代表取締役社長

「発酵食品が繋ぐ国際化」

発酵食品とは、菌の働きにより作られる食べ物だ。具体的には、味噌、醤油、パン、ワインやチーズなどが挙げられる。人間は発酵食品を食べることで免疫をつけた。人間の体内には無数の菌が存在し、共存している。無菌状態は菌に侵食されやすくなるため、危険だ。菌の混在する自然環境で生活し、体の中の抵抗力を強くすることが大切だと思う。

現在、世界の人口は増えている。人口増加に対して食糧の生産が追いつかなくなると、奪い合いが起こり、値段が上がってしまう。そうなると、貧しい国は食糧を手にするのがさらに難しくなる。日本では、工場で作られる出来の悪い食品や食べ残しなどが多く廃棄されている。一方、アフリカなどでは食糧が足りない状況だ。食糧の世界でも3R（リデュース、リユース、リサイクル）に取り組んでいける仕組みづくりが必要だ。

皆さんにとって、異なる文化を認め合う国際交流の機会は重要だと考えている。海外の人とお互いに理解を深める経験をしておけば、将来的に食糧不足などによる国際問題が起きた際に、自国だけよければよいとはならず、お互いに譲歩して合意に達することができるだろう。

講義の感想

- 自分の生活の中には様々な菌がいて、その菌のおかげで日々生活できているというのも事実だと改めて感じました。
- 世界の飢餓問題がこれ以上広がらないように、私たちにできることをしていく必要があると思いました。食の3Rを意識することは誰にでもできることなので、学校でも伝えていきたいと思います。



鎌田 實 先生 諏訪中央病院名誉院長

「Beyond Corona 『新しい人間』になろう」

自分ファーストという言葉が出てきたが、本当にそれでいいのだろうか。「相手の身になる」ことは損なことではなく、私はその考えのもと自分の道を切り拓いてきた。

私がいた病院は日本一脳卒中が多い地域だった。しかし私は脳卒中の治療よりも、予防に注力すべきだと考えて、地域のひとと協力してケアを行った。相手の身になって考えることで、在宅ケアや緩和ケアを日本で初めて実施したり、被災地で無料のお風呂を用意したりした。自分がやりたい医療ではなく、その地域と相手が望む医療を届けることが大切である。

高校生の頃、本で読んだことを実際に見てみたいと思い、大学に行くことを決意した。みなさんはこれから受験勉強などで忙しくなるかもしれないが、隙を見つけてでも本を読んでほしい。コロナを通して価値観は大きく変わっている。相手のために自分はなにができるか考えられる人間になってほしい。

講義の感想

- 人のことを全力で想える医者になり、世界中の人々をケアできるような人になりたいと思いました。
- 安楽死についてディベートをした経験から、実際に緩和ケアを始めた鎌田先生に、安楽死のことや家庭医制度のことを質問できて、とても勉強になりました。



明石 康 先生 元国連事務次長、公益財団法人国立交国際会館理事長

「世界の中の日本—もっと外に開く国に」

“Japan in the world – towards a more open, dynamic country”

君たちは世界中の学生と涉り合える若きリーダーであり、海外の大学を目指してほしい。日本は、若者が大きな夢を持つために出来る限りのことをすべきだと思う。たとえ日本にいても、広い視野を持ち、異なる文化や国の仲間と討論した経験は、世界の複雑な問題を解決する術となる。

国際機関で働くには客観的・公平な視点が必要である。各々が自国の目的のために争ったとき、多様な視点を理解しながら働く者は、道徳的で正当な判断ができるリーダーとして世界中から尊敬されるだろう。

現在の複雑な国際関係について、歴史とともに生きること、国同士で支えあってきたことを忘れずに、過ちを繰り返さない心に留め続けてほしい。ステレオタイプな考えはやめて、違いを尊重し、対等な関係を築いていこう。私たちはそれぞれ違う個であるが、世界はひとつなのだ。

講義の感想

- 海外の方と積極的に関われるイベントを是非開きたいと思いました。もっと多くの人々が、多様な文化を受け入れられるようになると思います。
- 人間なのだから間違えることはある。それをお互いに許し合い、どう前に進むか。これはグローバル化が進む世界への問いだと思いました。



田口 一成 先生 株式会社ボーダレス・ジャパン代表取締役社長

「社会問題をビジネスで解決する社会起業家という生き方」

ボーダレス・ジャパンでは、社会問題をビジネスという手段を使って解決する「ソーシャルビジネス」を専門に、社会起業家が世の中に増える仕組みをつくっている。障がいや立地など非効率を理由に、現在の「効率を追求するビジネス経済」からは取り残されてしまった人を含めて、経済をリデザインすることが根本的な解決につながる。それは決して、簡単なことではなく、“儲かりやすい”ビジネスと比べると難易度が高いのは間違いないが、非常に重要でとてもやりがいのある仕事だ。

誰一人取り残さない社会をつくるためには、非効率だからと放置されてきた人や地域も含めたやさしい経済をつくる。今こそ、私たちビジネスマンがその社会づくりに真剣に取り組むべき時だ。みんなで協力してよりよい社会をつくっていききたい。

講義の感想

- 「私たちは微力だけど無力じゃない」と聞いて、学生だからという言い訳をして動かない人間でありたくないと思いました。また、一度始めたことはやめずに続けることが大事だと分かりました。
- 世の中にある良いアイデアを広げていくには、相手の立場や気持ちになって考えることが大切だと学びました。リーダーになったら、自分の利益ばかりを追求せず、周りに良い影響を与えられるようになりたいです。



佐々木 久美子 先生 株式会社グルーヴノーツ代表取締役会長

「高校生が知っておくべきテクノロジーのインパクト」

情報技術の進化により、情報伝達速度、多様性、個性の尊重の圧倒的な加速化が進んでおり、時代に合わせたコミュニティや組織運営が必要になっている。従来型の企業は、昔のように情報が上から下の一方向へ伝達されるヒエラルキー型だが、これから必要な組織は、情報が多方向へ伝達されるホラクラシー型だと思う。これは現在の情報伝達に沿った仕組みであり、プロジェクトごとに権限を持たせ、各人が適した役割を担ってプロジェクトを進めることができる。

テクノロジーは豊かな社会を構築または維持するためのツールであり、それをどう使うか考えなければいけない。AIとは機械学習であり、学習には多くのデータを必要とする。これからは、AIが仕事を奪うのではなく、AIの利用で仕事の中身が変化する時代になっていくため、人間がAIを道具として使いこなす力が重要になる。

講義の感想

- AIを恐れるのではなく、AIと共存していく。これからの社会を生きていく上で大切なことだと思いました。賢くAIを利用していくことができたなら、どんな人でも生きやすい世の中になると感じました。
- テクノロジーの進化に伴い、次世代を担っていく私たちも進化し続けていかなければならないと思いました。



村木 厚子 先生 津田塾大学客員教授

「事件から学んだこと～組織の在り方・人の生き方～」

2009年の郵便不正事件で、全く身に覚えがなかったにも関わらず逮捕され、164日間拘留所で生活した。裁判では無罪となったが、取り調べを担当した検事は証拠を改ざんしたとして、逆に罪に問われた。

この経験から、特殊な世界で長く働くと「常識」がずれることや、一度組織が走り出すと、自分だけ飛び降りるのは勇気がいること等を学んだ。特に同質性が高い組織は、常に新しい血が入るようにすること、他の異なるタイプの組織とネットワークを持つことが重要である。また、拘留所に入ったことで、刑務所にはずる賢くて悪い人ではなく、様々なハンディキャップを持った人が多いことが分かった。彼らは出所後も社会復帰が難しく、再犯につながってしまう。

困難に遭遇したときは、好奇心を持つこと、今までの経験を生かすこと、気分転換をすること、食べて寝ることが大切である。困難を切り抜けることができれば、非常に大きな経験になってその後の人生に役立つ。

講義の感想

- 事件に巻き込まれてしまったという壮絶な体験から、事件後の社会の動きなど貴重なお話ばかりでした。困難に直面した時に必要な支えや、気持ち、生活習慣など学んだことがたくさんありました。
- どんな困難も、それをどう人生に役立てていくかは自分次第で、苦しい経験も後できっと役に立つだろうと信じて全力で努力していきたいと思いました。



滝 久雄 先生 株式会社ぐるなび取締役会長・創業者、株式会社NKB取締役会長・創業者

「やらなければならないことは、やりたいことにしよう！」

やらなければならないことを、やりたいことにするには、志を高く持つことが必要だ。その志とは、リーダーになるという使命感である。使命感を持つことが、知識や経験を豊かにしようという気持ちにつながり、やりたいことができるようになる。

皆さんが将来活躍するために、脳をさらに進化させてほしい。脳を進化させるには、様々なことに日頃から興味を持つことが大切だ。興味を持つことで、強い意思が生まれ、脳を使うことに繋がる。脳は使えば使うほど進化するため、興味を持って物事に取り組んでほしい。

今後分からないことが出てきた場合は、そのままにせず、「矛盾箱」にためておくとうまい。どうしても解決できない問題に直面する時はあるが、分からないからといって立ち止まらず、次に進むことが重要だ。勉強して様々なことを経験すれば、途中で「矛盾箱」に入れたことに対する答えが見つかることがある。

講義の感想

- 「矛盾箱」の考えはとても面白いと思ったので、ぜひ取り入れたいです。
- 何かやるときに興味を持ってやるか持たないでやるかで大きく変わってくることがわかったので、これからは、まず興味関心を持って取り組みたいと思いました。



筈谷 和比古 先生 大阪学院大学法学部教授（専門＝歴史学・武家社会論）

「幕末尊王攘夷論の虚実」

日本は、尊王攘夷論を捨てて近代化したのではなく、尊王攘夷論そのものに近代化の芽が存在していたと考えている。後期水戸学の論者である会沢正志斎の「新論」は、他の尊王攘夷論と異なり、どのように外国へ対抗するか現実に対して目を向け、外国の優れている技術を直視し、それを取り入れようとしていた。「新論」は、アヘン戦争等を契機に日本で評価され、尊王攘夷論の主流となった。

尊王攘夷論は欧米文明を導入する体質を持っていたという考えは、従来の説と異なるが、皆が言っているから正しいと考えるのは危険であり、根拠と事実こそが重要であると思う。

伊藤博文や井上馨などの長州ファイブは、イギリスと戦争してからでは留学する機会がなくなり、外国の優れた技術を学ぶことができなくなってしまうと考えたため、長州藩の下関における外国船砲撃直前に、イギリス留学を企てた。このような戦略的思考こそが、日本の近代化を推進した重要な要因であると考えている。皆さんには、したたかな思考法を学んでほしい。

講義の感想

- 教科書で学んできたことを違う視点で見て、とても面白く、歴史学に興味を持ちました。今まで近代国家にあまり良いイメージを持ってこなかったのですが、学ぶ事が沢山あることに気づきました。
- 今ある情報を鵜呑みにするのではなく、自分で調べて、正しいことを知り、それに対して自分なりの意見を事実に基づいて持つことが大切だと感じました。



室伏 きみ子 先生 お茶の水女子大学名誉教授、同大学前学長

「人々の心身の健康と幸せを目指す研究・開発と研究者の役割」

小学校から高校にかけて、実験を中心とした課外活動や授業を楽しんでいた。高校時代、化学の先生に助言を受け、大学では生物学科を専攻した。大学時代は、新しい知識や研究法を学ぶことができ、研究が面白くなった。そこで、大学院に進学を決め、研究にのめり込んだ。その後、人々の幸せに貢献できる研究や、様々な社会課題の解決に向けた研究がしたいと思い、研究者の道を選んだ。

次世代を背負う皆さんは、学校生活で確かな学力と人間力を身につけ、社会課題の解決に向けて、多角的に探究する方法を習得し、社会にとって有為な人財となることを目指してほしいと思う。また、海外留学や留学生との交流などの機会を積極的に活用して、グローバルな時代を生きる視点を育ててほしい。

さらに、失敗を恐れず、やりたいことに挑戦することが大切だ。失敗は、自分の心と周りの人への思いやりを鍛えることにつながる。挑戦して、自分の力を試し、世界中の人に心を寄せていけるようになってほしいと思う。

講義の感想

- 若い頃は色んな経験をすることが大事とおっしゃっていたので、私も興味があることに積極的に関わっていきたいと感じました。
- 失敗しても諦めないことを心に留め、不屈の精神で夢実現のために努力を続けようと思いました。



麻生 渡 先生 一般財団法人九州オープンイノベーションセンター最高顧問、元全国知事会会長

「君は人生100才時代をどう生きるのか」

これから平均寿命は延びていき、人生100年時代となる。100歳まで生きれば、様々な事に挑戦できる。50歳で一度、70歳でもう一度大学に通うなどにより、それぞれの時代の知識や物の考え方を学ぶと良い。これからの社会は常に学ぶ必要があり、学び直すことで新しい知識を得て人生を豊かにすることができる。

今から皆さんは、大学に進むなど人生の選択をすると思う。その際に、自分が好きなこと、得意そうなことは何かよく考えてほしい。人間には、それぞれの良さや個性がある。それらを活かせるように、自分に最も適した進路を導き出し、進んでほしいと思う。各人の伸びる能力を磨いていくことが、とても大切だ。皆さんにはその能力を活かして、各分野で良い社会を作るリーダーになってほしいと思う。

講義の感想

- 人生100年あるとすれば、私は何をして生きたら後悔しないのか考えさせられました。常に学ぶ姿勢を大切に生きていきたいと感じました。
- 自分ならではの能力を伸ばすために、自分が本当に好きなことを見極めたいと思いました。



マハティール・モハマド 先生 マレーシア第4代・第7代首相

「次世代のリーダーはコロナ後の世界をどう形づくることができるか」

“How can future leader shape the world after COVID-19”

地球全体がコロナという共通の敵に直面している。それぞれの国で解決しようとするのではなく、全世界が共通の戦略のもと、一丸となって戦わなければならない。富める国と貧しい国でワクチン接種にも格差が生まれている。気候変動も同様だ。どこかで問題が起これば、他国に影響を与えようという視点に立ってほしい。

未来のリーダーのマインドセットを変える必要がある。「自国のリーダー」ではなく「世界のリーダー」たれという考え方だ。自国の問題も、他国との相互作用を通じて解決していくという姿勢が重要だ。市民も同様に、「世界市民」としての心持ちが必要になる。世界の資源を共通の利益のために活用したり、どこかで起きている問題を全世界の問題だと捉えたりすることが大切だ。

若いリーダーには今すぐに取り掛かってほしい。新しいリーダーシップが広がれば、世界はより安定すると信じている。全世界が共通の目標に向かうのは簡単ではない。そのためには、他国に足を運び、自分と異なる文化、言葉、習慣に親しむことも重要である。

講義の感想

- 紛争や戦争は暴力等ではなく、話し合いで解決していくのが大切だと改めて感じました。また、国の豊かさの違いが原因で生じる教育格差を解決するためには、「世界の市民」という自覚を持って支援することが大事だと学びました。
- 「自国のためだけでなく他国のためにも」という考え方に感動しました。周りのこと、世界のことも真剣に考え、協力して良い世界にしていく必要があると思いました。普段から他者を思いやり、困っている人を助けていきたいです。



宮川 眞喜雄 先生 内閣国家安全保障局国家安全保障参与

「歴史を読み。科学を学べ。危機を予知し、皆を率いて対処せよ。」

日本のために、アジアのために」

経済安全保障とは人々の経済活動を国の安全保障、即ち国家の防衛に活用する国家政策だ。80年代の米ソ対立の時代、欧州が主たる対立の地域だった。冷戦終結後、国際社会は協力の時代を享受したが、数年前から世界は米中対立という新たな抗争の時代に戻り、主たる対立地域は我々の住む東アジアに移った。

中国は軍民を融合し経済力を軍事力強化に転用している。これに対抗するため、経済力を安全保障に用いる国家政策が真剣に議論されている。経済的手段を国家防衛に用いるための経済力（資源、市場、生産技術、先端機器など）の活用方法を磨く必要がある。経済活動は自由であるべきだという時代は終わり、経済の力を国防力増強に用いる方策を考え、実行する時代が否応なく到来した。

私の考えるリーダー像は、確信を持ち、大勢の共感を得て、物事を前進出来る人物だ。諸君の未来に期待している。

講義の感想

- 現在の軍事バランスと、日本を取り巻く安全保障について深く考えさせられました。
- ご講義の後、台湾有事の際に日本はどのような対応をすべきかというディスカッションをしました。意見が真っ二つに分かれましたが、私は国の未来のために何ができるのかを考え、国際政治経済にもっと目を向けようと思いました。



村岡 浩司 先生 株式会社一平ホールディングス代表取締役社長

「世界があこがれる九州をつくる」

～九州を一つの島と捉えた、広域経済圏の考え方～

九州のすべての県をまとめて、一つの島と考えたときに、何ができるのか考えたのが、私のビジネスの出発点だった。九州の農業資源と、伝統的なものづくり技術を掛け合わせ、九州パンケーキミックスを作った。九州産原料にこだわった理由は、九州の農業を元気にしたいためだ。九州パンケーキミックスの流通は、九州の一次産業と紐づいていて、六次産業化の次世代モデルになっている。製品が売れるほど、農家や工場は豊かになる。また、九州パンケーキミックスと、九州の他の農業素材を活かした新たな商品も生まれている。これにより、副素材の農業活性化に取り組んでいる。

人間は、長い間同じ場所にいと、内側と外側という感覚になる。自分の住んでいない地域である外側は他人事のように感じ、自分のいる内側だけ良ければよいと思うようになる。この内側と外側の壁をなくすことで、全体のことを考えられるようになり、社会課題に目がいくようになるだろう。

講義の感想

- 九州を一つの島として考えるという全く考えたことのなかった村岡先生の発想をお聞きすることができて、素晴らしい機会になりました。
- 先生のお話から、目の前の考え方に捉われず、様々な角度から物事を考えることが大切だと感じました。



李 鳳宇 先生

映画プロデューサー、株式会社マンシーズエンターテインメント代表、
株式会社スモモ代表取締役、日本大学芸術学部映画学科講師

「映画で日本の未来を考えよう」

ベトナム戦争で韓国軍に家族を殺された女性を追った「記憶の戦争」は勇敢で優しい映画だと思う。皆さんには、イグル・ボラ監督の、世代間の政治思想のギャップや彼女の祖父がベトナムに派兵されたこと、韓国軍の「誰かが隠している真実」を映画にする勇気を知ってほしくて鑑賞してもらった。このような映画は若い世代の人しか作れないと思う。

映像が持つメッセージ性は非常に大きく、政治でできないことを2時間の映画で成し遂げることができる。留学中、日本映画を見たドイツ人の友人とその家族が、日本の俳優や言語に興味を持ってくれたことがとても嬉しかった。若い世代の皆さんには、映像の持つ意味と力をよく理解して、日本のすばらしさを発信してくれることを期待している。私も新しい映画にチャレンジすることにワクワクしている。映画を通して、皆さんとまたお会いできるのを楽しみにしている。

講義の感想

- 映像を娯楽として楽しむこと以外にも、過去の出来事を知るために利用し、未来について考えることも大切だと思いました。
- 李先生の「新しい物を積極的に学ぶ」という姿勢を大切に、私も人に影響を与えられるような強い映画を作るひとになりたいです。



山口 祥義 先生 佐賀県知事

「未来のリーダーたちに伝えたいこと」

現在、世界中で自然災害が増えている。災害時に一番やるべきことは、人の命を守ること、早く現場に行き現状を把握することだと思う。災害現場のことを知っているのは、現場にいる人間だ。皆さんには、現場に近い経験を多くして自分の言葉に自信を持ち、リーダーとして人に語れるようになってほしいと思う。

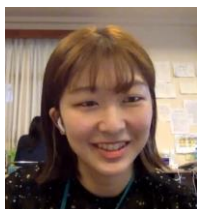
佐賀県は、JAXA と協力して「宇宙×地域創生」に取り組んでいる。宇宙の衛星から、災害時の山の状況や海外から来る害虫などのデータを取り、地域課題の解決につなげたいと思っている。今後、宇宙がより身近になる社会になるだろう。皆さんには、宇宙レベルの大きな視野で物事を捉え、地域などのマイクロ世界のことも考えてほしい。

人生には、様々なことが起きる。ピンチになった時に愚痴をこぼしても良い事はない。ピンチの時は辛い、「新しいチャレンジができる」と前向きに考えることが大切だ。

講義の感想

- 上から指示をするのではなく、自らが現場に足を運び、自分の目で見て判断を下し指示をするという先生の姿勢を見習いたいと思いました。
- チャンスを逃さないためには、不平不満を言う前にまずは挑戦してみること、気持ちを切り替えることが大切だと強く思いました。

卒塾生発表 社会や大学で活躍する4名の卒塾生に話をしてもらいました。(発表順)



12期 ^{たかはし}高橋 はな さん 東京外国語大学 国際社会学部 国際社会学科

リーダー塾を経て国内の子どもの貧困という身近な問題を知り、高校生の時に、生徒会のメンバーとお米を販売し、収益を子ども食堂に寄付する活動を行った。

塾では堂々と英語を話す塾生やアジア学生との交流に刺激を受け、大学では英語以外の言語を習得し、特定の国・地域のプロフェッショナルになりたいと思いマレーシア語を専攻した。留学生活・ホームステイを通してイスラムと関わる中で、他者との違いを受け入れること、日本人らしさ、自分らしさについて模索した。

やるかどうか迷ったときは、同じチャンスは二度と訪れないと思ってチャレンジしてほしい。



16期 モハマド アリ イザット さん 一橋大学 社会学部 社会学科

中等学校5年生の時に日本から来た高校生と交流したことが、日本語を学ぶきっかけとなった。塾生の時はAHSのリーダーに挑戦し、少数派の意見も取り入れる「誰一人取り残さない」、日本らしいリーダー像について学んだ。その後ルックイースト政策の奨学生として来日し、現在は特に人権問題に関心を持っている。

モットーは「自分の為に生き抜けないなら、誰かの為に生きろ」。辛いことがあっても、自分の恵まれた環境を生かして、苦しんでいる人々を助けようという気持ちが原動力だ。将来は、国連などで難民や祖国の人々に貢献したい。



12期 イダマルゴダ バヌカ さん 東京大学大学院 総合文化研究科 地域文化研究専攻

これまで、マイノリティとして「ふつう」の人への憧れや劣等感を感じたこともあったが、自らの道を自分で切り拓き、「ふつうの人」よりも面白く生きてやろうと考えるようになった。多様性の受容には、心の壁と制度の壁の両方へ同時にアプローチする必要がある。

現在は、歴史学者の卵として南アジアの近現代史を研究している。第一人者として専門分野を開拓できるという快感が研究の醍醐味だ。過去の自分が現在、未来の自分を形成している。将来について考える際には、それぞれの自分史を振り返ることで、思わぬ発見やヒントにつながるかもしれない。



5期 ^{ゆむら}湯村 ^{まさたか}将貴 さん Moody's Japan サステナビリティアナリスト

国際機関で働くことを視野に入れ、アメリカの大学院に進学した。そこで環境問題や開発経済の専門性を身につけた。大学院では、日本の立場を海外の人に説明する能力の必要性を痛感した。また、国際社会での日本の立ち位置を確認することもできた。

現在、環境問題に携わっているが、気候変動の原因である温室効果ガスの排出をゼロにする取り組みは、全てが国際的なルールと関係している。皆さんには、環境問題にかかわらず、ルールを与えられる側ではなく、途上国を含む、全員が納得できるルールを作るリーダーになって欲しい。また、組織に入ると自分の希望が通らないと考える人もいるかもしれないが、積極的に行動すればきっと叶う。自分自身も会社をかけあって、ILOに訪問することができた。リーダー塾のメンバーや人とのつながりを大切に、世界のリーダーを目指してもらいたい。

発表の感想

- 思考力（自分のためでなく、誰かの人のために行動）、発想力の豊かさ、そして行動力に感銘を受けました。やはり、思いついてから行動するまでが早いのは大事なことだと思いました。
- 行動に移すことが自分の人生を動かすチャンスになると思いました。自分が興味のあることは躊躇せずに、果敢に向かっていく姿勢を大事にしたいと思いました。
- リーダー塾を卒業した先輩が社会のために貢献した話はとても興味深いと思いました。
- 過去の自分自身と向き合い、「自分史」を編むことが大切だと感じました。
- 色々な意見や立場を理解するために海外に行くことの大切さを学びました。そしてリーダーとしてみんなを引っ張るだけでなくルール（より良くするための決まり）を作ることも大切だと学びました。
- これからの時代を生き抜くためには卒塾生のように、自分から周囲を巻き込んで行動を起こさなければならないのだと、強く感じました。
- 「自分の国について説明できることは、必須のスキルだ」と多くの講師の方々も言っていたので、本当に大切なことだと実感しました。

6. 塾期間における成果・課題や卒塾後の様子

第18回日本の次世代リーダー養成塾（以下、リーダー塾）を終えて、塾生概要、期間中における塾生の様子や成長をまとめた。

塾生概要

（１）概要

塾生は、負担金をいただいている9道県2市（北海道、青森県、岩手県、静岡県、岐阜県、和歌山県、愛媛県、福岡県、佐賀県、福岡県宗像市、沖縄県うるま市）の参画道県・市推薦枠から110名と、全国から選抜する一般公募枠60名を募集した。しかし、感染状況に鑑み、一般枠を29名合格とし、合計139名が参加した。国内22都道府県101校、海外1校（フィリピン）から参加し、海外の高校に所属している1名は、日本在住でオンライン授業を受けている塾生であった。また、去年は全ての行程がオンライン形式での開催となったため、第17期卒塾生も応募を認め、福岡県推薦枠、静岡県推薦枠、一般公募枠から1名ずつ計3名が今年も参加した。コロナ禍での開催となり、137名は合宿形式で参加したが、2名の塾生が全行程オンライン形式での参加を希望し、講義やディスカッションのほとんどがハイブリッドで実施された。塾生は、19～20名ごとに7クラスに分かれ、1クラスを前半後半1名ずつのクラス担任と2名の学生リーダーで担当していただいた。（巻末参考資料④～⑥参照）

（２）塾生の募集及び選考

塾生は、参画道県・市推薦枠もしくは一般公募枠のいずれかの応募枠に申し込み、審査を経て塾に参加することができる。参画道県・市推薦枠は、各自治体で個別に募集および選考をしていただいている。一般公募枠については、事務局が募集・選考を担う。後述にもあるように、今年は新型コロナウイルスの影響もあり、選考方法を変更するなどした。

例年、一般公募枠に関しては、3月に全国900校以上の高校に募集要項や募集チラシなどを一斉に発送し、そのうち一部の学校には電話および訪問での営業活動を行う。しかし、今年は感染状況に鑑み、ごく一部の学校へチラシ配布および電話での案内にとどめた。そのほか、卒塾生にも自身が活動する団体や高校の後輩へのチラシ配布やSNSを通じての呼びかけに協力していただいた。塾生が参加を決意するきっかけに、先輩や兄弟姉妹が塾への参加を契機に大きく成長した姿を目の当たりにしたことを挙げる者が多い。今後も卒塾生による周知活動協力に期待するとともに、塾として卒塾生の活躍を支援していきたい。また、公式のFacebookページでは前年の卒塾生の声をアップし情宣した。一昨年度はFacebookページにて広告を掲載したが、今年はコロナの状況で先が読めないため、広告は控えた。加えて、今年からInstagramを開設し、卒塾生を中心に多くの方がフォローしてくれた。Facebook同様、卒塾生の声を掲載するなどして宣伝に一役買った。

昨年からインターネットでの応募を開始し、一般公募枠、福岡県推薦枠、北海道推薦枠の募集はインターネット出願で行なった。一般公募枠は4月1日から募集を開始した。

開催について、当初から7月下旬から8月上旬の2週間の合宿形式で実施を発表した。一般公募枠の選考については、一次審査（応募書類及び作文）、二次審査（面接）がある。当初は全国5か所の会場で二次審査（面接）を実施する予定であったが、感染状況に鑑み、オンライン形式に変更し実施した。例年、参画道県・市推薦枠でも同様に書類審査、面接審査を行う。しかし、佐賀県は書類審査後、受験者の希望によりオンライン形式と対面形式を選択して面接審査を実施、青森県は面接審査をオンライン形式で実施した。うるま市は当初の予定通り面接審査を対面形式にて実施した。その他の参画道県・市は書類審査のみで合格者を決定した。

塾生の期間中の様子

(1) 受講者決定から開塾まで

6月上旬、審査を通過した合格者が決定した。しかし、事務局内や参画道県・市と協議し、感染状況によってはオンライン形式での開催も視野にいれるよう要望があった。そのため、塾生には6月下旬には最終的な開催形式を発表する旨の案内を出した。協議は長引いたものの最終的に、7月に合宿形式での開催を決定を通知した。その後、塾生全員に意向確認を行い、2名はオンライン形式での参加、残りの137名は合宿形式での参加を決定した。

塾開始前の感染対策として、2週間前から塾生本人とその家族の検温などの体調管理、3日前を目安としたPCR検査、また入塾式当日には全員に抗原検査を実施する等、徹底した。それに加えて、緊急事態宣言及びまん延防止対策等重点措置が発令されてある地域に居住する塾生18名は、万全を期すために、塾開始前の7月22日～24日までの間に事前に福岡に入り、ホテル日航福岡で隔離期間を設けた。参加者全員の陰性を確認し、7月27日、2年ぶりに福岡県宗像市にて開塾した。(詳細はp.48「新型コロナウイルス感染症への対応」を参照)



▲決意表明をする3名の塾生代表

入塾式では、榊原英資塾長代理より開塾の挨拶をして、服部誠太郎福岡県知事(ビデオでご挨拶)、伊豆美沙子宗像市長より、開塾に際して激励のお言葉をいただいた。

塾生を代表して3名が榊原英資塾長代理に向けて決意表明を行った。初めに、開催地の福岡県から福岡県立小倉高等学校2年の^{ふるかわようこ}古川瑤子さんが、「他者を思いやり、大きな目標を掲げ、全力で取り組み、自分の限界を越えること。チームワークを高め多様な考え方への理解を深めること。講師やスタッフの方々、そして仲間との出会いを大切にすること。」を常に心に置こうと塾生に呼びかけた。



▲熱心に講義に耳を傾ける塾生

次に、東京都の郁文館高等学校3年の^{さの りゅうせい}佐野流成さんは、自身も他の塾生より早く福岡に入りホテルでの隔離生活を経験し、コミュニケーションが取れない不安や社会からの疎外感を感じたと語り、「特効薬もない中、一人で未知の病と闘うことがどんなに過酷であるかを想像し、改めて今普通に生活できていることが当たり前ではないと気付かされました。」と述べていた。加えて、3年前から障がいのある方が作った商品をフェアトレードとして販売する活動をしており、社会起業家という夢へのヒントを得たいと宣言してくれた。

最後に岩手県立大船渡高等学校2年の^{くまがい ねね}熊谷寧音さんが、ふるさとの陸前高田の復興には未来の大人である自分たちも協力しなければならないと夢を語った。「このような機会を設けてくださったのは、ウィズコロナ、そしてポストコロナの時代を私たちが作っていかなければならないからだと思っています。…とことん考え抜き、とことん自分たちを追い詰め、成長できる機会にしたいと思います。スマートフォンから離れ、考える過程を楽しみたいと思います。そして素敵な仲間や豊かな自然に囲まれた環境に身を置き、人としてもきっと成長してみせます。」と力強い言葉とともに決意を表明した。弊塾は震災後、東日本大震災特別枠を設けたり、被災地へのボランティアツアーを開催したりしてきたため、陸前高田からの参加は大変嬉しいものであった。

他の塾生たちは2年ぶりに福岡県宗像市で開催されるリーダー塾に向けて、期待と不安の入り混じった緊張感のある面持ちで、話に耳を傾け、気を引き締めていた。

(2) 塾生の様子と特徴

18期生は前述のように、新型コロナウイルスの感染状況に鑑み、例年より宣伝は控えていたにも関わらず、自分で塾を見つけ応募したほどであり、非常に積極的な印象である。素直で明るく、真面目な塾生が多かった。今年は新型コロナウイルス対策として、塾期間中は常時マスク着用、検温、ソーシャルディスタンスの確保、黙食などをお願いした。塾生は普段の学校生活からそのようなルールに慣れていて、しっかり守ってくれた。学級委員や保健委員など自分たちで呼びかけて感染対策に努めていた。気が緩んだ時に注意をする場面もしばしば見られたが、限られた環境下でも、席をひとつずつ空けながら円になって座ったり、書記を1人に決めてマーカーペンの共有を避けたりするなど、工夫しながら積極的に意見交換をする姿勢に塾生の意欲の高さを感じた。

新型コロナウイルス対策として、食事の席や講義の席をクラスごとのローテーションとするなど、座席を自由としていた例年と比べると、他クラスの塾生との交流が減った。その分、クラスを超えた唯一の交流である、委員会にはどの塾生も積極的に取り組んでくれた。委員会活動の中で、交友の輪を広げることができた塾生も多くいたようである。また、感染対策と委員会の仕事は直結しており、スタッフのみでなく塾生の協力なしには、感染対策を徹底することはできなかった。塾生たちは自分達の仕事に責任を持って、分からないことは学生リーダーに尋ねて解決するなど、非常に熱心に活動してくれた。

ボランティアスタッフ1名の新型コロナウイルス感染が判明したため、参加者全員の陰性を確認後、塾生全員に帰宅措置をとり、途中からオンライン形式で実施することとなった。ほとんどの塾生はホームルームでの積極的な会話やアジア・ハイスクール・サミット(AHS)の発表に向けた議論を続けてくれた。通信環境の問題で講義が途切れて、受講することができなかったと申し出た塾生には、後日録画データを提供するという形で対応した。オンライン形式となっても学びに貪欲であり続ける塾生が多く、大変嬉しいものであった。

突然の開催形式の変更にも関わらず、塾生の気持ちに寄り添い指導して下さった担任の先生方や、自宅にてオンラインで受講できる環境を整えて下さった保護者の皆様にも心から感謝申し上げたい。

一方で、オンライン形式となってから、塾生間だけでなく、スタッフと塾生の間でもコミュニケーションの取り方に苦労した。通信環境などの問題のため、画面をオフにする塾生もあり、様子が掴みづらかった。また、オンライン形式になってから、講義の質疑応答の時間で挙手する塾生が限定されはじめ、一度も質問をできずに終わってしまった塾生もいた。

普段の学校生活でもデジタルデバイスを扱っているためか、スムーズに使いこなす塾生が多かった印象である。クラスの中では、パソコンが得意な塾生と話すことが得意な塾生で役割分担をして、協力しながらAHS発表に向けた準備を進めていた。AHSの発表も各クラスでパワーポイントを作成し、オンラインミーティングアプリで画面共有しながら発表してもらったが、高校生がとて2週間で作ったとは思えないほど、すばらしい発表であった。AHSで発表した案をもとに塾生同士で学生団体を立ち上げ、定



▲質疑応答では多くの手が挙がる



▲パーティション越しに話し合う塾生



▲ハイブリッド形式のクラス

学級委員を中心にクラスを運営



▲グローバルアリーナがパーティションを用意してくださった
塾生たちは黙食を徹底していた



▲他団体と接触をさげ、少人数でランドリーを利用させてもらった

期的にオンラインでミーティングしながら活動しているという報告も届いており、塾生の活躍を心から嬉しく思う。

地元の学校生活では優秀であろうと思われる塾生が多い中、自分より優れた人がいるということに気づきショックを受けたり、今まで自分が知らなかった一面を仲間に見つけてもらったりするなど、合宿とオンライン両方を経験して、大きく成長してくれた。自分の意見に自信がない塾生や発言量が少なく大人しい塾生、受動的な姿勢で自ら進んで行動することができなかった塾生は、塾に参加して異なる地域の人々と交流することで、お互いを意識し成長するなど、塾生同士で良い化学反応が起きていた。

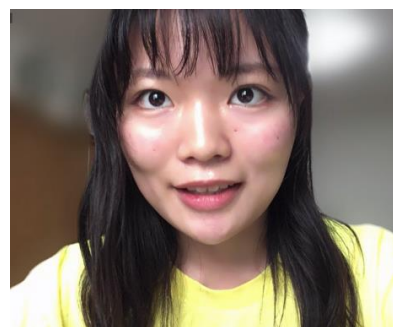
(3) 短期間での成長

■卒塾生代表挨拶

入塾式と異なり、卒塾式はオンライン形式で行われたものの、期待と不安が入り混じった開塾時の表情から一変、最終日の顔つきは大きく変わっていた。その成長は卒塾式での代表挨拶に表れている。今年は7クラスから1人ずつクラスの代表者が、成長の過程と未来への力強い意思を述べてくれた。(以下、一部抜粋) 皆ハードなスケジュールをやり通し、仲間たちと議論を尽くし、大切な仲間を得たその顔は達成感と自信に満ちていた。

【1組】^{はやし さくらこ} 林 桜子 さん(岡山学芸館高等学校2年生)

私は学校では共通の目標を持って戦える仲間がいなかったもので、今回のリーダー養成塾で高い目標を持って共に努力できる仲間を見つけることが出来て本当に良かったです。何十年経っても思い出す人生の転機となった高2の夏でした。数々の講義の中で最も印象に残った先生の話をしてください。研究者である室伏きみ子先生です。私は、自分が興味のある医学を通して社会貢献をしたいと思っています。リーダー養成塾に来る前は、本当は研究がしたいけど、家庭との両立は無理だろうと諦めていました。しかし、室伏先生の話をお聞きして女性も研究者になっていいのだと本当の自分の気持ちに気づき、体に電気が流れたような衝撃を受けました。私たちの学びはリーダー養成塾で終わりではありません。新たな始まりです。これから先、どんな困難が襲ってきても、リーダー養成塾で出会った仲間と共にだったら乗り越えられる、そんな自信が私にはあります。



【2組】^{てらうい ゆいこ} 照井 結子 さん(遺愛女子高等学校3年生)

リーダー塾に参加する前、私には臆病なところがあり、周りから浮くことを恐れ、いつも本当の自分を出すことができませんでした。しかし、リーダー塾に参加して、自分の考えを堂々と発表し、周りとの違いを受け入れる広い視野と理解力を持った素晴らしい仲間に出会ったことで成長することができました。彼らと一緒に時間を過ごす中で、自分の力を認めた上で恐れずに挑戦を続けることを学びました。リーダー塾に参加して、私は、変化し続ける社会の中でも、自分を見失うことなく一生懸命に社会に貢献できる人間になるという夢ができました。また、この2週間のかけがえのない思い出は、これからも私の支えになると確信しました。そして、今、私が思い描く未来の中には、塾生全員がそれぞれの夢を叶え、活躍する姿が見えています。



【3組】吉田 ^{よしだ} ももか さん（佐賀県立唐津東高等学校1年生）

思い返せば2週間前、入塾式の時から他の塾生たちの堂々とした発言に、本当に自分と同じ高校生なのかと、圧倒されていました。リーダー塾の序盤で、講義やクラスで自分の意見が言えなかったことに、悔しい思いをしたことは絶対に忘れることができないと思います。また、周りの塾生の知識の豊富さや意識の高さを感じ、私はこの塾に参加するにあたってふさわしい人間だったのか、と頭によぎることもありました。しかし、この思いが私を突き動かす原動力となり、成長に繋がったと思います。また、コロナの影響により、思いがけないことがたくさんありました。コロナ禍でも現地開催を実現してくださったおかげで、最高の仲間たちと出会えたこと、最高の夏を過ごせたことを幸せに思います。これからも私達はこのリーダー塾で学んだことを生かして、先の分からないこの世の中で、世界を牽引するリーダーとして成長していきます。



【4組】松井 ^{まつい} 颯太 ^{そうた} さん（静岡学園高等学校2年生）

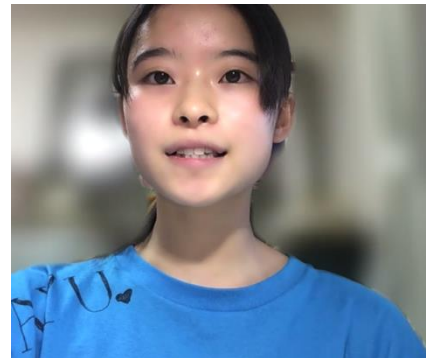
リアルで開催できたこと、そしてオンラインに切り替わってもこのような濃密な時間を過ごせたことに、心から感謝申し上げます。139名の仲間とともにこの夏を過ごせたことは私の一生の財産になりました。この2週間は毎日が新しい発見で、今まで自分が見てきた世界の狭さに驚きました。



私のクラスでは、今朝、AHSの資料を全て作りなおしました。それぞれ作っていた資料を一から作り直すことに誰も文句を言わず取り組む姿に、これが次世代のリーダーの姿だと思いました。私たちは同じ日本という国に住んでいますが、生まれ育った環境や考え方、全てが違うのに、国際的な視点で議論をし、それぞれができることに取り組みました。私は日本の未来、そして世界の未来がきっとよくなると確信しました。私たち139名はローカルからグローバルへ視点を広げて問題を解決できると思います。最後に、最高の仲間、担任の先生、学生リーダー、事務局の方々、そしてこれから出会う全ての仲間たちに感謝し、次世代を担うリーダーとして、頑張っていきたいと思います。

【5組】戸高 ^{とだか} 歩実 ^{あゆみ} さん（東海大学付属福岡高等学校2年生）

この2週間、講師の方々や様々な年代の方と触れ合う事で私の中の価値観にたくさんの刺激をもたらすことが出来ました。リーダー塾で学んだことは2つあります。1つ目は友達の行動力です。たくさんの友達と話をしていると、自身で学生団体を運営している人がいて、行動的で驚くとともに、感動しました。私もなんらかの形で発展途上国の子どもたちを支援するような事業を進めていこうと考えています。2つ目は海外留学についてです。私は将来貧困や飢餓で苦しむ子どもたちを、特に教育の面から支援をしていこうと考えています。英語はもちろんのこと、今勉強しているスペイン語も喋ることが出来るようにこれからも努力を重ねていきます。ここで、私から皆さんに1つ言葉を紹介したいと思います。「出る杭は打たれる。沈む杭は腐る。出過ぎた杭は磨かれる。」これは私たち5組の担任の先生が教えてくれた言葉です。私はこの言葉を胸に何度挫折しても起き上がり、世界のリーダーとして活躍します。



【6組】小野 蒼空 さん（岩手県立千厩高等学校2年生）

私がリーダー塾に参加した理由は自分自身と向き合うためです。私は学習障がいを持っています。このことをずっと隠して生活をおくっていくなかで、いつまでも逃げていてはいけないと思い、参加を決意しました。アジア・ハイスクール・サミットで差別について考え、自分の経験を活かせる、自分と向き合うことができる絶好のチャンスが訪れたと思いました。しかし、なかなか勇気がでず悩んでいたところ、6組という温かい居場所があることに気づき、はじめて思いを共有することができました。この経験により自分の特性は障がいではなく個性であっていいのだと気づきました。このことから、私は講師の方々や、判断力・対応力などリーダー塾から学んだ全てを活かし、同じような悩みをもつ人たちの生きづらさを軽減出来る仕事に携わりたいと深く思いました。2週間は私にとって人生のターニングポイントであり、最高の思い出となりました。将来、よりよい世界になるよう努力していくことを誓います。



【7組】海野 遼 さん（静岡県立清水東高等学校2年生）

リーダー塾を通じて印象に残った2つのことをお話しさせていただきます。1つ目は人間性についてです。今回、佐賀での隔離期間中は担任の先生や学生リーダーの不在期間が長かったです。あの誰もが不安を感じた状況の中で、自分の委員の仕事に関係なく、集団のことを気にかけて共用部分の清掃をした人がいたそうです。暗い出口の見えないトンネルが広がっているときでも、集団のことを考えて行動することこそがリーダーに不可欠な要素だと、あの経験から感じました。2つ目は私の決意です。私は目標を達成するためにはロマンとソロバンが大切だと考えています。滝先生のお言葉を借りれば、ロマンは未来想像力や青写真で、ソロバンが資産や環境、人脈になります。ソロバンという点において、不安を抱えている人が多いのではないのでしょうか。そこで、私が皆さんのソロバンとなることをここにお約束させていただきます。ぜひ、皆さんの世界を変えるお手伝いをさせてください。これほど素敵な家族と呼べる仲間に出会わせてくださり、本当にありがとうございました。



■塾での目標と達成したこと、塾を通して成長したこと（主な内容を抜粋）

自分だけが話すのではなく、話していない人も何を考えているのかなと気をつけ、みんなが思っていることをやるような議論の場にするのを心がけるようになった。また、様々な差別について探求していく中でその人の立場になって考えること、社会問題を解決しようとする上で当事者意識を持つ事は欠かせないと思うようになった。今までは、ただ自分勝手に向き合っていたと思う。

家族から言われるまで自分では気づきませんでしたが、身の回りのことを自分でするようになりました。今まで勉強で忙しいからとついつい自分のことも母に任せてしまいがちでしたが、自分のことは自分でして、周りを見て行動できるようになったと思います。しかし、まだスケジュール管理など計画立てて行動できていないので、リーダー塾での経験を思い出しながら、スケジュール管理の力をつけていきたいです。

いつも副部長や副リーダーなど、リーダーや部長よりも責任が軽い役職を選んで自分が選ばなくなりました。次に、自分もリーダーとしての自覚を持ちました。誰かがしてくれると思うことをやめ、自分から動けるようになりました。他にも楽な方を選ばなくなりました。楽な方がいいと考えることをやめ、少しでも自分に出来ることをしていこうという考え方ができるようになりました。

同じ国内で起きていることでも他人事のように捉えていたことがあった。しかしリーダー塾で様々なことに意識がいくようになり、今ではワールドニュースを見て気になったことは携帯にメモし、調べて自分の興味を深めてから家族にニュースの内容を説明したり、討論したりするようにしている。
普段学校では人見知りで、意見を持っても発言せず、指名されるまで何も語らないような人間でした。しかし、リーダー塾を通して、みんなもお互い初対面のはずなのに、自分の意見をはっきり伝え、さらに深堀りしていく様子を見て、話さないと損すると感じ、緊張しながらも自分の意見を言うことができました。日常生活ではほぼ発言しない私と比べて、人前で堂々と語る事ができたことが成長につながったと思います。
周りの環境に不満を言っても変わることはない。だから自分が変わることで環境を変えていくと成長スピードは格段に上がると思う。また、起きた問題に対して見過ごすのではなくしっかり対処する姿勢を持てるようになった。これは未来の自分を苦境に立たせないためにも大事なことだと思うので忘れないようにしたい。
私は2週間を通じて、物事を深く考えてから行動できるようになったと感じています。リーダー塾期間中に感染対策に気を遣った行動をしていたので、地元に戻ってからも感染対策面だけに限らず、慎重に行動する場面が増えてきた気がします。やはり、何か行動をするときは思いっぴきだけでなく、他者への配慮などをした行動をするべきだと思いました。
私は今までどちらかと言うと、チームを引っ張っていくタイプでした。しかしリーダー塾では、リーダーシップを率先してとって行動する人が沢山いて、私は自然とついていく立場になりました。初めてリーダーを支える側に立った時、正直困惑しましたが、自分を客観的に見る事で、リーダーだけではなく、リーダーを支える側についても学び、実践する事が出来ました。
私はこの2週間で「リーダーとは何か」を学びたいと思い、参加しました。自分がなぜリーダーを務めた時に失敗してしまったのか、どうすればよかったのかを学びたいと思ったからです。リーダー塾で50%ほど達成できたと思います。しかし、残りの50%はまだ行動に移せないと解決したとは言えないので、今活動している学生団体で学んだことを生かしていけたらと思います。
リーダーのような役割を今までほとんどやってこなかった私が学級委員に立候補した。その仕事を通して全体を見渡す力や自分の主張を通す力などを培うことができた。私は、小学生のころまでは主張が強く、どんなことにも関心をもって行動に移すような子どもだった。このリーダー塾に参加して、本来の私のような活発さを少し取り戻すことができたことを心から嬉しく思う。
力や発言力が身に付いたと思う。講義での質疑応答のとき、競ってみんなが手を挙げている姿を見て、自分も物怖じせずに挙げようと思ったら、いつのまにかどんどん手を挙げるようになった。また、それを通して、人の話をしっかり聴く力がついたと思う。まだ途中で他のことを考えてしまったりする場面があるので、授業でも、絶対に質問を見つけるというくらいの気持ちをもって臨みたい。
自分の考えを発表する時、まず、論点から先に言いそこから説明や証拠を付け加えると、言いたいことがよりよく伝わり両者に時間と手間を省くことができると学びました。
自分とはこういうものだと思いつけてしまっていたということに、沢山の場面で気付かされました。例えば、新しい仲間を作るとき、自分は人とコミュニケーションを取るのが得意だと思っていましたが、なかなか自分の思いを上手に伝えられず、とても悔しい思いをしました。これをバネに大人になっても諦めず、コミュニケーションを取れる人間になりたいと思いました。
「俺はスポンジ！今ある全てを吸収する！！」が2週間の目標だった。自分の興味関心に関わらず、どの先生の講義も仲間の話も真摯に聞き入れることができた。そのおかげで今は国際紛争の問題、環境問題、ジェンダー問題、経済の問題など様々な分野にアンテナを高くして情報を得るようになった。

(4) 塾生の今後の課題

塾を通し、多くの塾生が目を見張る成長を遂げたが、以下には塾生が今後さらに強化すべきと思われる課題を挙げたい。全体を通して、どの塾生も、事務局や担任、学生リーダーが注意をすると素直に話を聞くことができる。誰しも間違えはあり、失敗することもある。失敗自体が問題ではなく、次にどうするか、何が足りなかったのか、今の課題は何なのかを考えてほしい。現状に満足せず、リーダー塾での経験を活かし、より広い世界で羽ばたいてほしいと考えている。

例年、塾後レポートの締切に遅れることなど「計画性」が課題として指摘されてきたが、今年はそのようなことはなく、ほとんどの塾生が提出物等の締切を守ってくれた。塾生の全体的な意識の高さに驚かされると同時に、大変嬉しく思う。

合宿形式での開催時、各クラスのまとめ役となる学級委員を決める際には、積極的に立候補があった。また学級委員以外でも、クラスの中で与えられた役割に対して、意欲的にこなしていた塾生も多かった。アジア・ハイスクール・サミットの議論でも、例年よりクラスの人数も少ないためか、それぞれがしっかりと考えることができていたようであった。

しかし、オンライン形式へ切り替えた後、積極的に参加する塾生と、そうでない塾生がいた。自分が何をすればクラスのためになるのか、考えが及んでいないようであった。オンライン形式になり、講義で講師の先生への質問をする塾生が固定されてきたのも残念であった。リーダーを志す者として、今、自分が何ができるのかを考え、能動的に動く力を身に付けてほしい。また、与えられた役割を全うするだけでなく、更にもう一步踏み出す勇気を持ってほしい。

また今年は塾開始前からPCR検査キットを送付したり、健康観察を行ったりするなど、塾開始前の感染対策も非常に重要であった。しかし、PCR検査キットの送付先の郵便番号、住所、電話番号などを間違えて事務局に提出している者が少なからずいた。PCR検査での陰性証明が塾参加の絶対条件となるため、確実に正しい情報を入力するよう呼びかけたにも関わらず、非常に残念であった。間違えた情報を入力した塾生一人ひとりへ確認するのに手間取り、PCR検査キットの発送に非常に時間がかかった。PCR検査日を間違えてしまった者もほんのごく一部であったがいた。(結果的に塾開始直前の陰性確認には間に合った。)また、塾開始2週間前から塾生と同居家族の健康観察をお願いしていたが、忘れる者もしばしばいた。忘れていた者に毎日電話をして検温をリマインドする業務は非常に骨の折れるものであった。

1人の体温や1人のPCR検査結果が塾開催に大きく関わるという意識を持って、事前準備にも望んで欲しかった。塾生には今一度、締切や書類を丁寧に見直すなど、相手の立場になって物事を進める人になってほしい。間違った情報を入力してしまうことや、日にちを間違えることがどれほど影響を与えるのか。これから受験や就職活動を控える塾生には、社会に出る前にそのことについてしっかりと考え、自分のためにも、周りのためにも、意識を改めてほしい。

繰り返しにはなるが、塾期間中は塾生は非常に感染対策に協力的で、それぞれ自分ができることに努めることができていた。それだけに、事務処理の正確さ、丁寧さに欠ける行いの改善を期待している。

卒塾後の活動

卒塾後、IN・COM株式会社の大嶽一省様のご厚意で塾生はオリジナルネッピーをデザインし、缶バッジにさせていただくことになった。リーダー塾の集大成として、形に残るものにデザインした経験は塾生にとっても非常に楽しかったようで、喜びの声が届いている。大嶽様のご厚意に深くお礼申し上げたい。

卒塾してから約1ヶ月後、塾生とその保護者、学校の担任の先生を対象に事後アンケートを実施した。塾生本人にはリーダー塾での経験を振り返ってもらい、保護者と担任の先生方には塾生の参加後の様子を第三者の目線から見ていただく。塾生の成長や変化を様々な角度から知ることにより、卒塾生のフォローアップや、より魅力ある塾運営のために役立てることが狙いである。(巻末参考資料①～②参照)

ここでは、塾生への事後アンケートから「卒塾後の活動」を一部紹介する。卒塾してすぐに活動している塾生も多く、行動力には目を見張るものがある。卒塾生達は今、全国各地で目の前にある課題をしっかりととらえ、自分の出来ることから挑戦を行なっている。今後も事務局は、卒塾生の活動を出来る限りサポートしていきたい。

【学生団体・ボランティア】

塾が終わってから、アジア学生交流でつながったインドの女の子に日本語を教えることになり、彼女のレベルに合わせた教科書を作っています。
地元の医療分野での問題を解決する活動をしています。
佐賀県武雄市の豪雨災害ボランティアに参加しました。
「大恩寺、ベトナム駆け込み寺との交流会」を企画した。日本で行き場を無くしたベトナム人にご飯や寝床を提供し、新しい働き場所を探す手伝いなどを行っている「ベトナム駆け込み寺」は無料でやっているということで、お寺さんはとても苦しんでいるとテレビで見た。その情報しか知らず何ができるかわからなかったのが僕は実際にお寺に訪れた。住職さんと話をさせてもらい、大恩寺にいるベトナム人は、日本の若者と交流の機会がないと知った。僕たち若者は、お金をたくさん集めることはできないが、日本の良さを知ってもらうことはできると考え、大学生と交流会を企画した。大恩寺でちょうど 10 月に薩摩いも掘りができると知り、薩摩いも掘り大会と名づけ交流会をした。一緒にいもを掘り、料理して食べて交流する会は大成功だった。これからも 2 ヶ月に 1 回ペースくらいで交流会をしようと考えている。次はスポーツ大会だ。
LGBTQ+ の団体と沼津を PR する団体に参加しています。
学生団体 peace&voice を設立しました。これは戦争経験者の声と私たちの声を繋ぎ、戦争を未来に語り継いでいこうというものです。 11 月中に団体の定例会を行う予定で、10 月 9 日に実際に戦争経験者の方との交流会を開きました。
学生団体【sept】 - 海洋ゴミについて AHS で議論したため、今は下積みとして海辺の清掃活動を開始している。僕たちの団体はアートという側面から社会問題にアプローチしていこうと思っている。この発想も元はといえりリーダー塾で配布された滝先生の著書「やらなければいけないことをやりたいことにしよう」で書かれていたことから着想している。 - アジア・ハイスクール・サミットで、SDGs の「海の豊かさを守ろう」について取り組んだため、地元で清掃活動をした。また、同じクラスの人と協力して海洋ゴミ問題をテーマにした絵を描いた。
ボランティア団体【Get CHANCE】 - 教育格差を是正することを目的に、無償でオンラインの塾を提供しようと日々取り組んでいます。現在僕を含めて 27 人で、全員リーダー塾生で設立し、活動しています。団体理念は「Get CHANCE は現状の日本の教育にメスを入れ、創造性溢れる未来志向の人材を育成します」。約束は「・未来へ夢を繋げます・対話を大切にします・その子にあった方法で勉強の場を提供します・バックグラウンドに関係なく全ての人に教育を提供します」。 - 私は主に予算や、クラウドファンディングのためのプレスリリースを送る企業などを決めたりしています。今は生徒も集まっていますが、様々な分野の勉強をして、たくさんのことを吸収し、それを教育を受けられない人たちに教えていきたいと思います。そのためにも、自分が苦手な分野の勉強も意欲的に取り組んでいこうと思います。 - サミットでは田舎と都会、私立や公立などでシステムが全く違うことや、日本のような先進国でも教育格差が生まれているとわかりました。オンラインで主に活動するのですが生徒を集めたり先生を募集したりするためにたくさんの人に知ってもらわなければなりません。そこで担任の先生から学んだどうすれば協力したいと思われる人になるかということを忘れずにこれから頑張っていこうと思います。

学生団体【GI6bal】 ・ リーダー塾の6組で立ち上げた団体で活動している。私は企画開発部として差別をなくす世界にするために具体的にどのような製品が役に立つか考えている。月1回全員でZoom会議を行なっている。 ・ より多くの方にGL6BALの活動を知ってもらうためにも、SNSを初めとするツールで情報を広めることを頑張ります。 ・ 私たちは早速、ユニバーサルデザインと差別という点に着目し新しいおもちゃを作成しようとしています。私はこれらの働き以外にも、私たちの近くから何を始められるか考え続けたいです。 ・ 私たちは地方創生も目指し、今日本の問題とされているシャッター商店街に着目をし、「差がない商店街」の形成を目指していきます。そして商店街からできたコミュニティの輪をさらに広めるために、この活動を全国展開する展望を掲げています。 ・ ディスカッションの中でリーダー塾が終わってから続ける目標を決めたので、それを達成できるようにSNSで連絡を取り合うことを約束しました。ジェンダーや人種の差別がないトランプを作るようにしています。これからが本当に楽しみです。
学生団体【Over the Rainbow🌈】の代表を務めている。LGBTQ+の差別を無くし「誰もがありのままにいられる世界」を作るのがモットー。SNSでLGBTQ+の知識、情報を配信している。また、短編映画『明日、晴れますか』の制作をしている。LGBTQ+に特化するのではなく、そうでない人と共に描くことで、インクルーシブな未来を描いて差別防止を啓発する映画だ。今年12月、来年3月を利用して撮影、5月頃完成、オンライン上映会を開催予定。クラウドファンディングを申請中で、是枝監督に映画作成に関するインタビュー、ロケハン・北九州フィルムコミッション（ロケ地を統括する団体）とロケ地に関する打合せを行う。
学生団体【Revive Plastic】を立ち上げた。これから特に海のプラスチックを減らすため、この団体でプラスチック製品を集め、オリジナルのエコグッズ等を販売予定。
佐賀県リーダー塾卒業生のボランティア団体【佐賀デント】に参加した。
学生団体【LINDEAL】青森県を拠点に地域格差や学生格差解消のためのイベント開催など、活動を始めた。
現在、青森市の外国の方向けの病院の利用について、紹介動画を作っている途中である。
子ども食堂に参加した。
日本語ボランティアに参加した。

【リーダー塾報告会】

学校での学年集会で話しました。リーダー塾の概要、どんな人のどんなお話を聞いたか、私がリーダー塾で最も心に残ったクラス担任の先生の話をしました。人に話す準備をしている時に、私が何を学び何を考えたかを、じっくりと思い出し、考え直すことができました
1.2年生を対象とした報告会、または私は生徒会で生徒会新聞をつくることのできるそこで紹介したいと思っています。希望制にするか1.2年生全員にするかはまだ話し合っています。内容はリーダー塾がどんなことをするのか、何を目的とするのか、出来事、感想を伝えようと思っています。
文化祭で全校生徒に対して行われる演説会。
同級生皆の前で報告しました。ここでの経験、自分のなりたいリーダー像を語ることが出来ました。
知事に向けての報告会。
生徒会の友人たちに今回の事を事細かく話した。そして、本気でやりたいのなら来年申し込みなさいと伝えた。私が籍を置いている弘前市高校生まちづくりクラブの人にも、今回の感想を話した。
リーダー塾のことをよく知らない後輩や同級生に対して報告したい。学校から申し込みましたが、リーダー塾について詳しい説明がなされず、自分で詳しく調べました。少しでも多くの人にリーダー塾を知ってもらい、19期生として参加したいと思えるような内容にしたいと考えています。（現在学校と話し合い中）
私の学校では報告会のようなものがなかったため、自ら企画立案をし、成果報告会を開きました。 オンラ

イン上での開催になりましたが、20 名以上の先生方、先輩方に聴いていただくことができました。先輩の中にはリーダー塾 16 期生の方もいらっしゃいました。
県内で来年度以降に参加を考えている生徒に対して行った。日常生活の様子と講義の内容についてプレゼンをした後、7 グループに分かれて修学旅行の内容について話し合った。10 分間、地域の問題と修学旅行の案を一人一人が出し合い、その後 10 分間で内容を審議し、発表した。リーダー塾でのファシリテーターの経験がとても役に立った。

【学校活動】

生徒会長になった。(複数)
学級委員長になったり、オンライン部活を主催したりした。オンライン学校説明会の質疑応答の係になり、私の通っている学校の良さを上手く伝えられた。探求活動をより積極的に、行動的に行えている。
生徒会長に立候補して、これから生徒総会を作り上げたいと考えています。
夏休みの課題だった読書感想文で読んだ本が差別という AHS のテーマと繋がっていて、リーダー塾での体験をいかしながら書いた。最近、校内選考で選んでいただいたと聞き、読んだ先生たちにも考えが伝わったと思うと嬉しかった。私の、また一緒に深めあったクラスのみんなの考えが読書感想文という形で少し伝わり、これによって読んだ人たちに差別について考えさせることができたより嬉しいことだと思う。
学級委員になった。
リモートオープンスクール(校内)、インターハイ高校生活動推進委員(県内)に参加しました。
クラブ活動で「きのくに ICT プログラミングコンテスト」に参加する予定。
学校で行われている国際交流全てに応募した。

【その他】

地域振興のための研修に参加した。これからその研修をもとに地元でできることをする。今後実施予定なのは、全校に対しての活動報告と、地域振興の方に対しての活動報告です。
県の英語スピーチコンテストで、最優秀賞を取って、東北大会への出場権を得た。
家族に自分の思いや夢について話したことがなかったと感じたので、リーダー塾で学んだことや自分が抱えている悩み、夢をパワーポイントにまとめてプレゼンテーション形式で伝えました。日頃思っていたことが言えたり親からも普段聞けないことが聞けてすごくよかったです。
英語、特にスピーキング力を向上させたいと思い、EtonX の英語事業に参加しています。
札幌都市プレイスメイキング 公共的空間活用実証実験 「大通うえい LIBRARY」企画立案・実行 北海道の素敵な大人たちが、公共空間を面白おかしく活用しようと取り組んでいる活動に参加しました。実行委員でありながら北海道を牽引する起業家等の方にインタビューし、記事にし、厳選いただいた本を展示しました。NHK や j:com 等のテレビ番組での特集番組も放送予定だそうです。
高校生の主張作文コンクールに応募しました。
英語力を伸ばそうと思い、英検を受けた。
日本語会話プログラム IRORIO に参加した。
医学部進学に役立ちそうなイベントを調べて複数に参加した。
リーダー塾での経験をもとに弁論大会に出場した。
生理の貧困について、備前市、瀬戸内市を訪問しヒアリングをした。

7. 塾を支えるスタッフ

リーダー塾では、開塾当初から社会人によるクラス担任制度をとっている。狙いは、高校生に学校の先生ではない企業や地方自治体などで経験を積む社会人を身近な存在として接してもらうためである。例年、クラス担任は、協賛企業などが派遣してくださっている。20代～40代までの年齢も職種も多種多様な14名の社会人で構成された。7クラスに分かれて、前半後半のそれぞれ一週間を受け持っていた。前半担任は合宿形式で指導していただいたが、新型コロナウイルス陽性者が発生し、塾生が帰宅後、後半担任はオンライン形式で塾運営を支えていただいた。クラス担任は、日々の講義や議論の指導だけでなく、塾生の様々な相談にも乗っていただいている塾の要の存在である。

そのクラス担任を支える学生リーダーは、主に卒業生からなる大学生・大学院生が参加してくれている。各クラス2名の学生リーダーを配置した。高校生である塾生にとって、年齢も近くすぐ先のロールモデルとして身近な存在である。黙々と業務をこなす学生リーダーに、塾生は尊敬と憧れの気持ちを持っていた。学生リーダーは塾を円滑に運営するための重要な縁の下の存在でもある。

今年は塾開始前からクラス担任・学生リーダーに、感染対策など多くのサポートをいただいた。毎年、現地で行う事前研修も今年は福岡県在住のスタッフのみでのハイブリッド形式となった。担任の先生で福岡県以外にお住まいの方には個別に研修を実施した。今年は過去にクラス担任として活躍してくださった経験者の方から、塾に参加した感想や問題が起こったときの対処方法のアイデアなどを共有していただいた。コロナ禍のなか、塾を支えてくださった皆さまには、改めて深く御礼申し上げたい。



今年はコロナ禍の中での合宿開催となったため、事務局の中に担任経験のある特定非営利活動法人九州・アジア経営塾の市川智也さんと旅行添乗の経験豊富な大家美希さんを迎えた。また、看護師の派遣会社に依頼し、看護師2人に常駐していただいた。体調不良の塾生の対応や陽性者発生時の対応など、大きく貢献していただいた。市川さんには、アドバイザーとして事務局のサポートだけでなく担任の総括業務をしていただき、その他、塾生や講師の送迎をしてくださった福岡県の皆様、塾生対応を全般的にサポートしてくださった宗像市の皆様、佐賀県波戸岬少年自然の家滞在中に対応してくださった佐賀県の皆様、またその他の参画道県・市の皆様には心から感謝したい。

ここでは、2週間を共にしたクラス担任と学生リーダーについて述べたい。



▲ハイブリッド式での事前研修。対面で参加した担任の先生とスクリーンに映るのはオンライン参加の学生リーダー

クラス担任

(1) 概要

担任の先生は、各協賛企業を中心に各社の中堅クラスのリーダー格の社員を送ってくださるので、安心して塾生をお任せしている。今年の派遣企業・機関は、下記の通り。企業以外に、7期卒塾生で現在臨床心理士の重光咲希様も引き受けてくださった。

■クラス担任派遣企業・機関（五十音順）

株式会社麻生
学校法人麻生塾
九州電力株式会社
株式会社 QTnet
西部ガス株式会社
サッポロビール株式会社
正興 IT ソリューション株式会社
株式会社ふくや
防衛省陸上自衛隊
株式会社ミズ
学校法人立命館

クラス担任の先生方には、1クラス20名程度の塾生を担当していただいた。6月の事前研修では、先生方にリーダー塾の特徴や担任の役割を伝えていた。また、なるべく教えすぎず、塾生に考えさせてほしいという指導方針を伝え、各人の社会人経験をもとにクラスを運営するようお願いしていた。研修後も、会場やカリキュラムについて情報共有を行った。こうして、塾期間中も慌てることなく、独自の指導を取り入れながらご対応いただいた。塾生にとっては、親や学校の先生以外の大人から指導を受ける機会はない。塾生の成長のため、熱心に指導してくださる先生方の姿を見て、「こんな素敵な大人がいる」と感動し、ロールモデルとして目標にしたいという塾生も多かったようだ。社会人としての経験や知識に基づく先生方の言葉から、塾生たちは多くのことを学んでいた。

今年は途中からオンライン形式に切り替わったため、後半の先生方はすべてオンライン参加となった。現地で塾生に直接会うことを楽しみにされていた後半の先生方には、ご迷惑をおかけして申し訳なく思う。しかし、状況をご理解いただき、オンライン上でもクラスの学生リーダーと協力し、試行錯誤しながら塾生とコミュニケーションをとってくださった。

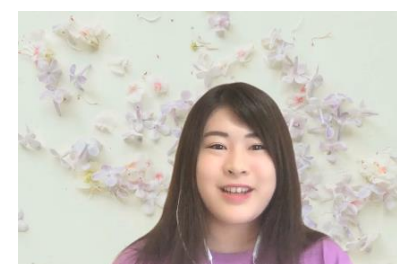
卒塾後も、先生方と塾生の間で交流が続いている。クラスによっては、オンラインで、先生も交えて定期的に集まっているところがある。また、塾生から、塾後に立ち上げた団体の報告を受けたり、受験に向けて面接指導を依頼されたりもしているようだ。今回の塾を実りあるものにしてくださった立役者であるクラス担任は、なくてはならない大きな存在だ。クラス担任の感想は、次ページの通り。



▲キャリア教育をする担任



▲塾生とのお別れ式に臨む担任



▲塾生の議論にアドバイスをする担任



▲オンラインミーティングをする担任

(2) クラス担任感想

■クラス担任からみた塾生の感想

「ディスカッション時に、誰一人取り残さない」を目標とした。一部の塾生だけで議論が進みすぎるときはブレーキをかけたり、その他の意見を求めるよう司会者に指示したりした。他の意見を否定する塾生には「まずはその意見をよく聞いて、そういう考え方もあるということを理解してみよう」と促した。
塾生は思っていたよりも何倍も謙虚で、お互いに対して優しくかった。もっとお互いを敵対視し、意見の潰し合いのようなことをするのかと想像していたが、どんな意見も否定せず、良いところは褒めあう姿が見られた。考え方としては意外と型にはまっていて「早く答えにたどり着きたい」気持ちが強いと思った。
最初は自分の意見を出して活気があったが、時間がたつにつれて軸がぶれてまとまらない状況に陥っていた。しかし、塾生のリーダーがしっかりコントロールしてまとめ上げたことは素晴らしいと感じた。
将来の明確なビジョンや豊富な知識を持っている点では優れた塾生が多かったですが、普段の生活や行動においては至らぬところもあり未熟さを感じました。今回はイレギュラーな事態が発生しましたが、その中で各々が自分で考え行動できていたことは素晴らしいかったです。今後の成長に期待です。
「学び」への意識の高さに私自身も刺激をもらいました。また待機中も周りへの気遣いや感謝を体現する行動（手紙や食べ終わった弁当の容器を重ねる、ペットボトルのラベルを剥がす等）は胸を打たれました。イメージと違っていた点は（時代の流れもあると思いますが…）繊細でスマートな印象が強く、貪欲さや失敗を恐れずにチャレンジする姿勢があまり見られなかったことは少し意外でした。
リーダー塾に参加する子は、比較的家庭も裕福で、活発な子が来ると予想しておりました。しかし、子供たちは心の奥に、過去のトラウマ、不安、悲しい出来事を抱えていることもあると分かりました。感受性豊かな高校生ですので、ちょっとしたことで心の器が壊れてしまうなと感じています。今の子には、小さな成功体験を積み重ねさせて、自信を持たせることが必要と考えます。
非常に頭の良くてまじめな子が多かった。また、多様性やジェンダーなどに取り組みたいという生徒は多くいたが、なぜそれが必要なのか、それに対してのはっきりとした意見を持っている生徒は少なかった印象だ。全体的に突き抜けるというより組織としてレベルアップしていくというリーダーが多かった
一人ひとり、真剣に日本・世界の将来について考えており、大変感銘を受けた。当初は学校の先生や親から言われて受動的に参加したような塾生も多いのではないかと考えていたが、能動的に講義や議論に参加しており、イメージが大きく変わった。一方で、全員が真剣に考えているからこそ、なかなか議論がまとまらず先に進まない場面も見られた。今ある問題に関心が高い塾生が多かったが、背景にある歴史について知らない塾生も少なくなかったため、講義によって歴史を学ぶ強い動機付けがなされたように感じた。

■クラス担任の指導方針、クラス運営

塾生の健康状態に留意し、時間管理のメリハリをつけるようにしていました。特に後半はオンラインでの取り組みであったため、オンライン疲れにならないよう、塾生の様子を伺いながら進めたつもりです。
「ここできていないからこうしなさい」というような指導はゼロ。逆に素晴らしい人なのに、自信を持ってない塾生がいたので、もっと自信を持って、あなたは素晴らしい、と伝えることを心掛けた。
自主性を尊重する指導を意識して取り入れました。チャレンジする気概のある生徒には、上手くいくこといかなかったことも含めて経験の糧となるように気にかけて関わりました。また、担任として心理的安心感を与え、塾生が積極的にチャレンジできるように、温かく見守るという姿勢（表情や前向きな声かけ）を表明することを意識しました。指導の課題としては、「褒める」「認める」ことを意識して取り組むあまりに、「より良くなるための改善点を提示する」ことはできなかったと感じています。しかしながら、塾に参加してみて同じ年代の優秀な仲間と触れ合うことや一流の講師からの新たな視点の提供によって、自然と挫折や自信の低下を感じることもあるかと考えていますので、これからも「認める」「褒める」の軸はぶらさずに、ここぞという時に「改善点を提示できる」ようにしていきたいと考えています。

後半担任だったため、人間関係ができ始めており、発表する人間がほとんど決まっていたので、全員参加、皆が意見を出し合い同じ方向を向くように気を付けました。オンラインでは塾生とのコミュニケーションがとりづらく細部の反応がわかりづらかったため、なかなか話を聞いてやれなかったです。
心理的安全性を生み出す環境を整えること、そして心理的柔軟性がある考え方を育てるように心がけた。
能力・モチベーションが高い塾生だったので、私が教えたり、指示したりなどを最大限に減らすした。そのうえで、考えのベースとなるために抽象的な議論をあえて塾生に考えてもらうように仕向けた。
担任としては初日から（性別問わず）下の名前呼び、塾生に壁を感じさせない、気軽に相談できる関係を築けるよう行動した。発言が少ない塾生や馴染めていないと感じる塾生には積極的に声をかけた。
<個性を尊重する>…AHS の討議の時間に 1 人の塾生の意見を多数決という理由で反映せず議論を進めていました。HR の際に少数派の意見の大切さ、その意見の中から取り入れられる部分が無いかな等検討すべきではないか？という点について学生リーダーとともにコーチングを行った。少数派に回った 1 人の塾生の振り返りシートには「これまでの学校生活でも少数派に回ることが多く、自分に自信が持てなかったが、担任や学生リーダーの方に肯定してもらえて嬉しかった」との記載がありました。その後、クラスのリーダーとしてリーダー塾期間中に成長していった姿が強く印象に残っています。
オンラインとなると、人間関係・信頼関係を築くのが難しいと思ったので、フリーの懇談部屋を開設して、いつでも誰でも自由に話ができる「場」づくりを行いました。とりとめもない話をしに来てくれる塾生もいて、結果的にはそこでの話し合いがきっかけとなって AHS の軸が出来たので良かったと思います。

■クラス担任としての感想

向上心の強い高校生に触れることができ、非常にいい刺激になった。普段あまり何も考えずに仕事に忙殺されている感覚があったが、自分が何のために仕事をしているのかということを振り返るいい機会になったと思う。また、改めて英語や歴史の勉強をしたいとも思った。印象に残った講義は、一国の長を務められたマハティール氏の講義で、自分も世界市民の一員として生きていかねばならないことを再認識した。
高校生は面白いと思いました。ほとんど大人ですが、やはりまだ子供で、これから何にでもなれる、なんでもできる可能性を持っているとても貴重な存在です。今後私の仕事として、高校生に関わることをしたいという思いがリーダー塾以降ずっとあります。これは仕方ないのですが、塾生の一番の関心事が、「いい大学に行くために勉強すること」なのは少し気になりました。勉強することは大事だと思いますが、多感な時期にこんなに広くて面白い世界を知らずに、勉強ばかりさせる教育はいかがなものか…と思いました。このリーダー塾は、まさに「広くて面白い世界を知る」ことなので、今後もずっと続いてほしいです。
今年の塾生は「差別」や「ジェンダー」に造詣が深いように感じました。その影響を受け、私もジェンダー関連へのアンテナが張られ、情報を集めるようになりました。かつてはそういった内容を周りの人間とともに笑いのネタにすることもあったのですが、今後は“きちんと向き合い、きちんと理解する”ことに努めようと思いました。この歳になっても多くのことをリーダー塾及び塾生から学ぶことができ、本当に幸せです。
大きな学びは、自分の立場や役割を超えて積極的に関わっていくことの大切さを感じました。これまでの私は、目標の達成のために組織に貢献するには、自分の立場と役割を認識して、役割を担うだけの個人のスキルを磨くことと、組織として混乱をきたさないように自分の立場を超えた動きをしないことが、大切であると考えていました。しかしながら、予想もしなかった良い結果や突破口を見つけて想像以上の結果を導くためには、自分の可動域に制限をかけずに取り組むことも大切だと気づくことができました。
今回自分の人生観をこども達に伝えるにあたり、今一度自分の人生を振り返ることができました。自分がどこでつまずき、悩んで、決断してきたのかを伝えることで、大きな影響を与えられたように思います。
スタッフの皆様の有事に柔軟に対応する姿にリーダーの本質を学びました。波戸岬では担任の先生内でも強みを活かした主体的な行動（全体統括、IT・体温計の入力フォーム作成、力仕事など）がとれたことに非常に感動と刺激を頂きました。

塾生には「教えたこと」よりも「教えられたこと」の方が多かったように思います。リーダー塾後は、見識を高めたいという意欲が高まり社外セミナーに今まで以上に参加するようになりました。
やる気に満ち溢れ本気で世界を変えようとしている生徒が多く、日本を作るのはこのような若者達だと強く感じた。人生の先輩として塾生が社会に出た時に少しでも強みを活かし活躍できる場を作りたいと感じた。
自主性の大切さを感じました。活発に意見を交わし行動する塾生や、率先して自分にできることを遂行される他の担任の方々、深夜まで準備をしてくださったスタッフの姿を見て、自分は社会人になり良くも悪くも組織の人間になっていたと改めて思った。やはり波戸岬での経験は印象に残った。それぞれができることを探して他人を思い行動している姿は素晴らしいと思った。
前向きな学生たちがこんなにいるんだと驚いた。感じたことを職場でも伝えて刺激になっている社員もいる。

■クラス担任に対する塾生の感想

先生と生徒という上下の関係というより、一人の人間として接して下さったところがとても良かったです。印象深いエピソードとしては、キャリア教育です。様々な生き方が知れて良かったです。
距離感が近い。そして社会、大人の世界を知っている。だからこそ一つ一つのアドバイスを真摯に受け止めることができた。先生からは強い意志、そしてそれをやり遂げるための努力の大切さを学びました。とても先生の人柄に憧れています。直接のご指導を受けることができたなら本当にもっといろいろな感じていたんだろうな…と思うのですが、心から尊敬できる方です。
自身の経験を生徒たちに伝えて役立てて欲しいという強い思いが感じられました。私たちの話し合いがうまくいかないときには、答えをあえて言わないようにヒントを出すような形で話をしてくれたことが印象的です。アジア・ハイスクール・サミットの議題決めで、時間の都合上、妥協してしまいそうになりましたが、何について議論すれば自分たちは全力がだせるかという点で、議題決めをすることができました。
「今まで歩いてきた道は後ろに進んでいる訳じゃないし、これから先も前に進んでいけばいいから、応援しているから」と言ってくださった。辛いときはこの言葉を思い出して前を向いて進んでいきたい。
私のクラスでは毎日日記を書いている、その日記に対する返事の中の言葉に感動した。
私にとって、リーダー塾の担任の先生方は第二のお父さんでした。印象に残ったのは、塾生が1人である時に話しかけにいった、学校や将来の夢の話を通して距離を縮めてくれた先生の姿です。なかなか、自分から話しかけるのは勇気のいることだと思います。私もそういったことができる大人になりたいです。
私の学校は50人クラスなので、一人一人を見ることが難しい。リーダー塾の担任の先生は人生で初めて私自身のことを見てくれる大人だった。より成長できるように見守ってくださった先生方は本当にかっこよかった。先生が、喋れない子もクラスで話せる工夫を、というアドバイスをくれた。当たり前のことではあるが、客観的に自分を見られるきっかけになったアドバイスだったし、私を大きく成長させてくれた。
佐賀で私たちが待機している時に、暑い廊下を重い台車を引きながら、一人一人に笑顔をやさず、お弁当を配っている先生の姿は今でも忘れられません。また、塾終了後先生から届いたお手紙は私の宝物です。

(3) 評価点、課題

前半担任の先生方には、精神的にも体力的にも頼り切ってしまった部分があり、例年以上に業務量が増えてしまった。しかし、例年学生リーダーに業務が集中していることから、クラス担任にもっと仕事を振ってもらってよいというご意見をいただくが、今年そのようなご意見はほとんどなく、クラス担任と学生リーダーの業務量のバランスは改善が見られたと思われる。

一方、オンラインに切り替えてから、後半担任の先生方と塾生が個々にコミュニケーションをとる時間を増やしてほしいとの声や、オンライン上での関係を築くにあたり、友達ではなく、指導する側としてどのように関わればよいかを明確にし、スタッフ内で価値観をすり合わせる必要があったともご意見をいただいた。オンライン上でのコミュニケーションは今後の課題である。

学生リーダー

(1) 概要

学生リーダーは卒塾生を中心とした大学生ボランティアで、塾運営の一翼を担っている。クラス担任と塾生の橋渡し役となりクラス運営をサポートする「クラス担当」と事務局の仕事や録音・音響関係を行う「全体統括」、また「全体統括」と兼任して「アジア・ハイスクール・サミット担当」はアジア・ハイスクール・サミットの企画・運営に携わった。今年は全国から13名の大学生・大学院生が集まった。「全体統括」と「アジア・ハイスクール・サミット担当」の学生リーダーにも各クラスの副担当としてクラス運営にも携わってもらった。そのうち1名の学生リーダー経験者には、2クラスの副担当をお願いした。また、関東在住の1名の学生リーダーにはインターンとして塾開始前から運営に携わってもらった。

■学生リーダーの所属校（五十音順）

学校	学年	卒塾期	担当
慶應義塾大学	4年	13期	クラス
慶應義塾大学通信課程	2年	15期	クラス
西南学院大学	3年	15期	全体
東京大学大学院	1年	12期	AHS
東京外国語大学	4年	12期	AHS
東京学芸大学教職大学院	1年	—	AHS
東京理科大学	2年	14期	クラス
一橋大学	2年	16期	クラス
法政大学	3年	14期	クラス
松山大学	3年	14期	クラス
立命館アジア太平洋大学	3年	15期	全体
立命館アジア太平洋大学	2年	15期	クラス
立命館アジア太平洋大学	2年	16期	全体

学生リーダーの募集は、全卒塾生を対象に送付したニュースレターに加え、卒塾生交流SNS、今年から開始したInstagramでも行った。また、大学生のボランティア募集を行なう一般サイトでも募集した。学生リーダーは大学2年生以上の大学生および大学院生を対象としている。学生リーダーの選考は書類とオンライン面接を行った。卒塾生が12名、非卒塾生が1名であった。オンライン授業の学生や大学院生、大学4年生など授業の都合が付きやすい学生には塾開始数日前から福岡県に入ってもらい、準備に協力してもらった。その中で、緊急事態宣言およびまん延防止措置発令地域に居住する学生リーダーには、ホテルで数日間隔離生活をお願いした。その間、同じく隔離中であった塾生とオンラインで繋がってディスカッションをするなど精神的にサポートしたり、事務局からの書類整理を率先して行ってくれた。福岡県周辺に居住する学生リーダーには、宗像市グローバルアリーナにて、抗原検査会場の設営などをお願いした。塾生同士の距離を1メートル以上確保しながら机や椅子を設置するなど、体力がいる作業も多くあった。学生リーダーには塾開始前から塾後まで、塾生の健康管理、事務局の手が届かない細やかな作業、力作業、書類整理など多くを支えてもらい、精神的にも体力的にも運営になくてはならない存在であった。塾終了後も、学生リーダー主催の進路相談会を実施するなど、塾生との交流は長く続いているようだ。学生リーダーの献身的な協力で心から感謝申し上げたい。



▲手指消毒と手袋をして
食事の配膳を行った



▲塾生を撮影している様子



▲休憩時間は椅子や机の
消毒作業を行う



▲卒塾前夜祭をサポート
する学生リーダー

(2) 役割と今後の課題

学生リーダーに求められる姿勢としては、次の4点を重視している。

- ① 塾生を指導する立場として、塾生の模範となるような行動ができること
- ② スタッフ間のチームワークを大事にし、高め合える人材であること
- ③ 塾の内容や方針は毎年進化するので、過去にとらわれない思考をもつこと
- ④ 主催者の一員という自覚をもち、主体的に責任を持って行動すること

事務局をサポートするため、学生リーダー経験者が中心となって、塾運営における中核を担ってくれた。クラス担当は担任の先生方と話し合いながら、HRの運営を手伝っていた。クラス担当の学生リーダーは塾生と接する機会が多い分、常にゴム手袋をはめ、アルコール消毒スプレーを持ち歩いて、塾生のために行動してくれていた。今年初めてハイブリッド式での開催となったため、機材・設備を担当した全体統括担当の学生リーダーには非常に助けられた。事前にその日のスケジュールや会場を把握して、どのように動けばスムーズにオンライン・オフライン双方の塾生がコミュニケーションをとれるか、事務局と一緒に考えながら準備をしてくれた。事務局も初めてのことであったが、全体統括担当の学生リーダーが、今回のリーダー塾の基礎となる大切な部分を支えてくれた。後半担任はオンライン形式のみでの参加となったため、AHSの概要を掴みにくかったようである。そこでAHS担当の学生リーダーは担任の先生のミーティングにも参加してどのように進めるべきかなど、意見をもらったり、塾生の様子を説明したりしながら塾のメインイベントであるAHSを運営してくれた。

一方で、精神面の未熟さ、幼さが見えることもあった。塾生が見えない所では気が緩んだ行動をしてしまう学生リーダーもいたようであった。特にオンライン形式に切り替わってから、しばしば業務連絡を怠ってしまったり、講義とは関係ないことをしていた学生リーダーがいた。業務に関しては、事務局の明確な指示が出ていなかったことも問題であるが、指示をするまで動こうとしない姿が当初見られた。例年の書類管理やミーティングの議事録作成だけでなく、塾生の体調管理をまとめたり、消毒作業など表に出ない作業も多かった。事務局の反省点でもあるが、一部の学生リーダーにそのような新しい業務の負担が偏り、疲労している者とそうでない者がいた。自分の担当だけでなく、他の担当の業務を手伝うなど周りへの配慮ができる人になってほしい。チームワークが大切であると常々伝えていただけに残念であった。しかし、彼らが一貫して「塾生のために何ができるか」と考えながら行動していた姿は、塾生にとって素晴らしいロールモデルになったようである。塾生の感想の中には「自分もいつか学生リーダーになりたい」とあり、非常に嬉しく思った。

(3) 学生リーダー感想

■学生リーダーから見た塾生の感想

人に優しい、寧ろ優しすぎる。コロナ禍で制約が多く塾生から運営や学生リーダーに対しても不満も出るかと思っていたが、逆に感謝されてばかりだったことに驚いた。ただその優しさが、AHSにおいては相手と意見が違っても言えないため議論が進まないことに繋がっていた。相手の意見を建設的に批判することは、相手の人格を否定することとは違うということを理解すると、一層成長が見込まれるように思う。

よかった点は皆が臨機応変に対応してくれていたことだと思います。コロナ禍であったため予測していなかったこともあったもののスタッフの動きを見て、塾生たちにできることを考えている様子でした。改善点としては意識の低い点もあったことです。黙食は食事委員の徹底した呼びかけがあり、改善されていましたが、講義の合間の塾生同士での交流では、注意されないと間隔をあげないなど、少し残念に思いました。塾生同士の交流を楽しむばかりに周りが見えなくなることもあったのではないかと思います。

良かったこととしては、コロナ禍という他人との接触が厳しい状況のため、塾生の多くが例年よりも人との出会いが貴重だと考え、クラス内での仲が深まっていたこと。黙食、黙浴が基本だったため、他クラスとのコミュニケーションを取れる場所が少なかったことは残念であった。
クラスの塾生に対して感じたことは、仲が良く、やる時はやる、楽しむ時は思いっきり楽しむという雰囲気です。今後成長してほしいことは、他人に頼りすぎず、一度自分で考えてから行動するという癖をつけたリーダーになってもらいたいと感じました。分からないことを聞いてもらえるのはとても嬉しいですが、他人に言ってやってもらえるのが楽だからという姿勢の塾生がおり、少し気になりました。またその時に考えることの大切さを塾生に伝えておくべきだったと感じました。
全体として、人と人との関わりが制限されている状況下で対面でのリーダー塾を経験したからこそ、実際に人と会って話し、感じることの重要性を感じているようだった。クラス内では、最初はリーダーシップを発揮したいあまり自分中心な言動で空回りしているようだった塾生も、後半になるとクラス全体がそれぞれの個性を生かしてまとまるように心がけて声をかけていた姿を見て、2週間での成長を感じた。
良かったこと…適応力の高さ。今年は帰宅日を早めたり、スケジュールを大きく変更したことなどから日々予定外の指示を出していたにも関わらず、大きな混乱もなくその都度対応していた点。 成長してほしいこと…対面で開催できた日数が少なかったことが原因として考えられるが、クラスを超えてリーダーシップを発揮する塾生が例年に比べて少なかった。また、オンライン開催になってから、気が緩んだのか講義中の態度が気になる塾生がいた。講師の方々は時間を割いて高校生のためにお話ししてくださっていることを忘れないでほしい。

■学生リーダーの感想

大学卒業後の進路を決めているこの時期に学生リーダーができて本当に良かったですし、18期学生リーダーをできたことを心から誇りに思います。塾生の時、学生リーダーは「楽しそう」というイメージが強かったです。しかし実際は塾生の目には入らない作業が多く、想像以上に大変なお仕事でした。塾生の時に成長できたのは、そのような環境を作ってくれた運営スタッフの方々の努力があったことを恥ずかしながら今回知りました。心身ともに自分への挑戦であったものの、私も成長させてもらったリーダー塾に少しでも返せるようにと考えて最後までやりきることができました。
自分が理解していることを他人が理解しやすいようにして説明することの難しさや、自分の指示が塾生に大きな影響を与えるといったことなど、責任感を感じました。
高校生のうちに自分と向き合う機会があることは大切だと改めて感じた。
学生リーダー、塾生、担任の先生など本当に素敵な人に出会えました。また、塾生から自分達が吸収することも多く自分達の成長にも繋がりました。塾生はみんな素敵な子達ばかりで、優しい子が多かったです。その一方で、優しすぎるあまりに衝突を避けている様子も見られました。衝突することは、悪くないと思ってもらえるような環境を作っていけたらなと感じました。
リーダー塾への見え方が大きく変わった3週間でした。塾生時代は楽しい思い出だけの14日間でしたが、その時は塾を運営するためにこれだけ多くの人が夜遅くまで準備した結果で作られているものだというのを分かっていなかったと思います。例年200人近い高校生を14日間もサポートするこの塾は、まさに社会の縮図です。社会人になる前年に学生リーダーとして参加できて良かったです。
塾生の真剣で純粋な眼差しを見て、私自身が忘れかけていた心を思い出すことができました。卒塾して3年が経ち、大学で学び、アルバイトを経験し、就職活動を始め、高校生の時に比べて見える社会は広がりましたが、現実を見るようになり、故に忘れかけていたものがありました。
学生リーダーの業務は想像以上で、正直言って大変でした。しかし、塾生が一日一日成長していく姿を見ると「頑張らないと！」となり、睡眠時間を削ってでも塾生のために仕事をすることができました。

■学生リーダーに対する塾生の感想

とても身近でなんでも話せるお兄さん、お姉さんのような存在でした。しかし、クラスの話し合いでは主観的にはならず、いつも客観的な視点から批評をしてくださいました。この存在は AHS ではとても大きな役割を果たしてくださったと感じています。学生リーダーの二人が最後の HR の際に二人が撮った写真で動画を作ってくれたことがとても嬉しかったです。
私たちと年齢が近かったので、大学生活での自分の将来像や目標を持ちやすくなりました。
これから控える大学受験やその後の大学生活について初めて生の声を聞くことができ、とても良い経験になりました。それぞれ異なる学問を専攻されているので色々な立場の話を聞くことができて良かったです。
とても優しくたくさん一緒に話し、包み込むような温かさがありました。ディスカッションに臨む姿勢やコロナ対策などについて、真剣に注意してくれたり私たちに考えさせる機会を与えてくださいました。私にとって姉や兄のような存在で、学生リーダーなしではリーダー塾は成り立たなかったのではないかと思います。
年齢が近いこともあり、何でも相談できるお兄さんとお姉さんのような存在でした。レクでは全力で盛り上げてくれ、AHS でつまづいてしまったときは私たちに的確なアドバイスをし、影で支えてくださいました。最終日には思い出の詰まった動画をプレゼントしてくれ、思わず涙してしまいました。学生リーダーには、感謝の気持ちでいっぱいです。私も数年後、学生リーダーとしてリーダー塾に恩返しをしたいと思います。
話し合いに行き詰まった時、少し助け舟を出し、私たちの話し合いがより良いものになるようにしてくださいました。書禅の時に描いた作文一人一人にコメントをくださったことも心に残っています。
アドバイス程度のことしかいつも言われなかったからこそ、自分たちが主となり動くことが出来ました。一方で、間違ったことをしたときに怒ってくれたことは凄く印象深いです。
クラスにとって相談しやすく、みんなが気づかず忘れがちなことに気づき注意してくれる、また行き詰まった時、物事を柔軟に考えるために少しリラックスさせたり、アドバイスをくれたりしてくれる役割だったと思います。良かった点は親身になって進路や悩みなど、気軽に相談に乗ってくれて、様々な体験を聞いたことです。1 番印象に残っているエピソードは自分自身も常に悩みながら行動しているとおっしゃっていたことです。失敗したなと思うことも素直に教えてくれ、エールを送ってくれたことが心に残っています。
学校の先生方は、もう大人なんだから、とあまり生徒を叱りません。私は一年以上もそのような環境にいたため、叱られることがほとんどありませんでした。しかし、リーダー塾では、ダメなことはダメだ、とまだ会って数日の私たちに向かって、真剣に叱ってくださいました。そう言われたときから、私たちのクラスは確実に気持ちの面で変わり、みんなが同じ方向を向くことができました。
学生リーダーは私にとって模範となる先輩という感じがしました。私が目指すべき理想像にとっても近いし、勉強の仕方なども沢山教えて貰えてもらったり、進路のことなども知れて良かったです。
良かった点は、大学の事を聞いた事。講師の先生方とは違う分野で、なおかつタイムリーに学んでいる学生の方と色々な話ができたのは、すごくわくわくしたし、楽しかった。
臨機応変に対応すること、ポジティブの大切さを学びました。私も皆さんのような誰かのために行動できる、そんなリーダーになりたいです！次は、学生リーダーとして参加したいです！



8. カリキュラム

(1) コロナ禍や地球温暖化による異常気象など想定外の時代に聞かせたい講師の講義

リーダー塾は、毎年、それぞれの専門分野の第一人者による講義が大きな魅力となっている。今夏は、コロナ禍のみならず、地球温暖化による集中豪雨、巨大台風、洪水など地球を襲う想定外の自然現象に世界中の人々が苦しんだだけに、講師には、それぞれの専門分野の講義に加えて、今後次世代がリーダーとなる時に、いかに立ち向かっていくべきか、その矜持を話していただいた。

研究者の立場から、久世暁彦・宇宙航空研究開発機構（JAXA）GOSAT-2 プロジェクトマネージャーは「地球規模の課題は一つの専門分野だけでは解決できない。幅広い好奇心があれば次の一手を考えることができる。理系、文系に分かれるのではなく二刀流で」▽山本太郎・長崎大学熱帯医学研究所国際保健学分野教授は「人間が自然の一部である限り、新たな感染症の出現はなくなる。感染症によって人類は多くの困難を抱えたが、感染症に対する免疫を有することで社会は強くなる」▽室伏きみ子・お茶の水女子大学名誉教授は「学校生活で確かな学力と人間力を身につけ、社会課題の解決に向けて多角的に探究する方法を習得し、社会にとって有為な人財になることを目指してほしい。失敗を恐れず、やりたいことに挑戦することが大切だ。失敗は自分の心と周りへの思いやりを鍛えることにつながる」▽笠谷和比古・大阪学院大学法学部教授は「伊藤博文や井上馨は、イギリスと戦争してからでは留学する機会がなくなり、外国の優れた技術を学ぶことができなくなってしまうと長州藩の下関での外国船砲撃直前に、英国留学を企てた。このような戦略的思考こそが、日本の近代化を推進した。このようなしたたかな思考法を学んでほしい」と塾生に語りかけてくださった。

医師の立場から、鎌田實・諏訪中央病院名誉院長は「コロナを通して価値観は大きく変わっている。相手のために自分は何ができるか考えられる人間になってほしい」とお話しいただいた。

ビジネスの立場から、滝久雄・㈱ぐるなび取締役会長・創業者は「やらなければならないことを、やりたいことにするには、志を高く持つことが必要だ。その志とは、リーダーになるという使命感である。分からないことが出てきたら『矛盾箱』にためておくといい。どうしても解決できない問題に直面する時はあるが、立ち止まらず、次に進み、勉強して様々なことを経験すれば途中で『矛盾箱』に入れたことに対する答えが見つかることがある」▽小手川強二・フンドーキン醤油㈱代表取締役社長は「異なる文化を認め合う国際交流の機会が重要だ。海外の人とお互いに理解を深める経験をしておけば、将来的に食糧不足など国際問題が起きた際に、自国だけ良ければいいとはならず、お互いに合意に達することができる」▽村岡浩司・㈱一平ホールディングス代表取締役社長は「人間は、長い間同じ場所にいると、内側と外側という感覚になる。自分の住んでいない地域である外側は他人事のように感じ、自分のいる内側だけ良ければよいと思うようになる。この内側と外側の壁をなくすことで、全体のことを考えられるようになり、社会課題に目がいくようになるだろう」▽田口一成・㈱ボーダレス・ジャパン代表取締役社長は「誰一人取り残さない社会をつくるために、非効率だからと放置されてきた人や地域も含めた優しい経済をつくる。今こそ、私たちビジネスマンがその社会づくりに真剣に取り組むべき時だ」▽佐々木久美子・㈱グルーヴノーツ代表取締役会長は「テクノロジーは豊かな社会を構築または維持するためのツールであり、それをどう使うか考えなければいけない。これからは、AIが仕事を奪うのではなく、AIの利用で仕事の中身が変化する時代になっていくため、人間がAIを道具として使いこなす力が重要になる」と語ってくださった。

行政を経験した立場から、明石康・元国連事務次長は「国際機関で働くには、客観的・公平な視点が必要である。現在の複雑な国際関係について、歴史と共に生きること、国同士で支え合ってきたことを忘れずに過ちを繰り返さないと心に留め続けてほしい。ステレオタイプな考えをやめて、互いを尊重し、対等な関係を築こう。私たちはそれぞれ違う個であり、世界はひとつだ」▽榊原英資・元財務省財務官は「ぜひ、若いうちに留学してほしい。留学でその国の文化や言語を学ぶことができるが、日本を

知るという意味でも非常に重要である」▽宮川眞喜雄・内閣国家安全保障参与は「私の考えるリーダー像は、確信を持ち、大勢の共感を得て、物事を前進出来る人物だ」▽村木厚子・元厚労省事務次官は「困難に遭遇したときは、好奇心を持つこと、今までの経験を生かすこと、気分転換をすること、食べて寝ることが大切。困難を切り抜ければ非常に大きな経験となり、その後の人生に役立つ」▽麻生渡・元福岡県知事は「人生100年時代、これからの社会は常に学ぶ必要があり、学び直すことで新しい知識を得て人生を豊かにすることができる。自分が好きで得意そうなことは何かをよく考えてほしい」▽山口祥義・佐賀県知事は「人生には様々なことが起きる。ピンチの時は辛い新しいチャレンジができると前向きに考えることが大切だ」とお話しいただいた。

また、宗像国際環境会議を主宰する葦津敬之・宗像大社宮司は「環境問題は心の問題であり、自然の流れや循環の中には神がいるという感覚を持つことで解決に向けた取り組みは大きく進むだろう。最終的には神々が棲む海、神が鎮まる海を取り戻したい」▽映画プロデューサーの李鳳宇・(株)マンシーズエンターテインメント代表は「映像が持つメッセージ性は非常に大きく、政治でできないことを2時間の映画で成し遂げることができる。若い世代の皆さんには映像の持つ意味と力をよく理解して、日本のすばらしさを発信してくれることを期待している」▽高校生の交換留学団体(公財)AFS 日本協会の理事長でもある加藤暁子氏は「リーダーとして、“ウォームハート、クールヘッド”つまり、熱い思いと冷静に物事を分析する両方の側面がないと世の中は動かない。世のため、人のためにやり続けることが重要だ」と話した。

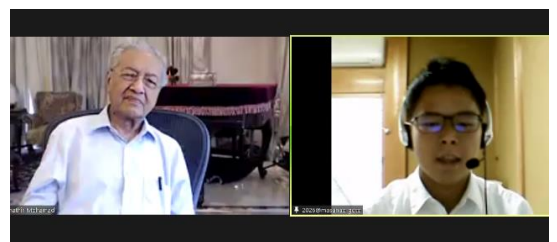
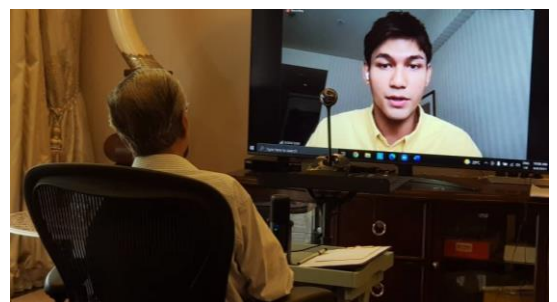
マレーシアのマハティール元首相は「未来のリーダーのマインドセットを変える必要がある。『自国のリーダー』ではなく『世界のリーダー』たれという考え方だ。自国の問題も、他国との相互作用を通じて解決していくという姿勢が重要だ。市民も同様に、『世界市民』としての心持ちが必要になる。世界の資源を共通の利益のために活用したり、どこかで起きている問題を全世界の問題だと捉えたりすることが大切だ」とお話しされた。

どの講師が発した言葉も、将来を真剣に考える高校生たちの心に響いたことは間違いない。とりわけ世界中が閉鎖的な状況の中にある時、これらの言葉は重い。

(2) 英語でのコミュニケーション能力向上が課題

リーダー塾では、マレーシアのマハティール元首相や、明石康・元国連事務次長の講義を英語で行っている。マハティール氏の講義は逐次通訳の方をお願いした。同時通訳にしていないのは、マハティール氏の英語を通訳者がどのように日本語に訳すのかを塾生に学んでほしいという思いからだ。

マハティール氏の講義を前に、リーダー塾にアジア奨学生として2年前に参加し、マレーシア国費留学生(ルック・イースト生)として一橋大学に留学中で、今年は学生リーダーとして参加したマレーシアのモハマド・アリ・イザットさんが歓迎の挨拶をした。アリさんは「日本を見習えというマハティール元首相が掲げたルックイースト政策の真の意味がリーダー塾に参加して分かりました。日本人がチームワークを大切に、いかに統合していくかという美德。これを学び、“think globally act locally”ができるように国際関係学と政治学を学ぼうと来日しました」と英語で挨拶した。

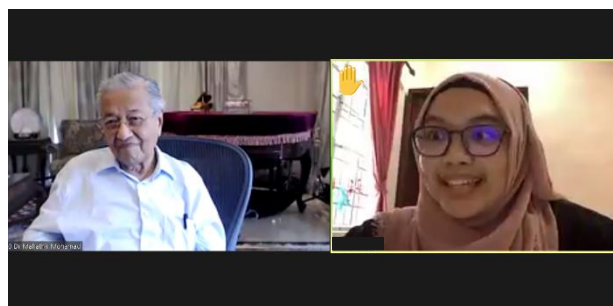


▲マハティール氏に歓迎の挨拶をする
モハマド・アリ・イザットさん(上)
後藤雅尚さん(下)

また、岐阜県立関高等学校の後藤雅尚さんが「昨日、日本政府『アジア高校生架け橋プロジェクト』で来日待つ19ヵ国の高校生とディスカッションをする機会がありました。域内の複雑な政治状況の中、同世代の仲間を持つことがいかに大切かを知りました。お互いに経済、教育、ワクチンの格差について現状を報告しあい、その後、環境、人種、貧困の問題をいかに解決していくのか私たちにディスカッションしました。どうか、このような私たちに助言をいただきたいです」と英語で挨拶をした。

マハティール氏は、上記(1)で記したように「地球市民として一国だけの利益を考えるのではなく、世界全体が必要とされる課題を解決するマインドが必要である」ことを繰り返し語った。

続いて、リーダー塾生とアジア架け橋生がマハティール氏に質問を投げかけた。「若者のSNSの発信の必要性」「環境と経済発展のバランス」「独裁政治の出現をいかに食い止めるのか」「世界規模の問題解決にイデオロギーの違いをどう域内で吸収していくのか」「富める国は貧困国にいかに手を差し伸べるべきか」「失業問題をどのように解決できるか」「どうすれば核廃絶は達成できるのか」など質の高い質問が次々と出された。



▲マハティール氏に質問をするアジア架け橋生

マハティール氏は、日本のリーダー塾生たちの英語による質問の意味が分からず、通訳者に聞き返す場面が度々あった。一方、母国語に加えて英語や日本語ができるアジア架け橋生の姿に、リーダー塾生は「自分の意見をこんなに持ち、確実に英語で伝えられることに、驚きとショックを受けた」という感想が多く寄せられた。コミュニケーション力を重視した英語の学習が課題であることを痛感したようだ。現在はコロナ禍で留学する機会を失っているが、高校時代にできなくても、是非、大学進学や就職した後に海外に出て学ぶ経験をしてほしいと切に思った。

また、日本の中での多様性や異文化理解という側面では、今回、学生リーダーとして参加したスリランカのイダマルゴダ・バヌカさんの存在も大きかった。彼は、岐阜県で生まれ育ち、リーダー塾に参加した後、岐阜県立岐阜高等学校の生徒会長を務め、東京外国語大学に進学後、現在、東京大学大学院生としてスリランカの植民地時代の歴史を研究している。日本で生まれ育ったスリランカ人として、母国の文化を大切にしつつ、将来帰化を考えている話は、日本の高校生に大きな刺激となったと思う。



▲学生リーダーとして参加した
イダマルゴダ・バヌカさん

(3) アジア・ハイスクール・サミット

ローカルからグローバルへ

～世界と繋がって、地球の未来にいいこと何ができる？



① 概要

リーダー塾では一流の講師の先生方の講義を拝聴し学んだことを生かすため、その年のテーマについて高校生同士が本音で語り合い、具体的かつ独創的な解決策を導き出すことを目的とした「アジア・ハイスクール・サミット (AHS)」をプログラムの一環として行っている。本プロジェクトでは毎年解決することが難しい社会問題を題材として取り上げ、やがて近い将来、一人一人がリーダーとなった際に身近な問題に主体的に取り組むことができる能力や幅広い視野を、高校生のうちから養うことを狙いとしている。今年はコロナ禍ということもあり、グローバルアリーナでの現地開催とオンラインでの開催

を合わせたハイブリッド式で開催となった。残念ながら、塾は途中からオンライン形式に切り替えられ、AHS も講義と同様にオンライン形式で続行した。塾期間中には政府奨学生「アジア高校生架け橋事業」で日本へ留学予定のアジア諸国の優秀な高校生との交流イベントをオンラインで行った。

塾2日目には、開催地である福岡県宗像市を中心に、長年環境問題に取り組まれてきた宗像大社宮司の葦津敬之先生に「宗像の世界遺産への取り組みと環境問題」というテーマでご講義いただいた。特に、磯焼けや海外からのプラスチックゴミの漂着問題に対処し、海を再生するために始めた「宗像国際環境会議」についての取り組みは塾生たちに大きな刺激を与えていた。

オンライン形式に切り替わってすぐ、株式会社ボードレス・ジャパン代表取締役社長である田口一成先生の講義では「社会問題をビジネスで解決する社会企業家という生き方」をテーマに、国内外で直面している社会問題に対して、誰一人取り残さない社会をつくるために、どのようにアプローチしていくかお話しいただいた。ただ行動を起こすだけではなく、経済的に持続可能にするための仕組みについて学び、塾生たちも新たな考え方を得ることができたようであった。

そこで、今年度のアジア・ハイスクール・サミットでは、「各々が生活している社会で直面している問題が世界中で生活している人々の抱えている問題とどのように繋がっているか、またそれらを解決し、より良い未来を創るためにはどのようなアクションを起こすべきか」について議論を重ねてもらった。

今回のテーマ設定の背景としては、日本全国から集った参加者は一人一人異なる地域の社会問題に直面しており、課題意識を持っている。それに加え、現在様々な分野の最前線で活躍されている講師の先生方の講義を直接聞いたり、質疑応答をしたりすることにより、「ローカルかつグローバルな社会問題に対する解決策」を見出すことを目指した。塾生が事前課題として持ち寄った問題についてまとめると「教育」「経済」「人口減少」「自然災害」「多様性」など様々な課題が挙げられた。



▲課題設定の話し合い

そこで、塾生が感じている課題について費用や技術などの限界を考えずに、高校生としてどのように取り組んでいくべきか、また世界規模でどのような影響をもたらすことができるかクラスごとに考えてもらった。高校生の柔軟な頭で独創的なアイデアを考え抜くことを期待し、塾生自身の体験談やプログラム中の講義や交流を通して得た知見を踏まえて2週間徹底的に議論をした。

塾最終日にはAHSの集大成として、加藤暁子専務理事・事務局長と担任の先生方をコメンテーターとして迎え、クラスごとにプレゼンテーションを行った。また、アジア高校生架け橋プロジェクトの参加学生との交流会やマハティール・マレーシア前首相の講義の冒頭では、議論の内容を発表した。

「ローカルからグローバルへ～世界と繋がって、地球の未来にいいこと何ができる?」という表題のもと、各クラス内で解決したい課題の設定を行うにあたり、短い時間で各々の持ち寄った課題についてのミニプレゼンテーションや、ブレインストーミングなど、個性豊かな取り組みが見られた。同時に、まだ完全に打ち解けあっていない状態で、クラスで取り組む問題の方向性を絞る過程に手間取っている様子はどのクラスでも見られた。

それぞれが当事者として地域の社会問題に対して意識を持っているからこそ、議論が平行線になってしまう様子や、初対面の相手との議論に慣れておらず、結果として課題設定に多くの時間を費やしてしまうクラスも見られた。

② 議論の様子

各クラス課題設定が終わり、方向性が決まってくると、具体的な問題点や考えられる解決策についての議論が始まった。議論中は十分な距離を取っての話し合いや、パーテーションを用いた感染症対策を徹底しつつ、AHSの時間だけではなく、講義の隙間時間などの限られた時間も有効活用しながら進めていた。また、オンラインで参加している塾生とハイブリッド型でディスカッションを行うクラスもあり、現地に集まっている仲間と遠隔で参加している仲間



▲各クラスのAHSを回る久世暁彦先生（JAXA）

で隔たりができないよう、学級委員や進行役の塾生を中心に通信機器を活用しながら議論を進めていた。クラスでのディスカッションでは、はじめは本音で議論することができず、クラス学級委員や進行役は試行錯誤しながら進行していた。ようやく議論に慣れてきたというところで、オンライン形式に切り替わってしまい、塾生にとっては非常に難しい状況になった。また、モチベーションを保つのも難しかったのではないかと想像できる。しかし、どのクラスの担任も学生リーダーも、塾生たちの可能性を信じ、自主性を尊重してくれたおかげで、塾生は様々な工夫を凝らしながら有意義な議論を実現させた。課題を乗り越えていく中で、これからの社会において必要不可欠である問題解決能力や創造力などのスキルを身につけることができたのではないかと考えられる。

■議論の感想

議論を通して、全体の理解が一致して、きちんと計画を立てないと、議論が発展しないということを知りました。議論を進める速さだけではなく、誰も置いていかないことの大切さを身をもって学びました。
どんどん意欲的に手が上がり、深まる議論に感動しました。そして学校に戻った今、それが非常に恋しいです。意見が分かれたとき、お互いのメリット、デメリットをつつきながら議論したのは面白かったです。しかしオンラインになってからは本当に苦労しました。ファシリテーターとしてみんなの意見を聞きたいけど発言の機会が少なくなったり、顔が見えない人もいたり…。反省会を重ねて最後は円滑に議論が進みました。なんといっても最終日の朝7時からみんなで集まって発表直前に1からやり直したのは本当にいい経験になりました。誰も文句を言わず自分の作業をしてくれてクラスの絆を感じました。
多数の意見だけでなく、少数の意見を聞いて交流したことで一人一人が納得のいく結論を求めたり最終ゴールを頭に置いて考えることができた。みんなの共通認識ができるまで話し合う姿勢があつてとてもよかったし、学校では絶対できないことを体験できて良かった。次は学校でできるよう挑戦していきたい。
議論を通して自分自身の視野が広がり、今までは限られた観点からしか考えられていなかったものが、一つのニュースを見る中でもあらゆる視点から物事をとらえることができるようになった。
はじめは発表する人が固定されていたが、みんなで完成させるのを目標にし、議論中に1回は自分の意見を言うというクラスでのルールを決めたことで、全員が参加し考えることができた。また発表者に拍手する決まりを作り、温かい雰囲気でも議論できた。私はディスカッションに慣れていなかったが、それでも意見を言える環境を作ってくれた仲間の偉大さに気づかされた。ディスカッションを通して、自分の意見がもてていない、相手の考えに共感しかできないことや自分の知識の浅さや語彙力など本当に多くの課題をみつけることができた。でもみんなで最後までやり抜けたことが一番嬉しかった。
自分は自分の意見を重要視しすぎてしまい、違う意見を聞いても、自分の意見をどのように納得させるかということばかり考えてしまうので、クラスの皆が新しい意見を柔軟に取り入れている姿勢に感心した。議論を通して、たとえマジョリティの意見とは違っても多様な意見を聞いて、そこから学ぼうとすることの大切さを実感できた。その姿勢を学校などでのディスカッションでも活かしていきたい。

全国から集まった仲間からたくさんの刺激を貰いました。特に、物事の見方や考え方、話し合いの進め方など今まで自分が知っていたものとは異なる手法を持っている仲間が多かったので、自分の所属するコミュニティに帰ってから活用していきたいと考えています。
クラスの議論では全体で交流する場も設けながらさらに深掘りしたいところなどを話す時は グループで交流するなど話し合う内容によって臨機応変に対応して話し合うことができた。
「私達にはやらなきゃいけないこと、解決したいことが多すぎる。このサミットだけで解決策を導くことは不可能だ」という意見が起こり、みんなで「当事者の声を集めて政治に反映させる政党」を作ろうという話が出たことがありました。初期のアイデアなので、サミットでは発表しませんでした。この議論をしているときみんな生き生きとして、私はこの議論のおかげで、将来は政治に参加して、誰かに任せられるのではなく自分でよくしていこうと思うようになりました。
自分が得たものはずっと自分の武器になることを感じ、何事もまず自分から取り組もうと思えるようになった。意見を受動的に受け入れるだけではなく、自分でも考える癖をつけていきたい。
クラスでぶつかり合いながらもいい議論が出来たと思います。私の反省点としては、反対賛成はあっても、どうしてこう考えるのか、これからどうしたいのかという事を考えるのに行き詰まってしまう、ディスカッションに積極的に参加出来なかったことに後悔しています。この悔しさが、これからの自分の糧になればいいなと感じました。

③ アジア高校生架け橋×日本の次世代リーダー養成塾交流イベント

今年度もコロナ禍での開催により、アジア奨学生が不在となったため、自分たちの持ち寄った課題についてグローバルな視野から討論の場を設けることができなかった。そのため、日本政府の「アジア高校生架け橋プロジェクト」で日本に留学する予定のアジア各国の高校生をオンライン上で招待し、コロナ禍での各国が直面している課題を英語で共有した。また、AHS で話し合っている「より



▲架け橋生との交流の様子

良い地球の未来に対して高校生という立場から何ができるか」というテーマについて意見を交換する機会を設けた。留学生という自分たちとは異なるバックグラウンドを持った第三者からの意見をもらうことにより、新たな問題を発見することを目的として実施した。しかし、それと同時に、英語でうまく伝えられなかったもどかしさや、同年代の高校生の社会問題への関心の高さに刺激を受けた参加者も多かった。塾生からも、異なる立場から社会問題を考える大切さを学んだという声や、日本語が流暢ではなくても知っている知識を使いながらコロナの現状や対策について伝えようとする姿に感銘を受け、自分も英語が流暢ではなくても恥ずかしがらずにチャレンジしてみようと思ったという声上がり、その後の活動にも大きな影響を与えたようだった。

■「アジア高校生架け橋事業」交流イベントの感想

今回、思い切って議長に立候補した。教科としての英語は得意だったが、会話に慣れておらず、実際は、自分の考えをすぐ相手に伝えることが全くできなかった。挑戦したことに悔いはないが、力不足を実感した。
英語が話せなかったのが悔しくて、直後から 50 人の架け橋生と英語で連絡をとるようになりました。様々な国の子と差別について質問をして語りました。10 月以降に福岡に来る子と会うのが今から楽しみです。
私が上手く英語で伝えられなくても、一生懸命聞こうとしてくれた。言語は違っても物怖じせずにたくさん意見を言ってくれる積極的な姿勢と明るさがとても嬉しかったし、もっとたくさん話してみたいと思った。

コロナ禍でなかなか他国の方と交流する機会がないので嬉しかったです。ファシリテーターをしましたが、思った以上に伝えるのが難しく、もっと英語でコミュニケーションができるように日々の学びを大切にしようと思いました。
今回実際に話すことで、他のアジアの国の災害などについて学ぶことができ、視野が広がった。
アジア学生の英語レベルが想像をはるかに超えて高く、とても衝撃的でした。アジア学生の勉強熱心で積極的な姿勢は、英語が得意でなく戸惑っていた私を「英語をもっと頑張らなくてははいけない」という思いにさせました。アジアは英語圏ではないから、英語を流暢に話す人は少ないという考えが180度変わりました。
その国々によって問題だと考えることは全く違っていて、当たり前を疑い、新たな考え方を知ることができた。私は大まかではあるがアジアの国々の現状について理解していると思っていたが、実際に聞いてみると全然違ってたり、知らなかったことばかりで印象が変わった。
他国の同年代の人たちが、こんなにも自分の意見を持ち、確実にそれを英語で伝えることができるのかと、驚きとショックを受けました。自分のレベルを痛感し、私が勝負するのは、学校や日本の生徒だけではない、世界の人たちだという気持ちが芽生えました。
コロナ禍の問題を話し合った際に、ニュースでは知らされない地域規模での問題を聞くことができた。日本との共通点ももちろん聞くことができたが、その国ならではの理由で抱えている問題があり、興味深かった。
自分が得意な英語がいかせてよかったが、直接会いたい気持ちも強かった。このリーダー塾に来る、少人数のアジア学生のように、自分が少数派となって他のプログラムにも参加してみたいと思った。
そもそも海外の人と社会問題についてしっかりとディスカッションすることが初めてで、拙い英語ではあったけれども、私も海外の人と繋がって意見を交換することができること、また国が違ってもみんな同じ境遇の問題を抱えていて、これからは国レベルではなく世界レベルだということをより深く感じた。

④ アジア・ハイスchool・サミット発表

8月9日、今までお世話になったクラス担任の先生方と加藤専務理事・事務局長をコメンテーターとして迎え、約2週間に及んだリーダー塾の集大成として最終発表会を開催した。発表当日は慣れないオンラインでのプレゼンテーションということもあり、各々緊張した面持ちであった。また、パワー



▲最終発表の様子

ポイントを使用しての発表となり、クラスごとの発表方法や表現のユニークさが見られた。今回の題材を通して最も考えて欲しかった「様々な社会問題に対してローカルとグローバルな視点から解決策を考える」という点については、実際に自分たちが直面している問題を踏まえて発表を作り上げているクラスが多かったことから、十分に事前のリサーチや講義の内容、架け橋生との交流を活かして取り組んだことが感じられた。加えて、担任の先生方からの質問にも的確に答えることができおり、全ての塾生が議論に積極的に参加してくれた。また、サミットを通して他のクラスに対する質疑応答にも多くの塾生が参加していたことから、共に学び合い、より良い未来を創り上げていこうという一人一人の情熱が感じられた。

【各クラスが取り組んだ発表テーマとその解決策】

クラス	テーマ	解決策
1組	世界の男女差別を無くすためにまず私たちが考えたこと	教育面や制度面から、慣習的な原因による問題を解決していく

2組	災害・防災に関する 問題の解決	世界共通の保険証を作り各人に適した物資支援のスピードを速めたり、避難所や難民キャンプで使えるストレスフリーなテントを発明
3組	より良い世界へ	・夏休みの教育プログラムとオンライン教育を通して、世界中の教育格差や差別問題を是正する ・クジラの CO2 貯蔵能力に着目し、CO2 削減を目指す
4組	教育格差を解決するために 3 R Project CCR Project	難民の子どもたちが教育を受ける機会を創り出す 3 R プロジェクトや先発国と後発国を繋ぐ架け橋となる CCU プロジェクトを通じて教育格差を世界から無くす
5組	誰一人取り残さない 社会の実現	情報発信、心理的安全性の保障、政治改革、制度改革を通して「誰一人取り残さない社会」を実現する
6組	GL6BAL	差がない商店街「100not 商店街」を起点に「誰もが生きやすい社会」を形成する
7組	海洋ゴミを無くす取り組み	リーダー塾生が住んでいる地域の全国海辺一斉清掃・ゴミ回収ロボットの発明などで海洋ゴミを無くす

発表に際して、他クラスの塾生や担任の先生方に解決策を理解してもらうために様々な工夫が施されていた。視覚的要素としては、画像を引用するだけでなくイラストを作成しているクラスが見られた。発表内容としては、自分の地域だけではなく様々な国の具体例を取り入れるなど、構成が練られていた。それに加え、全てのクラスが時間内に発表を終わらせることができ、万全に準備をしてきたようであった。住んでいる地域における問題をローカルな視点だけではなく、グローバルな視点からも考えることは、複数の視点から物事を考えなければならず、非常に困難な取り組みであったであろう。また、初めて会ったメンバーで構成されているクラス 20 人ほどで一つの課題解決に取り組むことも貴重な経験になったはずである。

コロナ禍での開催ということで、さまざまな物理的制限があり塾生同士の信頼関係の構築も非常に困難であったと考えられる。しかしながら、そのような状況下でも工夫をしながら活発な議論を繰り広げ、「地域市民として直面している課題に対して何ができるのか？」をとことん考え、「マジョリティだけでなく、お互いの価値観や意見を尊重し合うこと」の大切さに気付くことができたとの声が多くあった。全 7 クラスの発表終了後には、コメンテーター

として参加していただいた担任の先生方、加藤専務理事・事務局長から、最終発表の総評を受けた。「とても 2 週間で考えたとは思えない」といった称賛の声や、実現可能にするためのアドバイスなどをいただいた。コメンテーター全員が発言できないほど、発表後の講評も白熱した。塾生の真剣さに、大人も手加減無しといったところだった。



▲講評の様子

■サミットの感想

「全世界共通の保険証」という言葉に興味を持ってもらうことが多く、嬉しかった。トップバッターということもあり、聞いてくれる人の頭が新鮮な状態でプレゼンすることができた。事前に担任の先生方から質問が来た時の準備をしていたので、実際に来たときはチームで自信を持って答えることができたと思う。ただ、他のクラスに比べて実行に移せていないなと感じることがあった。
プレゼン作成には時間がかかったが、最後の最後まで話し合いを重ね、納得のいくプレゼンを作り上げることができた。他のクラスの塾生や担任の先生方からも好評だったので嬉しかった。また、他のクラスの発表でも、「宗教をつくる」といったまさに奇想天外な発想が出ていて、聞いていてとても面白かった。
質問が厳しかった。想定質問を作りそのためのスライドもたくさん用意していたのに、使うことは一度もなく、ただ難しい問いが降りかかった。しかしその中でクラスメイトと協力し合いながら答えていくことはいい経験だった。また、客観的な視点の大切さを知った。私達だけでは気づくことのできない穴を指摘され、はっとなったと同時に、成長を感じた。他のクラスの発表を聞くのもとても楽しかった。最初の出発点は全クラス共通なのにそれぞれ色が出ていたところに多様性を感じた。
私たちは発表の数時間前に全部スライドを作り直しました。あの時の団結した雰囲気は忘れられないです。昼休憩を返上して作業して、辛いと感じなかったのはクラスの絆のおかげだと思っています。そして、発表では教育格差から様々な分野からの解決策を提案できてよかったです。そして、私は質問に答えるという大役を任されました。あの時は、クラスで電話をつないで、LINEでみんなが頑張って！と応援してくれたので、なんとか質問に答えることができました。あのクオリティーの発表は初めてでした。いい経験になりました。
他のクラスの発表を聴けて様々なことが経験になった。最初の組の発表から内容が非常にわかりやすくレベルが高いなと感じた。あるクラスの発表は、物語形式で発表してるところが他クラスと違い、最初に引き込まれてしまうほど効果的だった。また、物語の結末があることで何を目標にしているかが明確化されていて内容がわかりやすかった。
発表してみて感じたことは、実際にみんなの前で発表したかったということです。対面で発表するとみんなが頷いてくれたり、顔色でどのように感じているかがわかると思いますが、今回は私がスマホでZOOMをしていたということもあって、全くわからなかったのも、いつもより一層緊張しました。クラスのみんなでスライドも含め沢山練習したので、うまく発表できたのではないかなと思っています。
プレゼンでは、私のクラスの発表がトップバッターだったのでとても緊張したけど、今までみんなで頑張ってきた集大成だったので、頑張ることができました。パワーポイントもプレゼンも質疑応答も、みんながそれぞれのチームで全力を尽くせたので、ミスもなく大成功になりました！AHSを最高の形で締めくくれたと感じています。発表の後はホッとしました。
私は去年のリーダー塾では発表者にならず、クラス内で意見を出すことを活発にやっていましたが、今年はクラス内に閉じこもるのではなく、去年より積極的に活動したいと思っていたので、最終発表の発表者になりました。短い時間で、しかもオンラインで直接話し合えない状況で原稿を作ることは大変なこともありましたが、グループの仲間が沢山協力してくれたので、皆で準備を進めることができました。聞いていて楽しくて、より印象に残るプレゼンをしたかったので、声の抑揚をつけることや、画面越しであっても手の動きをつけることに意識しました。ワクワクと緊張が混じり合って少し不安でしたが、無事時間内に発表でき、先生方や他クラスの塾生からもいい反応が得られて良かったし、達成感を感じました。
各クラス斬新なアイデアと解決方法を考えて発表し、団体を立ち上げるという所まで結論を出していたグループも多くて、みんなのクリエイティブさに驚きました。私たちのグループも最終的にはまとめることが出来たので、良かったかなと思います。みんなで考えることが出来て楽しかったです。

(4) 今年の特徴的なカリキュラムについて

■宗像大社見学

2014年に『神宿る島』宗像・沖ノ島と関連遺産群』としてユネスコ世界文化遺産に登録された宗像大社を見学した。大変暑い中、神職の皆様が各クラスに付いて、神社に社殿が構築される以前の岩の祭場などを回り、丁寧に説明をしてくださった。また、正式参拝は例年1回でするところ、2グループに分けるなど、感染対策にご配慮いただいた。



▲宗像大社・本殿

日本人の祈りの原初となる古代祭場を維持しているところは国内でも殆どなく、塾生は祖先が祈りをささげたであろう場所で、悠久の歴史に想いを馳せた。沖ノ島から発掘された8万点の国宝の一部が展示される宗像大社横の神宝館では、須恵器や勾玉などを見学した。塾後、その当時の技術に興味を持って調べた塾生もいたようだ。海外から海のシルクロードを渡って来た装飾品などの数々が、宗像が古代より国際的に重要な機能を担っていたことを物語っている。塾生は見学の2日前に受講した葦津敬之宮司の講義のメモを片手に、国際交流の原点とも呼べる宗像で、日本人のアイデンティティであるアニミズムと環境問題といった国際的な課題にどう貢献できるかを真剣に考えていた。

■キャリア教育

キャリア教育は、高校生のうちに社会や働くことへの関心を持ってもらい、進学や将来の目標設定をしてほしいという目的で行っている。クラス単位で行い、内容はクラス担任の先生方にお任せした。



▲前半担任によるキャリア教育

ある担任の先生は、「成功談はよく語られるが、失敗からの学びも大切だ」というお考えから、自身のこれまでの人生や失敗からの学びを中心に語り、「自分たちだったらどうする？」と塾生へ問いかけながら進めてくださった。あえて資料を作成せずに、塾生と向き合ってお話される先生もいた。途中からオンライン形式に切り替わり、カリキュラムが変更になったため、後半の先生方のキャリア教育の時間を明確に設けることができなかった。しかし、クラスの時間や塾後の集まり等で、時間をみつけて行ってくださった。

高校生にとっては、どうしても目先の大学進学に意識が行くが、あくまでもそれは一つの通過点だ。学生から社会人になることは大きな環境の変化であり、自分自身がどのような生き方をしていきたいか、今のうちから考え始めることが大切だと学んだ。

■卒塾前夜祭

8月3日の夜、1週間お世話になった担任の先生方や学生リーダー等に感謝を伝えることを目的とした卒塾前夜祭を、塾生主体のもと開催した。感染対策のため、ハイブリッド形式(代表の塾生のみ会場に集まり、他の塾生はオンラインで参加)で行った。このような形式は初めての試みだったが、他のクラスの生徒と交友を深める活動や、担任の先生方やスタッフに感謝の気持ちを伝えることができ、非常に思い出に残る会となったようだ。また、前夜祭を通してお互いの隠れた一面も知ることができ、その後のオンラインでのプログラムにおいても円滑に意思疎通をすることにつながる取り組みとなった。実際に塾生からは、



▲代表の塾生がオンライン参加への塾生に語りかける様子

「前夜祭では、リーダー塾で成長した仲間の積極性や周りをまとめる力を感じることができました。未成年の主張で感謝の言葉が飛び交う様子に、大袈裟かもしれませんが世界の温かさを感じました。みんなに感謝を伝えられる前夜祭を開催していただき、特別な時間になりました」など充実した時間を過ごせたと分かる感想が多くあった。

■目標宣言

8月4日の塾生が帰路につく直前に、全塾生が目標や将来の夢などを宣言する「目標宣言」を行った。例年は塾の最後に行っているが、今回は途中から全てオンライン形式へ切り替えることになったため、このタイミングで実施した。当初は屋外で実施予定だったが、当日は炎天下で気温が非常に高かったため、保健所の助言をいただきながら、感染対策を万全に行ったうえで屋内で実施した。

塾生たちは将来の夢だけでなく、直近で達成したい目標等を宣言していた。具体的には、「海外に挑戦したい」、「起業家になり社会貢献をしたい」、「志望大学に合格したい」など、非常に多様性に富んだ宣言となった。すでに多くの塾生が、講師や塾からの学びにより、夢や目標を深く考えていることが分かった。

塾後のアンケートでは、「目標宣言で言ったことに対して、努力を惜しまずにしていくと決意をした」、「目標宣言をしたことで、勉学に関する長期の目標ができ、目標実現に向けてやるしかないという緊張感を感じた」など、目標宣言を通して、塾生の意識の変化が見られた。



▲目標宣言をする塾生の様子



▲オンラインで参加した塾生も画面越しに宣言をした

■クロージングディスカッション

塾の締めくくりとして、オンライン形式でクロージングディスカッションを行った。始めに加藤暁子専務理事・事務局長から塾生に対し、最近の世界情勢を通して、様々な情報や協力し合える仲間を持つことの重要性について話した。その後、ブレイクアウトルームでクラスを混ぜた5人程度のグループにわかれ、塾で学んだことや今後どういうリーダーになりたいかということ話を話し合ってもらった。



▲グループに分かれて話し合う様子

全体場に戻り、代表して発表した塾生は、「やりたいと思ったことをすぐ行動に移す力が身に付いた」、「相手を思いやることのできるリーダーこそ皆を引っ張ることができると感じた」、「18年のリーダー塾の歴史の中で、一番感謝を学んだ年だったと思う」、「初日の入塾式で、他の塾生が積極的に手を挙げる姿をみて不安になったが、自分の意見を伝えることの大切さに気付けた。また、リーダーは仲間を支えられて成り立つことを学んだ」、「アジア・ハイスクール・サミットを通して、自分の考えを簡潔に話すことの大切さを学んだ」、「山口知事のように、まわりを笑顔にさせられるリーダーになりたい」などと述べてくれた。コロナ禍で活動に制限があった中でも、塾生たちは様々なことを感じ、大きく成長したということが分かった。塾生にとって、仲間とともに塾期間を振り返り、意見を出し合うことで、自分を見つめなおす有意義な時間になったと思う。

その後、塾生からは「他のクラスの人と話してみて、お互いの目標にアドバイスし合い、リーダー塾の思い出を振り返るいい機会になりました」、「最後にみんなで思い出を語り合って振り返ると、自分の成長がよく分かり嬉しかったです。大切な仲間に出会えた喜びを改めて実感しました」などの感想が寄せられた。

9. 新型コロナウイルス感染症への対応

新型コロナウイルス感染症（以下、新型コロナ）の影響で、昨年の第17回日本の次世代リーダー養成塾はすべてオンライン形式で実施することになった。今年もコロナ禍の中での開催となったが、今回こそ例年通り2週間の合宿を開催するため、様々な感染防止策を検討した。

無事に福岡県宗像市のグローバルアリーナで合宿を開始することができたが、期間中にボランティアスタッフ1人が新型コロナに感染したため、グローバルアリーナから塾生を帰宅させ、8月5日以降のカリキュラムは全てオンライン形式に切り替えることとした。

この間、様々なご対応をいただいた参画道県・市担当者ら関係者の皆様、特に開催地の福岡県、宗像市と佐賀県の担当者、グローバルアリーナ・波戸岬少年自然の家・JR九州バス株式会社・西鉄旅行株式会社・ホテル日航福岡の担当者の皆様には改めて感謝申し上げたい。また、塾生の帰宅に関して、保護者の皆様にもご理解をいただいたことに感謝申し上げたい。

ここでは、開催前からその後の対応までを述べたい。

（1）塾の開催前

①開催方法の決定

5月に参画道県・市の担当者会議を開催し、事務局から合宿開催の意向や感染対策の案を伝えた。その後、グローバルアリーナ、福岡県や宗像市の関係者と施設内での感染対策や体調不良者が出たときの対応について協議を重ねた。その後、感染状況をみながら、どうしたら安全に合宿を開催できるのか検討する日々が続いた。再度、開催地の福岡県や宗像市との協議も行い、服部誠太郎・福岡県知事にご説明をする機会もいただいた。塾初日まで1ヶ月を切った7月1日の時点でも開催方法の結論の合意に達せず、加藤暁子専務理事・事務局長から塾生及び保護者の皆様へ現状を説明するお手紙（開催方法決定の延期について）を送付した。

その後も関係者と協議を重ね、7月9日、ようやく塾として合宿を開催することを決定し、塾生及び保護者の皆様へ案内をした。また、参画地方自治体からの参加者の意向を尊重してほしいとの要望で、塾生に対して合宿への参加を希望するかどうか緊急のアンケートを実施した。その結果、塾生139人のうち、137人が合宿形式で、2人はオンライン形式で参加することになった。この時点で、ハイブリッド形式で合宿を進めることが決まり、感染対策と同時に現地の講義等をオンラインで配信する準備も本格的に始めることになった。

②開催直前の取り組み

参加者の安全に十分配慮するため、開催2週間前から検温等の健康観察を同居家族等も含めてお願いした（担任等のスタッフ含む）。観察結果は、毎日Googleフォームで報告してもらった。発熱等がでて新型コロナ感染が疑われる場合、参加を見合わせてもらうことにしていたが、幸いにも参加者全員が良い健康状態で塾開催をむかえることができた。

さらに、開催3日前を目安としたPCR検査も実施した（担任等のスタッフ含む）。事務局から参加者の自宅に検査キットを郵送し、それぞれ検体をとり、指定の検査センターへ返送してもらうという方法をとった。誤った方法で検査をしないよう、検査の事前準備（検査に必要な情報の登録、返送用レターパックの用意、検査方法の説明動画の作成など）を事務局側で行ったうえで、各人へ郵送した。北海道や沖縄県うるま市の塾生は、郵便事情の関係で検査結果が出るまでに時間を要することが判明したため、最寄りの病院等を案内し、検査を受けてもらった。こうして、無事に全参加者が検査を受けて、最終的に全員の陰性を確認することができた。



▲学生リーダーの助けを借り、レンタルオフィスでPCR検査キットの郵送準備をした

③緊急事態宣言等の地域の参加者

7月上旬の時点で、東京都と沖縄県は緊急事態宣言、首都圏3県と大阪府はまん延防止等重点措置の対象地域となった。

このうち、首都圏（1都2県）、大阪府、沖縄県うるま市に居住する塾生が18人いた。参加者全員の安全を担保するため、当該地域の塾生には、塾開催5日前の7月22日から福岡に入ってもらい、待機期間を設けた。和歌山県卒の塾生の中には、隣接する大阪府に自宅のある者がいたため、24日から福岡入りしてもらった。さらに、緊急事態宣言及びまん延防止等重点措置の対象地域から来る学生リーダーにも同じ措置をとった。なお各人が福岡に入る前には、PCR検査を受けてもらい、全員の陰性を確認した。

塾開始となる7月27日までの待機期間、ホテル日航福岡の皆様にご協力いただき、ホテルのワンフロアをリーダー塾のみで使用し、1部屋1人ずつ宿泊した。感染防止対策として、塾生は自室に待機しながら、各部屋からオンラインによるディスカッションを実施した。学生リーダーを中心に、AHSの事前課題について話し合うなど、塾への意欲を高める良い時間となった。空き時間には自主学習に取り組んでいる塾生もいた。なお食事については、塾生の各部屋へ弁当を配付するなどした。

入塾式前までには、用意していた検査キットにより再度PCR検査を受け、陰性を確認した。グローバルアリーナへ向けてホテルを出発する際は、大変お世話になったホテルの皆様へお礼の挨拶をした。



▲ホテルの自室からディスカッションをした



▲塾生の各部屋へ弁当を配付した



▲ホテル日航福岡の皆様へお礼の挨拶

（２）塾の開催時

①塾初日の取り組み

塾生、学生リーダー、クラス担任の先生方、事務局員は、先述した開催直前のPCR検査で陰性を確認してから、塾初日までの間に感染していないか確認するため、グローバルアリーナに到着次第、約15分で結果が分かる抗原検査を実施することにした。実施を決めたのは6月下旬だったため、準備の時間があまりない中、検査や会場の設営方法、塾生の誘導等当日の動きを考えた。その際、グローバルアリーナの担当者にご協力いただきながら、検査前日の夜まで調整が続いた。

当日は、入塾式の会場（武道場）前の駐車場に、テントや椅子等を置き検査会場を設けた。検査にあたり、医師や看護師、クラス担任の皆様には検査の補助を、宗像市の担当者には当日提出物の回収を、グローバルアリーナや塾生の引率で来られた佐賀県の担当者にはバス等の誘導をしていただいた。その他スタッフは、塾生の誘導を行った。

炎天下での作業となり熱中症が心配されたが、急遽グローバルアリーナの担当者が検査会場に送風機を設置してくださった。皆様のご協力のおかげで、検査をスムーズに実施することができ、全員の陰性を確認した。

この抗原検査により陰性を確認するまでは、可能な限り異なる地域の塾生同士が接触しないようにした。福岡空港、博多駅、小倉駅、ホテル日航福岡からグローバルアリーナへ向かう交通手段を、地域ごとに分けるため、バスやジャンボタクシーを例年の倍以上の台数手配した。



▲到着後すぐ抗原検査会場に向かう塾生



▲抗原検査の様子

②合宿中の主な感染対策

基本的な感染対策として、マスクの着用、アルコール消毒や手洗い、三密の回避、会場内の換気等を徹底した。事前に感染対策の内容をまとめて周知していたため、スタッフの誘導の下、細かいルールにも戸惑うことなく行動していた。

食事や入浴の際は、施設内の他団体と接触を避けるため、リーダー塾のみが食堂や浴場を使用する時間を設けていただいた。食堂には飛沫防止パーテーションが設置されており、塾生には黙食の徹底を呼び掛けた。講義のために集まる武道場では、例年コロシウム形式で会場前方に詰めて座っていた。しかし今年は塾生の席の間隔を1メートル以上確保するため、会場いっばいに座席を配置した。講師等が使用する演台には、正面と側面への飛沫を防止するパーテーションを設置した。各クラスには、アルコール消毒液を渡し、共有物を使用する際は必ず消毒してもらった。

塾生が宿泊する各部屋には、定員より少ない人数が入るよう調整した。宗像大社や佐賀へ移動する際は、乗車人数が定員の半分程度になるようバスをクラスごとに手配した。また、日々の健康状態を確認するため、毎日朝と夜に検温をした。オンラインで参加した塾生2人には、講義やクラスの様子を随時配信して、ディスカッション等も実施できるように機材を整えた。



▲静かに食事をとる塾生



▲席の間隔をあけた武道場



▲オンライン参加の塾生も
含めてディスカッション



▲オンラインで参加した
塾生へ会場の様子を配信

(3) 陽性者判明

7月30日の宗像大社見学中、ボランティアスタッフから「数日前まで同居していた人が陽性者になったが、すでに時間が経っているため、保健所から濃厚接触者には特定されなかった」と報告があった。本人の体調に異常はなかったが、事務局で対応を検討した結果、念のため当該スタッフを離団させ、事前に用意していたPCR検査キットにより福岡市で検査を受けてもらった。事務局と塾生は宗像大社の見学を終え、予定通りフィールドトリップを行う佐賀県唐津市の波戸岬少年自然の家（以下、波戸岬）へ向かった。その日の夜遅く、当該スタッフから事務局へ「検査結果は陽性だった」と連絡があった。既に深夜になっていたが、波戸岬や佐賀県の担当者に報告し、事務局で対応を話し合った（その後、陽性者は福岡市中央保健所の指示に従って行動し、隔離期間を終えて通常の生活に戻った）。

7月31日の朝、佐賀県の唐津保健所から事務局に対して、陽性者の動きや塾のカリキュラム等について聞き取りがあった。午後には、当該保健所から塾生及びスタッフのうち、「65人は濃厚接触の疑いがある」と伝えられたため、疑いのある者とそうでない者が接触しないよう、（事務局のお手伝いとして波戸岬に来ていただいた）佐賀県の担当者にも協力いただきながら、塾生たちには部屋を移動してもらった。ここから最も大変だったのは、波戸岬へ移動前に滞在していたグローバルアリーナでのスタッフ会議に、今回陽性となったスタッフが参加しており、会議に同席した事務局員3人、クラス担任や学生リーダー全員が疑いの対象となったことだった。疑いがある間、塾生を直接対面で指導することができるスタッフは、加藤暁子専務理事・事務局長、事務局を補助してくださっていた方、看護師の5人のみとなってしまった。

最終的に、（波戸岬へ移動する前に滞在していたグローバルアリーナがある）宗像市を管轄する福岡県宗像・遠賀保健所が濃厚接触者を特定することになり、予定を1日繰り上げて、8月1日にグローバルアリーナへ戻ることになった。そのため、急遽グローバルアリーナの担当者に宿泊部屋の手配を依頼した。この間、カリキュラムは7月31日から中断し、フィールドトリップをする予定だった佐賀県立名護屋城博物館の担当者に急遽行けなくなったことを伝えた。オンラインで参加していた塾生や講義をお願いし

ていた講師の方々にも中断の旨を伝えた。混乱を防ぐため、現地の塾生には状況を正確に伝えられるまで、波戸岬の宿泊部屋で待機をしてもらった。食事は、波戸岬が用意してくださった弁当等を部屋に配付する形をとった。弁当箱を回収する際には、食事の用意に感謝する手紙が塾生から添えられていた。また、トイレの掃除を自主的に行ってくれた塾生もいた。

8月1日の朝、波戸岬の館内放送の設備をお借りして、加藤暁子専務理事・事務局長から各部屋にいる塾生へ状況や今後の対応を話した。いち早く塾生にも情報を伝えるべきだった。しかし、陽性となったスタッフがいた場所を管内とする福岡市中央保健所、事務局と塾生がいた波戸岬を管内とする唐津保健所、それまで滞在していたグローバルアリーナを管内とする宗像・遠賀保健所と3つの保健所が介在したこと、また開催地の地方自治体である福岡県と佐賀県にまたがったことで、濃厚接触者の特定や今後の予定を決めるにあたり、前日の深夜まで協議が続ぎ、混乱を避けて、正確な情報を伝えるまでに時間を要してしまった。今にしてみれば途中経過を塾生に逐一伝えるべきだった。

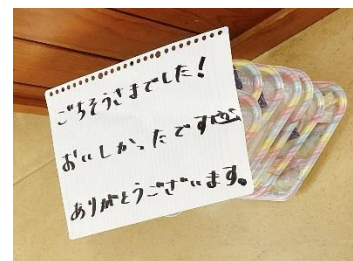
グローバルアリーナへ戻る移動手段としては、濃厚接触者の疑いがかけられた人が65人もいたため、通常お願しているJR九州バス株式会社が引き受けていただけるか懸念したが、週末であり、東京オリンピックでバスや運転手が出払っていたにも関わらず、ご担当者様が奔走してくださり、7台のバスと運転手を手配していただき、当日早朝には、福岡市を出発し、波戸岬に駆けつけていただいた。まず、午前中に濃厚接触の疑いがない塾生を乗せた6台と濃厚接触の疑いがある塾生とスタッフを乗せた1台がグローバルアリーナへ、そのうち3台は午後には波戸岬に戻り、残りの濃厚接触の疑いがある塾生とスタッフを分散して乗せた。こうして、濃厚接触の疑いがある者とそうでない者を別々のバスに寄せ、無事に移動することができた。また、午後には帰宅する人数分の弁当をグローバルアリーナの方が波戸岬まで届けてくださった。JR九州バス株式会社とグローバルアリーナの皆様には多大の感謝を申し上げたい。

グローバルアリーナへ戻ってから、濃厚接触の疑いがある塾生とそうでない塾生が接触しないように動線を分け、宿泊棟も別々にした。

福岡県や宗像市とは今後の対応について話し合い、濃厚接触の疑いのある65人は、福岡県宗像・遠賀保健所が行政検査として、PCR検査と同等の抗原定量検査をすることにした。残り98人の参加者は、リーダー塾がPCR検査をすることになり、8月2日午前にはスタッフを含む参加者163人全員がPCR検査等を受けることになった。その際、宗像市健康福祉部健康課の皆様のご協力もあり、短時間のうちに全員検査を受けることができた。

8月3日午前、宗像・遠賀保健所から電話で検査結果の連絡が入った。①行政検査(抗原定量検査)を受けた65人は、陽性者と何らかの接触をした人たちで、全員陰性だった。②濃厚接触者は、陽性者と同室で宿泊した1人と特定した。濃厚接触者は14日間隔離し、健康観察をして37.5℃以上の発熱等の身体の異常があれば保健所に連絡してほしい。③濃厚接触者でないと判断された人たちは通常生活に戻ってよい——との内容だった。この結果を踏まえ、福岡県の担当課等と協議し、全員陰性であれば塾生全員を8月4日に帰宅させることになった。

8月3日の午後5時には、リーダー塾が行ったPCR検査の結果が出て、全員陰性と判明した。事務局



▲塾生からの感謝の手紙の一部



▲JR九州バス株式会社の運転手の皆様



▲波戸岬からグローバルアリーナへ戻るバスに乗り込む塾生



▲波戸岬からグローバルアリーナへ戻るバス内の塾生



▲グローバルアリーナへ戻る際、波戸岬少年自然の家と佐賀県の職員の方々が見送ってくださった

では、参画地方自治体、保護者への連絡（一部は塾生から連絡）に加え、県外へ帰宅する塾生の航空チケット等の変更を行った。当初の帰宅予定日で手配していた航空機や新幹線のチケットをすべて変更するのは大変だったが、西鉄旅行株式会社のご担当者、一般枠の塾生のチケットの変更をしていただいた事務局員補助の大家美希さんのおかげで、その日のうちに手続きを終えることができた。

そして、8月4日午前に塾生を集め、通常は卒塾式前日に行っている、塾生全員が自分の将来を発表する「目標宣言」を行った後、バスに分乗して、福岡空港、JR博多駅、JR小倉駅などから帰途に就いた。保護者が自宅に不在などの理由で、数人の塾生は4日に帰ることが難しかったため、グローバルアリーナに延泊し、それぞれ日程を調整して、8月7日までに全員が帰宅した。

また、濃厚接触者に特定された1人は、グローバルアリーナの計らいで自室で隔離し、8月14日まで滞在して、数回PCR検査を実施したが、すべて結果は陰性となり自宅に戻った。

（４）オンライン形式への切り替え

カリキュラムは、8月2日の夕方から現地にいながらオンライン形式で再開した。上記検査の結果が分かるまで塾生が1カ所に集合することは難しかったため、グローバルアリーナにいた塾生は各宿泊部屋で自分のスマートフォンやPCを使い、Zoomに接続して講義を受けた。講師の方々も状況をご理解いただき、オンラインで講義をしていただいた。昨年の経験があったことから、慌てることなく接続テスト等の準備を行い、スムーズにオンライン講義に移ることができた。検査結果が全員陰性と判明後は、感染対策に細心の注意を払い、「卒塾前夜祭」や「目標宣言」等を実施した。



▲宿泊部屋でオンライン講義を受ける塾生

ほとんどの塾生が帰宅し、8月5日から本格的にオンライン形式へ切り替えることになった。事務局や一部スタッフはグローバルアリーナに残り、オンライン形式でのカリキュラムに備えた。5日には、佐々木久美子・株式会社グルーヴノーツ代表取締役会長及び村木厚子・津田塾大学客員教授の講義を宗像市民へも公開することを予定していたため、Zoomのウェビナー機能を用いて実施した。その後、8月9日にアジア・ハイスクール・サミットの発表や卒塾式を迎えたが、中断により実施できなかった講義等があったため、講師の方々にスケジュール調整をお願いして、8月22日、28日にオンラインで実施して、すべてのプログラムを終了することができた。

10. 参画道県・市の声

リーダー塾は、9つの道県と2つの市から参画を受けており、塾生の募集、選考など、多くの協力を頂いている。参加した塾生の様子や塾に期待していることなどについて、参画道県・市に対し、アンケート調査を実施した。

【北海道 環境生活部くらし安全局道民生活課青少年係】

本年度は残念ながら現地開催の途中でオンラインへ転換することとなりましたが、無事にプログラムを終え、得られた知識や経験はもちろんのこと、全国の仲間達と出会えたことは大きな財産となったようです。北海道は他県の人と直接交流する機会が少ない土地でもあり、道外の高校生と接するのは初めてという受講生も多くいました。都道府県の壁を越え多様な価値観に触れることで、刺激を受けていることが伺えました。中にはクラスで団体を立ち上げ活動が続けるという受講生もあり、離れていても志を共にする仲間と共に切磋琢磨して成長を続ける意欲の高さを感じられます。

また、卒塾後の道独自の聞き取りでは、保護者の皆様や学校の先生方から、視野の広がりや意識の向上など、全員から成長を感じられたとの声をいただきました。受講生達が今回のリーダー塾での経験を糧に、今後どのような活躍を見せてくれるのか期待しています。

【青森県 企画政策部地域活力振興課人づくりグループ】

参加した塾生全員が充実した塾カリキュラムの中で自分の将来、日本、世界の事を真剣に考え、自分のなすべきことを実行に移す意欲を高めたようです。

今年度は途中からオンライン開催に切り替わっての実施でしたが、合宿期間中は全国の塾生と実際に交流したことにとっても刺激を受けたようでした。塾終了後に提出された感想文では、切磋琢磨した仲間の大切さと、これからの自分の将来について、またその具体的な考えと行動へ向けた決意など、前向きな言説が多くみられました。

保護者の感想でも、オンラインに切り替わっても積極的に受講する様子や視野が広がり活動を広げる様子に感動し、塾へ参加できたことへの感謝の言葉が多くみられました。



事前研修会の様子（提供：青森県）

【岩手県 教育委員会事務局教育企画室】

本年度はコロナ禍の中でありながら、運営事務局の献身的なサポートのおかげで、集合開催できたことに受講生も大変喜んでいました。「できない理由を探すのではなく、どのようにしたらできるのかを考えます」は、まさにリーダーに必要とされている行動であり、とても印象的な言葉です。

事前研修では、卒塾生の力強いメッセージをもらい、リーダー塾への参加意欲を一層掻き立てる有意義な時間となりました。

受講生たちにとって、素晴らしい講師陣の講話や全国の高い志をもった高校生との交流を通して、自分の将来のみならず、岩手の将来や日本の将来を考え、今の自分を成長させるきっかけを掴む貴重な経験になったようです。今後も、魅力的なカリキュラムを企画いただきたく思います。

【静岡県 スポーツ・文化観光部総合教育課】

塾生からは、合宿形式で開催された期間には、講師や全国から集まった仲間たちの熱量を直接肌で感じ、とても刺激的な経験になった、との感想が多く寄せられた。オンラインに切り替わった後も、モチベーションが決して下がらず、意欲的に講義やディスカッションに取り組んだ塾生たちには頼もしさを感じた。

また、塾期間を通して、人と自分を比べて落ち込むのではなく、見つけた弱点を克服するためにはどうすべきか、自分の強みは何か、それをどのように集団に還元できるのかと、自問自答しながら前向きに成長し続ける姿勢を身に付けたようである。

今回のリーダー塾で得た仲間や経験を大切に、次代を担うリーダーとして、ますます成長されることを期待する。



事前研修会の様子（提供：静岡県）

【岐阜県 環境生活部私学振興・青少年課青少年係】

新型コロナウイルス感染症の影響により、本年度は途中からオンラインでの開催となりましたが、「リーダーとしての高い意欲をもってそれぞれの学校で頑張っている他の塾生の姿を見て、とてもいい刺激を受けることができた」と記載する塾生が多く見られました。また、共に高め合うことができる全国各地の仲間と出会うことができたことに喜びを感じていました。

今年の卒塾生については、コロナ禍を乗り越え、多くの学びを得ることができたと確信しており、今後直面する様々な困難に対しても、挫けず、挑戦し乗り越えるリーダーシップと胆力を発揮し、より一層活躍されることを期待しています。



報告会の様子（提供：岐阜県）

【和歌山県 教育庁教育総務局総務課教育政策班】

当県では、長期総合計画の教育分野における将来像を「未来を拓くひとを育む和歌山」とし、「知・徳・体」をバランスよく備えた人材を育成すること等を目的としています。「日本の次世代リーダー養成塾」への高校生の派遣は、その一環として実施されています。

リーダー塾に参加した生徒からは、全国から集まった志の高い仲間や一流の講師陣との語らいにより、新しい知識や価値観を獲得するとともに、多様性を尊重する姿勢が身についたとの感想が寄せられています。また、リーダー塾に参加した生徒らが、コロナ禍の中で運営に尽力してくださった運営スタッフの方々への感謝を口々に述べていたところからも人間的な成長が伺えました。

「日本の次世代リーダー養成塾」は、子供たちが持つ可能性を大きく伸ばす取組だと実感しています。今後もさらにプログラムを精選し、事業が継続されることを望んでいます。

【愛媛県 教育委員会事務局指導部高校教育課】

愛媛県では、日本、そして世界に通用する人材の育成を目的として、「えひめ高校生次世代人材育成事業」を実施しており、その中で、「日本の次世代リーダー養成塾」への高校生の派遣、リーダー養成塾の参加の成果の普及を図る事後研修会及び報告会等を行っています。

リーダー塾参加後は、「世界各国の状況に目を向けることの重要性を感じた。」「仲間と意見を交わす中で、意義あるディスカッションを実現するために、自分の意見を分かりやすく伝える力や、相反する意見を取り入れる柔軟性を身に付けたいと思った。」「好奇心が大切だということが分かった。挑戦する気持ちで、積極的に行動できるようになった。」との声が聞かれるなど、目指すべきリーダー像を具体的に思い描いている様子がうかがえました。

今後、塾生との絆を大切に、将来の目標に向かって歩みを進められ、世界のリーダーとしてさらに成長されることを期待しています。



事前研修、事後研修（オンライン）の様子（提供：愛媛県）

【福岡県 人づくり・県民生活部私学振興・青少年育成局青少年育成課】

このリーダー養成塾は、同じ志を持った全国各地から集まった仲間と学校の授業では経験できない貴重な講義を体験することができ、子どもたちの可能性を引き出すための良い機会となっています。

本年は、残念ながら全てのカリキュラムを合宿形式で行えませんでしたでしたが、事務局には、感染防止対策の徹底やオンラインに切り替わった際の対応など、尽力いただきました。

これにより、塾生たちは、日本や世界で活躍する一流の講師陣の講義に熱心に耳を傾けることができ、また仲間たちとの白熱した議論や語らいを通して、充実した時間を過ごしたことがうかがえました。

今後も、次代を担う高校生のため、より良い事業の継続を望みます。



事前研修会の様子（提供：福岡県）

【佐賀県 健康福祉部男女参画・こども局こども未来課】

今年は新型コロナウイルスの影響で、途中からオンラインに切り替えての実施となりましたが、グローバルリーナで、涙を流しながら仲間を見送る姿に、集合研修の期間がいかに充実したものであったか感じることができました。

佐賀県塾生からは、リーダー塾に参加したことで「多様な考え方を持つ仲間と接し、自分を見つめ直す

ことができた」「仲間の存在の大切さを学んだ」「自分の意見を言うことの大切さを学んだ」など、全国の同年代の仲間からたくさんの刺激をもらったようで、貴重な経験となったと思います。

今後も、この素晴らしい塾へ志をもった多くの高校生が参加し、ますます発展していくことを願います。



事前研修会、出発式の様子（提供：佐賀県）

【福岡県宗像市 教育子ども部子ども育成課グローバル人材育成係】

今年度は合宿形式でスタートし、途中でオンライン形式に変更となりましたが、各分野で活躍する講師の講義に加えて、オンライン上で日本全国の高校生同士のディスカッションを通してコミュニケーションをとりながら有意義な活動が出来たのではないのでしょうか。

コロナの影響で、これまでのように自由に対面で会話が出来なかったり、制限が多く生活が窮屈に感じたりすることもたくさんあると思います。ただ、コロナ禍でも上手にオンラインを活用することによって、日本全国、世界各国と繋がり、コミュニケーションをとることが出来る時代です。参加者が目指すべきリーダー像を考え、それぞれの夢に向かって成長していくことを期待します。

【沖縄県うるま市 経済部商工労政課雇用推進係】

うるま市は、平成 28 年度から日本の次世代リーダー養成塾に参画させていただいておりますが、リーダー養成塾に参加した高校生たちは一様に、意欲ある同世代の勢いに驚き、また刺激を受けて自分の成長へと繋げていると感じております。

また、同世代から受ける刺激だけでなく、異文化交流や各界で活躍する一流の講師からの貴重なお話を聞くということは、人生の岐路を決定する重要な時期と言ってもいい高校時代において、とても貴重な体験をさせていただいていると思います。

今年参加した高校生の二人は、事前学習で行ったディベートでは論点をうまくまとめて発言はできていましたが、やはり塾に参加し全国の高校生たちの積極性に感動し、自分ももっと意見を言えるようになってはと、自分の成長できる部分を見つけ課題に取り組んだと参加した高校生自身から報告もありました。

今後も参加した二人の高校生が自らの課題に気づき主体的に行動できる、積極的な社会人に成長していけるよう期待しています。



事前学習の様子（提供：うるま市）

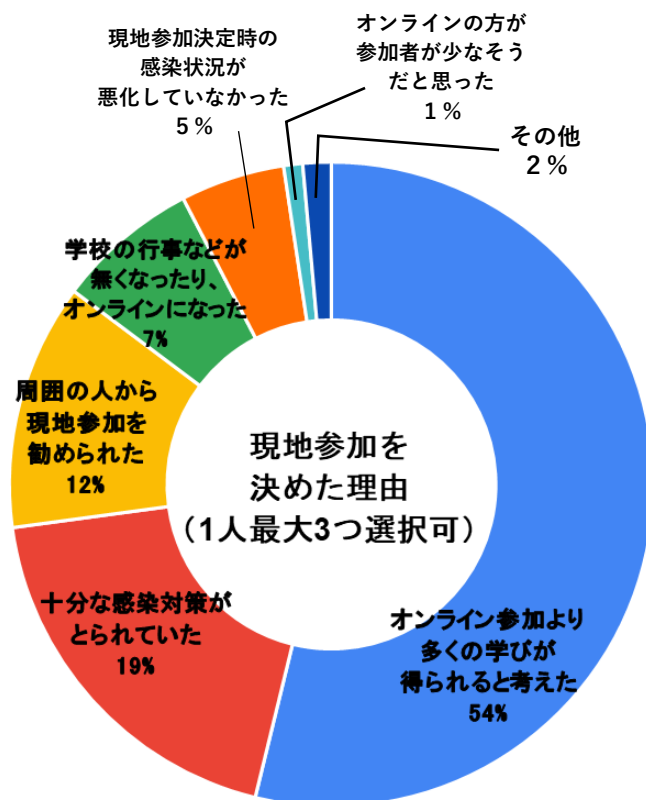
資料① 塾生アンケート調査結果

塾終了後に、講義に関するレポート・アンケートを実施した。報告書では主な設問を掲載する。

レポートは塾生139名のうち134名（96.4%）、アンケートは120名（86.3%）が回答。

現地参加を決めた理由（1人最大3つまで選択可）

- ・オンライン参加より多くの学びが得られると考えたため（本人が強く希望した） 54%
- ・十分な感染対策がとられていたため（事前PCR検査・抗原検査・検温・看護師常駐等） 19%
- ・周囲の人から現地参加を勧められたため（保護者・先輩・学校の先生など） 12%
- ・学校の行事などが無くなったりオンラインになったため 7%
- ・現地参加決定時の感染状況が悪化していなかったため 5%
- ・オンラインの方が参加者が少なそうだったため 1%
- ・その他 2%



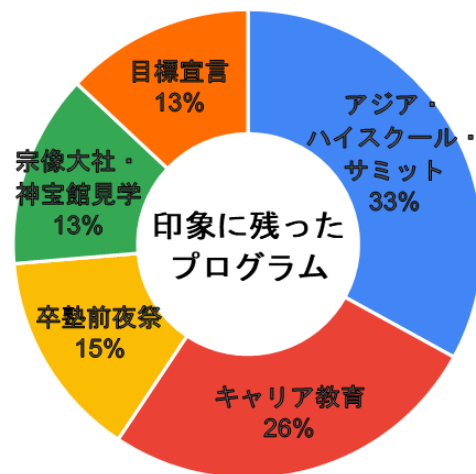
全行程オンライン参加を決めた理由（記述式回答）

- ・学校が臨時休業中だったため。
- ・交通機関を利用した移動の際にコロナにかかるリスクがあるのに不安を持ったから。

興味深かったプログラム（複数回答可）

※アンケート集計上位5つを記載

- | | |
|------------------|-----|
| ①アジア・ハイスクール・サミット | 33% |
| ②キャリア教育 | 26% |
| ③卒塾前夜祭 | 15% |
| ④宗像大社・神宝館見学 | 13% |
| ⑤目標宣言 | 13% |

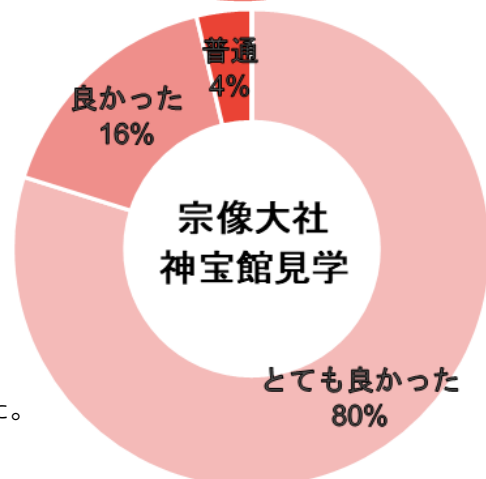


(1) 宗像大社・神宝館見学

- | | |
|-----------|-----|
| とても良かった | 80% |
| 良かった | 16% |
| 普通 | 4% |
| あまり良くなかった | 0% |
| 良くなかった | 0% |

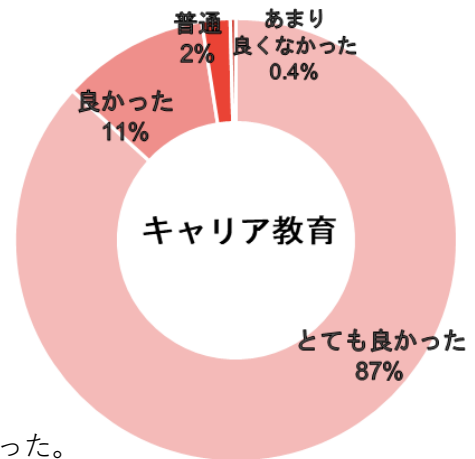
■主な感想

- ・中学から教科書で見ている国宝を生で見られて感動した。
- ・権禰宜さんの神道から考える日本人や日本史の捉え方のお話が面白くて、とても有意義なフィールドワークだった。
- ・自然と一体化している宗像大社は想像以上に神秘的で圧倒された。



(2) キャリア教育

とても良かった	87%
良かった	11%
普通	2%
あまり良くなかった	0.4%
良くなかった	0%

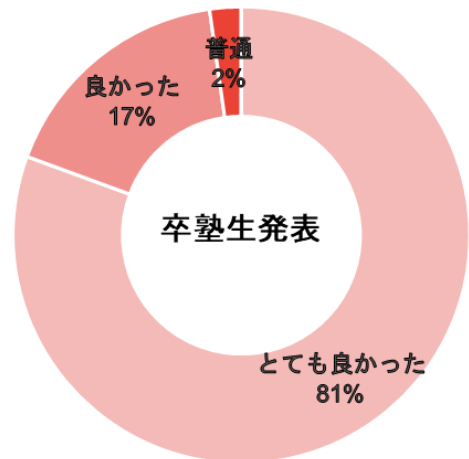


■主な感想

- ・夢を1つに絞る必要はないという先生の言葉が印象に残った。
- ・海外の様々な所でボランティアをされていて本当に尊敬した。私もそのような活動をしたい。
- ・「見えない」ところでも誇りを持って働いているというお話に、「仕事とは、働くとは何か」ということをみることができたように思う。

(3) 卒塾生発表

とても良かった	81%
良かった	17%
普通	2%
あまり良くなかった	0%
良くなかった	0%

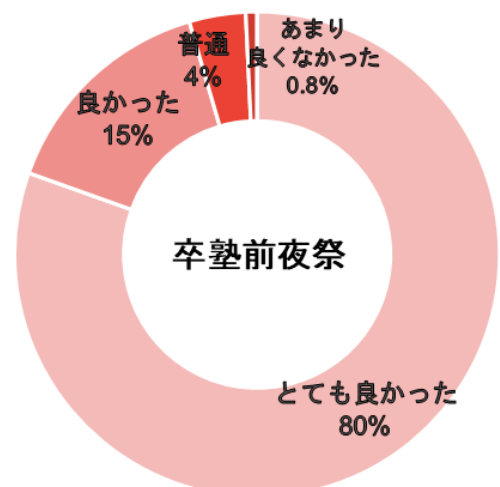


■主な感想

- ・「アメリカの大学では質問をすると質問し返される」と聞いて、先生に質問するときに自分の仮説を立てることは大事だと思った。自分で考えなければ成長はないのだと思った。
- ・「歴史を学ばないと自分自身を理解できるわけがない」という言葉がすごく印象的だった。
- ・やりたいことが自分一人では難しかったら、人を巻き込むという考え方に感銘を受けた。

(4) 卒塾前夜祭

とても良かった	80%
良かった	15%
普通	4%
あまり良くなかった	0.8%
良くなかった	0%

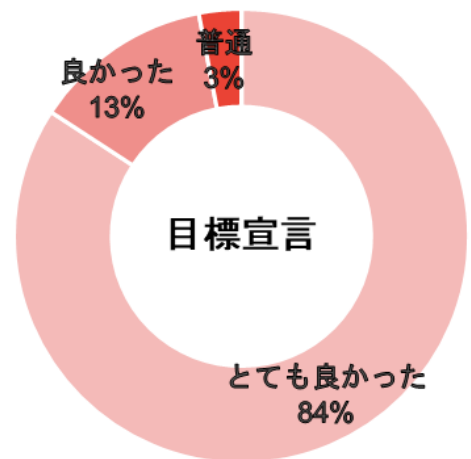


■主な感想

- ・各部屋で待機していた友達にも数日ぶりに会うことができ、思い出に残っている。
- ・それぞれのクラスの個性も感じ、短期間でも友情や仲間意識が育まれたことを実感できた。
- ・学級委員の人たちが考えてくださった前夜祭はどれも楽しく、このままリーダー塾が終わらなければいいのと思った。

(5) 目標宣言

とても良かった	84%
良かった	13%
普通	3%
あまり良くなかった	0%
良くなかった	0%

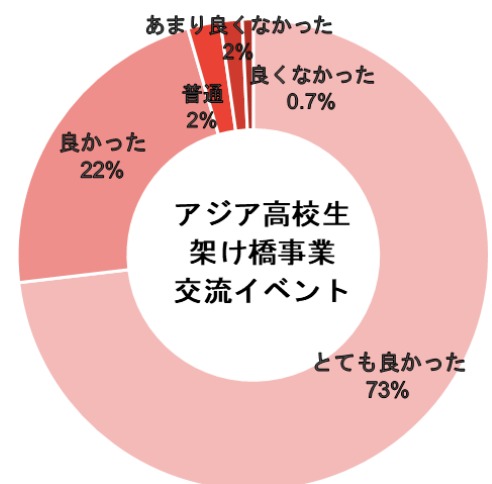


■主な感想

- ・私が公の場で自分の将来像を語ったのは、この目標宣言の場が実は初めてだった。今まで自分には大きすぎると思っていたが、自分も実現できると思った。
- ・みんなの目標の高さにとても驚いた。自分も言動に責任を持って、目標が達成できるように頑張りたい。

(6) アジア高校生架け橋事業交流イベント

とても良かった	73%
良かった	22%
普通	2%
あまり良くなかった	2%
良くなかった	0.7%

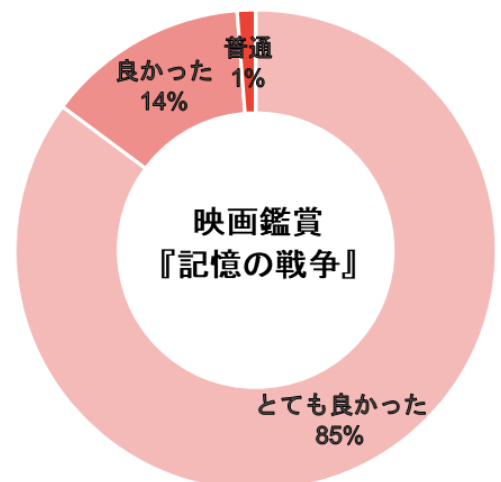


■主な感想

- ・アジア各国から参加していて、色んな地域のことを知れて良い機会となった。もっと沢山話せるようになりたいため、英語の勉強を頑張ろうと思った。
- ・架け橋事業の高校生とは、卒業後も SNS を通じて話す機会を設けている。

(7) 映画鑑賞『記憶の戦争』

とても良かった	85%
良かった	14%
普通	1%
あまり良くなかった	0%
良くなかった	0%



■主な感想

- ・戦争はそれぞれの思惑や正義があり、戦争に駆り出された人達は命を懸けて国のために戦い、国に逆らえないのだという。しかし、現地の罪のない人々からすればそんなの関係ないだろう。戦争ほど残酷なものはないと改めて感じた。
- ・映画をみてからベトナム戦争に興味を持つようになった。「映画だけで人は変わる」という言葉にも共感した。これから様々な国の様々な種類の映画をみたいと思う。

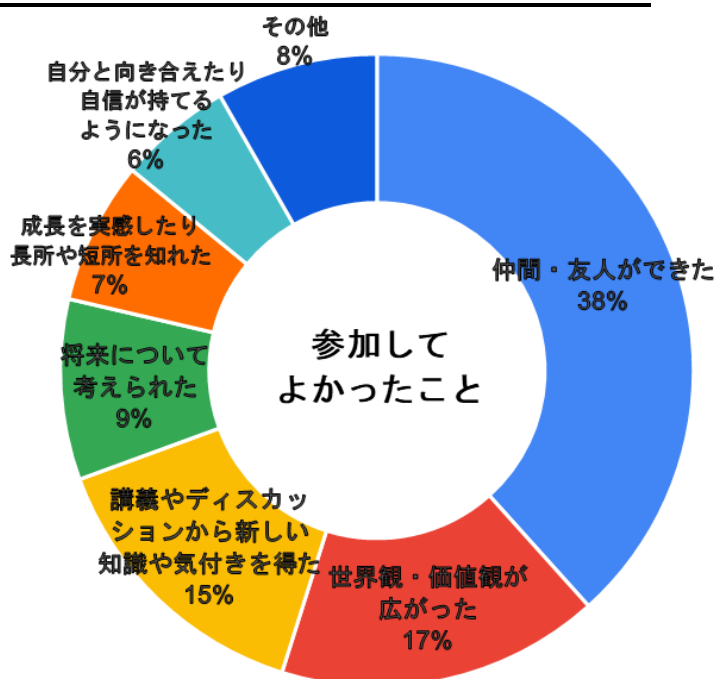
リーダー塾を通して



リーダー塾に参加してよかったこと

※キーワードをピックアップして集計

- | | |
|-----------------------------|-----|
| ① 仲間・友人ができた | 38% |
| ② 世界観・価値観が広がった | 17% |
| ③ 講義やディスカッションから新しい知識や気付きを得た | 15% |
| ④ 将来について考えられた | 9% |
| ⑤ 成長を実感したり、自分の長所や短所を知れた | 7% |
| ⑥ 自分と向き合えたり、自信が持てるようになった | 6% |
| ⑦ その他 | 8% |



■主な内容

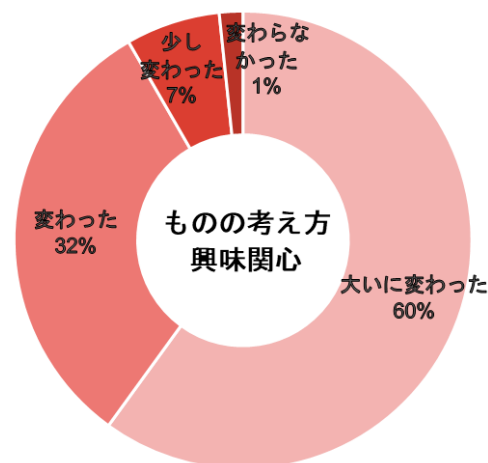
仲間・友人ができた	こんなにも誰かの前で自分らしくいられた経験なんてなかったし、将来の夢について語り合える友人や真剣に世界平和について語れる相手もいなかった。起業家になりたいと言うと、普段なら夢見がちだと受け流されるようなことさえ、全員が向き合ってくれた。こんなにも素敵な人たちと出会えて本当に良かった。
	全国から集まった志の高い高校生と出会い、友達になれた。これから世界を共にによりよくしていける仲間を持つことができた私はとても恵まれており、今は心強い。
	何よりも、自分のことを受け入れ、ともに対話したり、笑ったり泣いたりできる仲間ができたことが、リーダー塾に参加して良かったと思うことだ。正直、こんなにも心を開けてありのままの自分で楽しめる仲間ができるとは思わなかった。たった2週間であったが、半年くらいともに過ごした気分であった。
	北海道・沖縄・首都圏の人などいろいろな人と話すことができた。また、東日本大震災を経験した塾生の話などを聞くことができた。こういった経験はリー塾ならではの経験だと思う。参加をしていなかったら会うことのなかった人達だった。
	全国にかけがいのない友人ができたことだ。始め、周りのレベルの高さに圧倒されそうになったが、たくさんの塾生と関わっていく中で、もっとみんなと共に過ごして知っていきたいと本気で思った。そのため、現地開催が途中で終了すると知らされた時は小学生以来の涙が溢れてきた。このリーダー塾での全ての出会いを忘れずに、これからも大切にしたい。
	本気で夢や目標に向かって努力していたり、口だけじゃなくて行動をしっかりと起こすことができたりする仲間に出会えたことだ。日本や世界を本気で変えたいと思っている仲間と今までなかなか出会えなかったため、リーダー塾で出会えた仲間は一生の宝物だ。
世界観・価値観が広がった	私は興味の幅が広がった。今までニュースが流れてきても他の番組に切り替えてしまうことが多かったのだが、リーダー塾が終わった後はニュースを見る時間が増え、世界や日本の問題にも興味を持つようになった。また、ニュースを見て、これを解決するにはどうすれば良いのだろうと自然と考えるようになり、家族との会話も増えた。
	広い視野を持って世界の問題に取り組めるようになったことだ。メンバーは皆、自分にはない考えを持っていたため、驚くこともあったが、それによって学びを広げ、多方面に目を向ける考え方ができるようになった。学校に戻ったら、そこで18期生の方々の素晴らしい考え方を広めていきたいと思う。
	幅広く色々な考え方に触れることができたことだ。今まで考えたこともなかったようなことや、あまり身近ではなかったことについて知るきっかけになった。そしてその経験から自分

	の視野もすこし広がった気がする。自分も他の人に良い影響を与えられるように、たくさんの経験をしていきたいと思った。 様々なバックグラウンドを持った日本全国の友達の話聞いた。そして自分がいかに狭い世界を見ていたかということに気づけた。よく視野を広げたいと言うことがあるが、今回本当にそれを実感できた。2週間という短い期間でも、過ごし方次第でとても濃い時間になった。自分自身に影響をもたらすことも分かった。 色々な地方から来た高校生と交流できるということだ。今まで、地元をあまり出たことがなく、さらにコロナで制限されたなか、こうして価値観の違う仲間たちと話せたことが良かったことだと思う。地域によって違う問題、考え方を直接聞き、感心することが多かった気がする。やはり、外に出て積極的に交流することは素晴らしいことだと思った。
講義やディスカッションから新しい知識や気付きを得た	自分の意見を躊躇なく言える環境、そして真剣にそれを聞いてくれる仲間がいることが新鮮で嬉しかった。 普段自分が抱えている疑問をプロの方に質問し、回答をいただけるという貴重な機会がリー塾にあったので、すごく良かった。 様々な方の講義を始めとし、アジア・ハイスクール・サミットなどで、今まで知らなかったようなことをたくさん学べて、自分の課題に気付いて良かった。 思いっただけでなく、形にしてはじめて価値が生まれることを仲間や講師の方たちに気づかせてもらった。『形にする』時に最も重要なのは、『基礎』だ。知識もなければ何もできない。自分の知識の少なさを痛感した。 ディスカッションでは一人ひとりの考えのレベルが高く、1つの課題に対して意見をぶつけ合えたのが楽しかった。
将来について考えられた	将来に希望を持てたこと。人生には多くの道があり、他人に縛られる必要はないのだと気付けた。今では自分の未来のことを考えると、とてもワクワクした気持ちになれる。夢を抱き、そこにまっすぐに歩いていく塾生や、出会った全ての人から、前を向く勇気もらった。 自分を変えたいとやる気が出た。高い志を持つ同世代の仲間たちの目標を聞いて、世界で活躍したいという思いが強くなった。また、離れてしまった今、大好きな仲間たちを思い出し、あの子も頑張っているだろうから自分も頑張ろうという気持ちになれる。 自分になりたいリーダー像を見つけることができて、これから向かう先が定まった。 きっとリーダー塾に参加していなかったら、自分に満足して何気ない毎日を当たり前のように送っていたと思う。これを機に挑戦したいことをたくさん見つけることができた。
成長を実感したり、自分の長所や短所を知れた	講義をただ聞いて理解するだけでなく、講義後の質問で挙手する人が思った以上に多くて驚いた。私も質問しようという強い意志を持つことができ、質問もできた。 最初から最後まで常に何か行動をおこす大切さを実感させられ、自分の至らない部分がよく見えて、改善の機会を得られたことが嬉しかった。 積極的に挑戦し、その上での失敗は成長の糧になると学べたことだ。これは頭ではわかっていても実践できていなかったため、リーダー塾が実践できる環境だったことにとても感謝している。学校に戻ってもリーダー塾のことを思い出して率先して動こうと思う。
自分と向き合えたり、自信が持てるようになった	私は自分に自信を持てなかった。しかし、リーダー塾のとても濃い生活は私に大きな自信と経験値を与えてくれた。今の私は一歩、いや何歩でも踏み出せる力に満ち溢れている。無理だと思っていた将来の夢がとても近くに感じられるようになった。 人をまとめるにも、計画を立てるにも、議論を進めるにも、自分より優れてる人はいっぱいた。そんな中で「人前で話す力」は今でも自信を持って自分の才能だと言える。あの才能溢れた人たちの中で過ごしてもなお誇れるということは、本当の自分の才能なんだと、前より一層強く思える。自分を知れたのが一番の収穫だ。 1番良かったことは自分自身と向きあうことが出来たことだ。AHSで共に泣き、共に悩み、共に歩んでくれる仲間がいてくれたおかげで向き合うことが出来た。この経験から、将来の夢を確実に実現したいものになり、自分自身の価値を見出すことが出来た。
その他	校外の人と深く関わる機会は初めてで、異なる環境や人々にどう適応していくかを学べた。



塾参加後、ものの考え方や興味関心が変わりましたか？

大いに変わった	60%
変わった	32%
少し変わった	7%
変わらなかった	1%



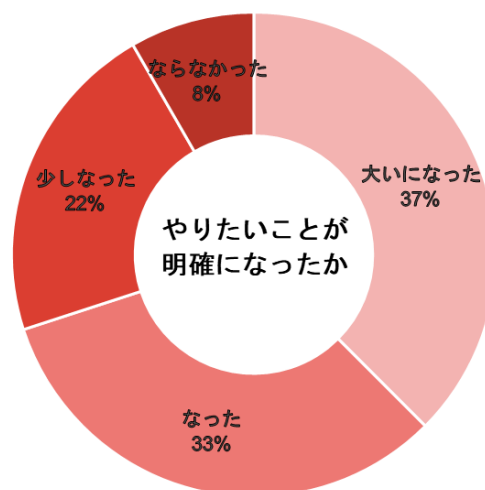
■主な内容

視野が広がった 社会・世界に興味を持った	社会問題の授業やニュースの内容を前より理解でき、それに対してより深くさまざまな角度から疑問がでるようになった。また課題探求の時間に、解決策を出して終わるのではなくその解決策があったらどのように世界は変わり、どんな変化があるのか（デメリット）まで考えることができた。
	以前は政治は自分と関係の無いものだと思い、興味がなかったが、リーダー塾に参加して政治に興味を持てるようになった。
	社会や世界を語るには、社会や世界を知っていなければいけない。自分は住んでいる地域や県に着目しすぎていた。もっとグローバルに生きなくてはいけないと思った。
	リーダー塾に参加したことで自分にできることは何かと考えるようになった。
	一番の変化は社会のために自分ができることを深く考え始めたことだ。また色々な方のお話を聴いて、自分の将来につながるきっかけも見つけられた。そして、普段の生活でも勉強や生徒会活動なども頑張ろうとやる気が刺激された。
	今まであまり興味のなかった歴史の分野に興味を持ち始めた。
	自分の興味のある分野だけをやり、それを極めていけば良いと思っていた。社会へ貢献し誰かを救うためには、様々な知識で色々な問題を組み合わせながら多角的に考えていかなければならないと考え方が変わった。
自信がついた・ 周りの目を気にしなくなった	リーダー塾に参加する前の僕は日常生活で、これをやりたいと思ってても誰かと比べたり、周りの目を気にしていた。個性を自分の中で隠していた。しかし、塾に参加して個性豊かな友達や学生リーダーの方などとたくさん話をして「自分は自分」と考えるようになった。そう考えるようになって、やりたいことがどんどん湧いてきて今とても幸せだ。
	まだ高校生だからやれることは限られているとどこかで思っていた自分がいたが、同年代の仲間の行動力と輝きを目の当たりにして、まだまだやれることはたくさんあるし、逆に高校生だからこそできることがあるのだと分かった。
	意見を言うことに対しての抵抗が減った。自分の行動の対象となる相手をもっと広い目で見えるようになった。
	私は中学から女子校で男子高校生と議論する経験がなく、意見することができるか不安だったが、AHSでは男女関係なく切磋琢磨して議論し、自信を持てるようになった。
	自信を持って自分が取り組んでいることを公表できるようになった
将来の夢、 リーダー像	目指したいリーダー像が変わった。情熱を持ったリーダーになりたいと思っていたが、それだけではないと気づいた。warm heart cool headの考え方は一生忘れないと思う。
	今までなんとなく受け入れて実行していた物事にも何か理由があるのだと考え、その理由を明確にしてから目標を作って行動するようになった。
	将来の夢について深く考えることができたので、少し夢が変わったように思う。
議論の仕方	AHSを通して、全体の理解が一致して、きちんと計画を立てないと、進まないということを知った。早速その学びを文化祭で役に立てることが出来た。
対人関係	感謝の気持ちを以前よりも多く伝えるようになった。
	常に相手を思う気持ちを、より広い範囲で持てるようになった。



参加後、やりたいことが明確になりましたか？

大いになった	37%
なった	33%
少しなった	22%
ならなかった	8%



■主な内容

絶対留学したいと思った。自分の価値観の狭さに気付いた。日本ってこんなに広がったんだと。世界はもっともっと広い！自分の目を見て、自分の肌で感じたい。そう強く思うようになった。
元は教師になりたいと目標が明確にあったが、人生経験を豊富にするために、別の職業に就いてから、教師になろうと思うようになった。
イスラム教と紛争について国際法というアプローチから対処したいと構想しています。
元々起業家になりたいという漠然とした夢はあったが、特に教育に関わり起業したいと思うようになった
広告プランナーになりたいと思っていたが、田口先生のお話を聞いて、社会起業家の存在を知り、私がやりたいこと、今までやってきたことを生かせるのはこれだと感じるようになった。
一言で人を明るくできるといった事やコミュニケーション能力が秀でていると言って貰えたおかげで、スクールカウンセラーになりたいという夢が出来た。
将来外務省専門職員として、素晴らしい日本の文化を世界に広めたい。
自分はロボット開発をしたいと思っていたが、その裏側の思いは、ロボットを通した外出困難者の支援だと気づいた。
外国で難民の支援をしたり、環境や国際政治の問題に関わる。映画や演劇など表現の世界で活動する。
大好きな映画を通して、みる人の世界を広げ、普段ならスルーされたりするマイノリティに光が当たる、自分が知りたいと思ったことをとことん突き止めてみる人と一緒に学んでいけるような映画を作っていきたい。そして、機会があればなるべく観客のところに出向き、作品の考察を語り合ったり、みに来てくれた人の人生に寄り添って話ができるような、世界一身近な監督になりたい。
芸術の力をもっと多くの人に伝えるために、様々な地域の文化を学んでいきたい。
佐賀県知事の講義を聞き、地元である佐賀で地元を活性化させる活動をしたと思った。
私ははっきりとした夢がなく、どの学部に進学したらよいか悩んでいたが、様々な分野の講義を聞き、興味があることがだんだん鮮明になり、国際的な問題に興味があると気づいた。また、問題を解決していくために今の日本は法を整えることが必要だと思った。法学部に進学し、日本と海外の法律を比較してどのようにしていくことでよりよい社会を築いていけるのか研究したいと思った。
世界の問題を解決していけるように、国際機関で働きたいと強く思うようになった。
今まで漠然と「法律を学びたい」と思っていたが、世界中で活躍している講師の方のお話や AHS での活動、また隔離生活を通して、「日常」を送ることが出来ない開発途上国や差別を受けている人を法律で救いたいと思うようになった。
以前から興味があった歴史学や民俗学を学んで、その知識を生かした観光業や環境保全活動などに取り組みたいと考えている。
日本で高校の英語教師になって、日本の教育制度を変えていく。海外で日本語教師になる。青年海外協力隊の一員になって途上国に教育支援をしに行く。
日中の友好の架け橋になりたい！
地元の医者になりたいと言っていたが、地元で医者として働いた後、発展途上国に行って現地の医者に最新医療の知識を伝授したり現場で働きたい。もしくは国境なき医師団に入って、医者として働きたい。
岩手県庁に就職して岩手県を生活したい県にすること。

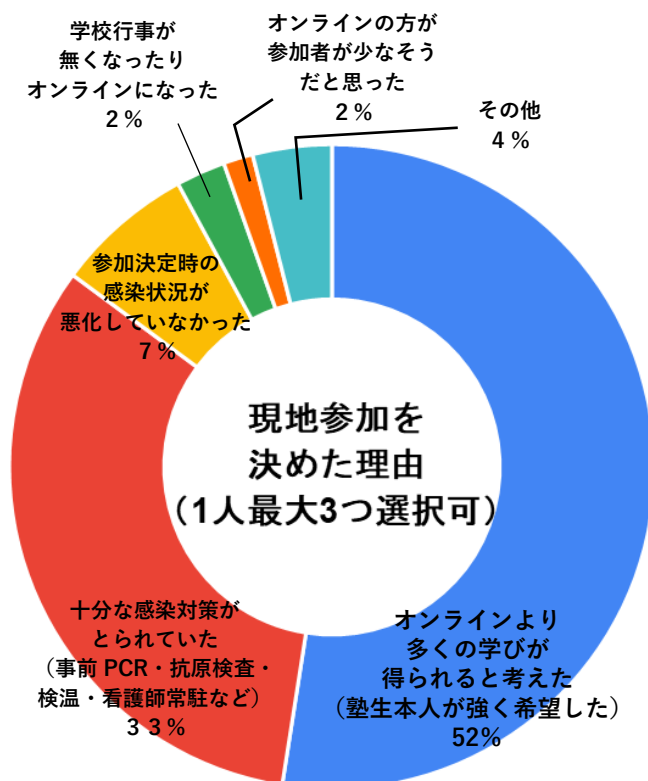
資料② 保護者・学校アンケート調査結果

卒塾してから約1ヶ月後、139名の18期生の保護者、学校の担任教員を対象に、卒塾後の塾生の変化についてのアンケートを実施した。保護者は111名から（79.9%）、学校の担任教員は100名から（71.9%）回答があった。主な項目を抜粋して掲載する。

保護者アンケート

現地参加を決めた理由（1人最大3つまで選択可）

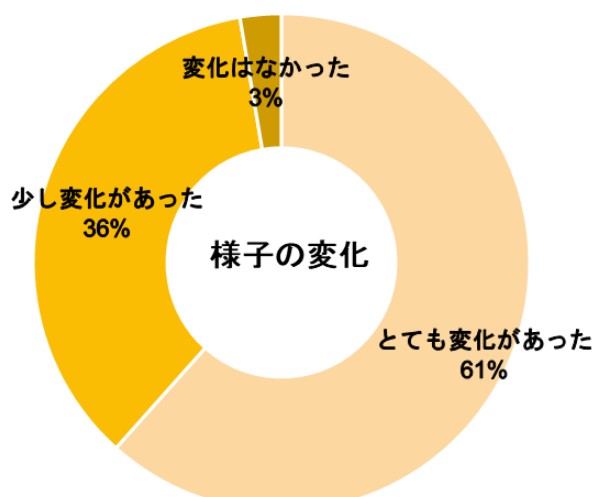
- ・オンライン参加より多くの学びが得られると考えたため（塾生本人が強く希望した） 52%
- ・十分な感染対策がとられていたため（事前PCR検査・抗原検査・検温・看護師常駐等） 33%
- ・現地参加決定時の感染状況が悪化していなかったため 7%
- ・学校の行事などが無くなったりオンラインになったため 2%
- ・オンラインの方が参加者が少なそうだったため 2%
- ・その他 4%



全行程オンライン参加を決めた理由（記述式回答）

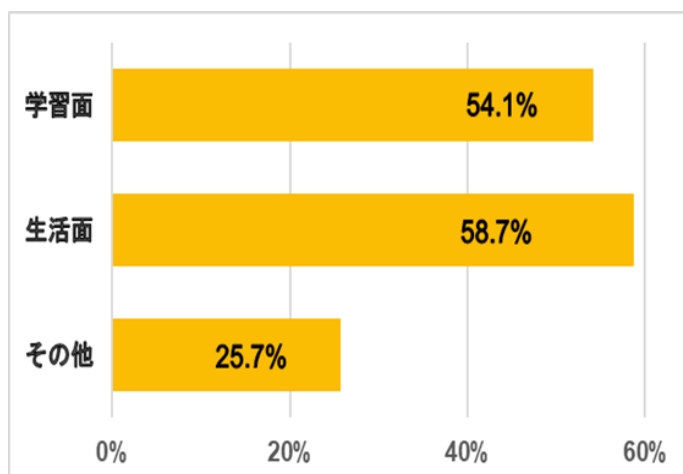
- ・学校が臨時休業中だったため。
- ・公共交通機関での移動時等に感染すると本人は行程への参加ができなくなることと、家族も濃厚接触者として2週間の自宅待機を求められ、仕事や学校に行けなくなってしまうため。

？ 塾参加前と参加後でお子様の様子に変化がありましたか？



？ 「変化があった」と答えた方は、どのような変化がありましたか？（複数選択可）

※各項目ごとに選択された数を「変化があった」と回答した人数で割った



■主な理由

学習面	どの地域で大学生活を送るのが、より自分のために良いかということを考えて大学を選択するようになった。研究職というのにも魅力を感じられる出来事があったようで、将来の医師像もずいぶん変化があったように感じます。主体的に考えることができるようになり、頼もしく感じた。
	医師になるという夢がさらに具体的になり、世界の医療格差をなくす為に何が出来るか？何に取り組むかを考えるようになりました。
	留学する決意をして、自分でプログラムを探して応募した。全国の参加者と、学生団体を立ち上げると言い出した。
	大学進学は決めていたのですが、その後の職業等まで自分で考えるようになりました。また、自分のやるべき事を実行できるよう、それに向けて努力ができるように徐々になっています。
	学習面においては、目標を口にするようになりました。少し難しいと思われることも、臆することなく口に出すことで自分を奮い立たせているようです。
	もともと何事にも積極的に一生懸命に挑戦する子どもでしたが、いろいろな分野を専門とする大人の話を目の前で聴き、また自分とは違う環境で育ち、今まで自分が気にしたこともない角度からのものの見方をする同世代の人たちの意見に触れ、学習することや物事を知ることがさらに楽しくなった様子で、学習に対する姿勢がより積極的になりました。
生活面	大変な事も、自ら進んでチャレンジしている様に思います。自分に出来る事はないか？地域の役に立てられないか？ボランティアは？と考えているのが話しの中で見られます。
	積極的になり、今までやろうか悩んでいたことも、やらない後悔よりもやる後悔と考え、いろいろなことに挑戦しています。
	読書に関心を寄せるようになりました。
	親元を離れ、親への感謝の気持ちを持った。
	こちらからお願いをしていなくても、家のお手伝いをしてくれる様になりました。
	時間の使い方を見直し、様々なことに目を向け取り組もうとしているように見受けられます。
その他	自然環境問題など、自分でできる海岸の清掃など身近なところから取り組むようになった。
	考え方、友人の付き合い方やICT 機器を駆使した仲間との繋がり。お互いがすぐには会えない状況でも、自分たちで繋がりあえる状況を確保し、試行錯誤しながらも意見交換を続けている。
	学生団体を立ち上げた友達ができたみたいで、参加させてもらってるみたいです。役割分担して、オンライン会議したりして、自分1人ではできなかったことにチャレンジできました。
	文化祭が無観客になり、文化部の保護者だけでも参加させてほしいと文化部の部長たちと協力し、校長に直訴したが却下された。しかし、次の策を検討し前向きな行動をとるようになった。

■お子様の感想で印象に残ったこと

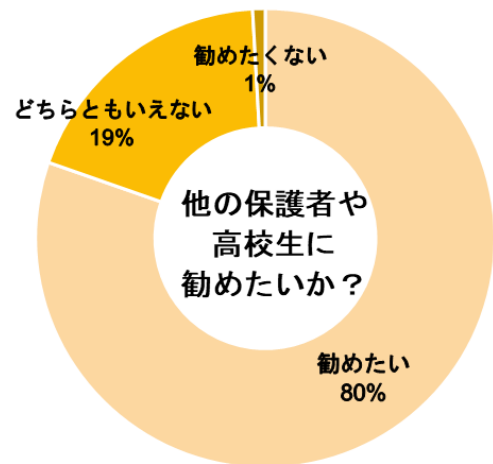
涙もろくなったとの感想が最も印象に残りました。一生懸命に活動してくださるスタッフの方々、講師の方々、生徒の皆さんの様子、そして何よりも、きっと皆さんがそれぞれに未来を目指して楽しんで考え、意見を交換する姿を目にして、子ども自身もその中で様々な人たちと心を通わせることができたことによるものではないかと思い、それが大きな成長であったのではないかと考えています。
空港に迎えに行った時、娘の目がキラキラしていた。とても充実した経験をしたのだとすぐに感じ取れた。
「自分はリーダーに向いていない」と聞いた時はショックだったが、よくよく話を聞いてみると、人にはいろいろな役割がある、がんがん引っ張っていく姿だけが「リーダー」の資質ではないと考えたようだった。そのことがわかっただけでも行かせた価値があった。娘は一步引いて仲間を後押しする役割を選んだようだ。
社会問題や日々のニュースに対して、自分の意見を持つことを大切さを感じ、意欲のある同世代に大きく刺激を受けたようです。最初は周りの方の素晴らしさと自分を比較して落ち込んだようですが、自分にできることからやっいてこうと前向きになったと話してくれました。
短期間で、最高の出会いがあったこと、沢山の出来事と一緒に学んだ仲間の話をしてくれました。出会えたことが嬉しく、別れることが悲しくて、毎日泣いていたようです。

日本だけではなく、世界で活躍できる人になりたいと言っていました。
同じクラスの全国の友達に住む町が気になるようで、ニュースなどで〇〇県と聞くと、そのお友達の話をしてくれます。時々、リーダー塾のお友達と連絡を取り合いながら「青森の〇〇ちゃんは、もう寒いのかな。」と話す娘がかわいいです。
「もっと本を読んだり、勉強しないといけないと思った。」という言葉です。今まで、日々学校の課題に追われながら、自分は勉強を頑張っていると思っていたようでしたが、それをこなすだけではなく、広い視野を持ち自ら学ぶことの大切さに気付き、素直にそんな自分に気付けたことを嬉しく思いました。



他の保護者または高校生に参加を勧めたいと思えますか？

勧めたい	80%
どちらともいえない	19%
勧めたくない	1%

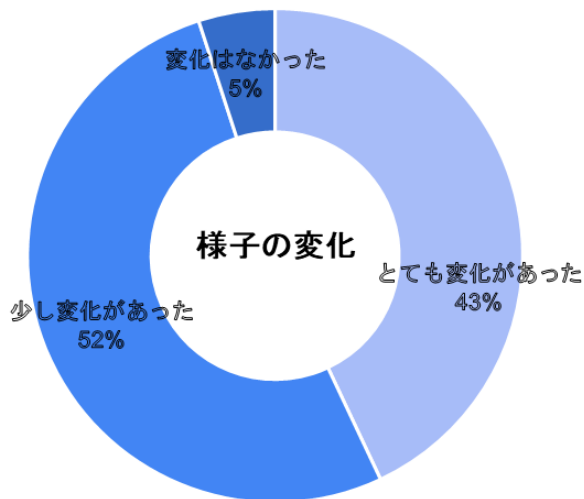


■主な理由

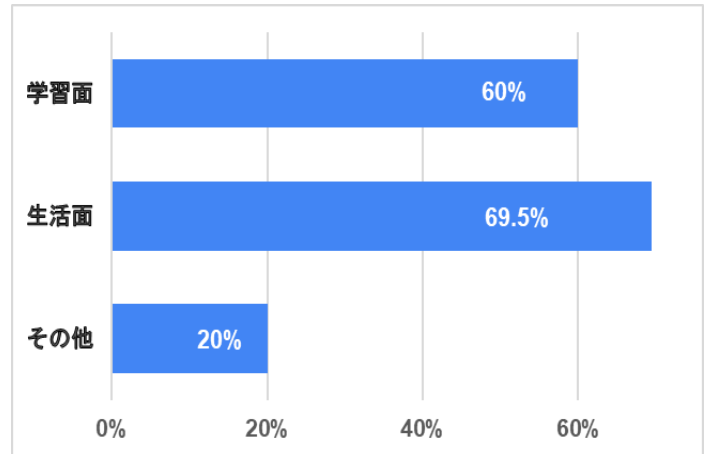
著名人の方の講義を聴くことができ、見聞を広げることができたと思います。また最後は仲間との別れに涙することもあり、参加者との絆がびっくりするくらい出来ていて、正直なぜ2週間でこのような絆ができるのだろう？と不思議です。ともあれ、このような貴重な学生経験と仲間ができたことが親として大変嬉しく思います。
普段、コロナ禍でもあり学校でディスカッション等の機会が少ないので、貴重な体験ができると思います。
本当に良いプログラムだと思います。また管理がしっかりしているので親としては安心です。
大きく成長するかけがえのないチャンスだと思うからです。携帯電話から離れて、仲間と向き合う時間を持つことは、今の時代の高校生にとって、人生を変えるかもしれないくらい本当に貴重なことです。
普通の生活では、決して会えない方々の講義や運営に関わるスタッフの方々、そして同世代の人たちとの出会いは、お金では得られないものだったと思う。
こんなにレベルが高く充実したサマースクールは、他にはめったにないと思うから。
受験学年は難しい
学校教育とは全く違う視座での教育を、異なるバックグラウンドの同世代と共に受けることができる非常に貴重な機会なので。
子供の変化を率直に感じられる。自分の知らない人の中で、自分の立ち位置、異なる考え方の人とのやり取り等、学校生活では得られない経験ができる。
慣れた集団の外で自分そのものをぶつける機会は、子供にとって大変刺激的であって大きな影響があると思ったので。
ぜひ参加してほしいと思いますが本人の強い意志・やる気がなければ意味がないと思います。(中途半端な気持ちではついていけないかな…)
全国からいらしているので、地域の環境の違い、色々な違いから学ぶ事も多いでしょうし、沢山の人との出会いで、考え方も良い意味で刺激を受けられて、とても良かったと思います。
いつもの居心地のよい空間から一歩冒険するのに良いチャンスなので。
参加すれば実りある研修だと思うが、参加者本人の強い意志がない場合は、期間中だけでなく、卒塾式後のプログラムをこなすことを負担に感じるのではないかなと思うため。

学校の担任教員へのアンケート

？ 塾参加前と参加後で生徒の様子に
変化がありましたか？



？ 「変化があった」と答えた方は、どのような
変化がありましたか（複数回答可）
※各項目ごとに選択された数を「変化があった」と
回答した人数で割った



■主な内容

学習面	学習面においては結果にそれほど執着するところがありませんでしたが、結果にこだわるようになり、結果に至る過程での努力もするようになりました。
	英語でディスカッションをする際に、前よりも積極的に意見を話すようになりました。
	リーダー養成塾で聞いた話に感銘を受けたと言い、進路選択における科目選択を日本史へ変更した。また、以前より海外へ目が向くようになり、留学を志していると言っていた。
	探究活動などの積極的に取り組むなど、勉強だけでなく課外活動への積極性が高まったように思います。
	進路目標についても、もともとは「野生の鯨類の研究」だったが、それに加えて「『いじめ』という言葉が辞書にない世界（や教育）の実現」にも興味を示すようになった。
	高校入学以来（彼女は高校一年生なので）1学期を経て、成績は優秀で行事に意欲的だとは思っていましたが、2学期になって、更にリーダーとしての自覚に目覚め、学習面・生活面での態度の「積極性」に拍車がかかったようです。
	学習面はもちろん、明確な目標を持って、様々な活動に参加しています。英語スピーチコンテストやその他の課外活動にも積極的に参加し、リーダーとして存在感を増しています。
	多くの参加者と交流する中で幅広い教養が必要であることを実感し、以前に増して積極的に授業に取り組んでいる。
生活面	進路についてもともと迷いがあったようで、この機会ではんらかの方向性を見つけたいととても意欲を持っていました。こちらの期待以上に刺激を受け、進路選択の幅が広がったようです。
	生徒会長、生徒会執行部に立候補した。（多数）
	いろいろな事に積極的に、前向きに取り組むようになりました。他の人に自分から話しかけるようになりました。そして表情がキラキラしています。人生を楽しんでいるように思います。
	周囲への配慮が向上した。講演会後に講師に個別に質問に行くなど積極性の向上が見られた。
	小論文やスピーチコンテストなど、積極的に取り組めるようになった。
	参加者本人がキャプテンを務める部活動の全体の雰囲気が良くなった。
	塾での学びを他の生徒に還元するため、発表の場を設けてほしいと希望がありました。
その他	元々自分から人と交わることが得意な生徒ではなかったが、自分から発言するようになった。
	マハティール元首相に直接質問することができ、回答していただいたことに感激していた。
	リーダー養成塾の研修内容を全校生徒に発表するとき、積極的に行動しており、自分の能力に自信がでてきたように感じる。
	「副」ではなく「主」となって動かなければならないといけない、と言っていました。使命感が生まれたようです。

■生徒の感想で印象に残ったこと

メンバーにコロナ感染者が出てしまい、行って数日で地元に戻ることになってしまったそうです。普通なら文句のひとつも言いそうなものですが、その後オンラインになってしまったから、「すごく有意義な時間を過ごせた、参加して良かったと本当にそう思います」と私に言ってきて、正直驚きました。

朝から晩まで講義等はあるけれども、楽しくて刺激が得られ、疲れを感じることはなかったと話していた。

多くの参加者と交流し、同世代の参加者の社会貢献等の様々な取り組みをを目の当たりにし、「将来、自身が社会貢献できる人材になるために今なすべきことは何か」を考えて行動したいと言っていた。

他の参加者のリーダーシップに感銘を受けたと彼女が語っていたことです。

他国の高校生たちと実際に英語でコミュニケーションをとったことが自信になったようです。自分の英語力がまだまだだと気づかされるきっかけになったとも話していました。

コロナ禍で開催は無理だと考えていたが、困難な状況でも取れる対策を考えて、不可能と思われることでも行動に移して可能にすることができることを実感したと言っていました。

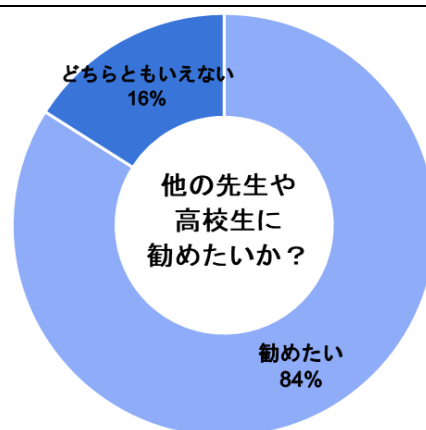
他校の生徒との交流によって学んだことがとても多かったようです。講義や討論を通して、地球環境問題に関わりたいという目標ができたと話していました。

塾が進むにつれてだんだん腹を割って話ができるようになっていって、最後には気兼ねなく議論できる関係になっていったことがとても嬉しかったという話が印象的でした。



他の先生または高校生に参加を勧めたいと思いますか？

勧めたい	84%
どちらともいえない	16%
勧めたくない	0%



■主な理由

様々な経験をしている高校生の刺激を受け、新たな視点を持つことができたり、進路達成に向けて、意欲的に考えられるため。

参加生徒の世界観を広げ、進路実現に役立つだけでなく、参加しなかった生徒に対しても体験した成果を発表したり、リーダーシップを発揮することで学校生活に還元してくれるため。

思考することと表現することのバランスが取れているように感じているから。

非常にハイレベルなものを持った方が参加されているようなので、誰でも参加できるものではないというのが正直な考えです。

リーダーとして世界に主体的に関わっていこうとする態度が養われ、生徒の視野が大きく広がったように思えるため。

3年前に参加した生徒も自分が勧めて参加したのですが、3年前の生徒は自らの体験と学んだことをまとめたパワーポイントを作り、1年生に向けて報告会を自主的に行いました。ここまで感化されるとは、正直予想外でした。そのことを今回参加した生徒には伝えていませんが、全く同じ反応で帰ってきました。2人とも人生観が変わった様子です。私自身も参加したい思います。

自校の中だけにとどまらず、ハイレベルで意欲の高い他校の生徒と交流することが、生徒の成長につながると思うから。

どんどん社会が内向きになり、コロナの影響もあり県外に出なくなっている。こういう機会を利用して、どんどん学校の外の世界に出ていって様々な刺激を受けてほしい。

開催期間に夏期講習を行っており、勉強の遅れなど多少なりとも影響がある。夏期講習以上の学びがあるであろうが、器用な生徒でない場合、勉強の遅れをどうしても気にしてしまう。

資料③ 新型コロナウイルス感染症に関するアンケート調査結果

弊塾の新型コロナウイルス感染症対策や、陽性者発生後の対応についてアンケートをまとめた。選択式の設問は回答必須としたが、選択した理由の記述は任意の回答とした。

塾生へのアンケート

? 2週間前からの検温・事前 PCR 検査・当日抗原検査など

塾開始前のコロナ感染対策は十分だったか？

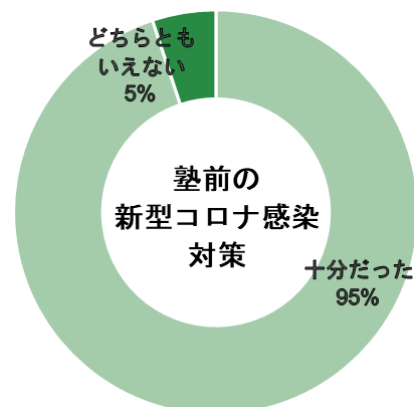
十分だった 95%

- ・これまで参加したどのイベントや大会よりも、徹底した感染対策だったから。
- ・コロナに感染しているかどうか私自身不安だったが、検温や検査があったので安心して参加出来た。
- ・緊急事態・まん防地域からきた塾生に対して、ホテルで隔離をしてから参加させるなど、十分に感染症対策をしていた。

不十分だった 0%

どちらともいえない 5%

- ・保護者もするべきではないかと思った。



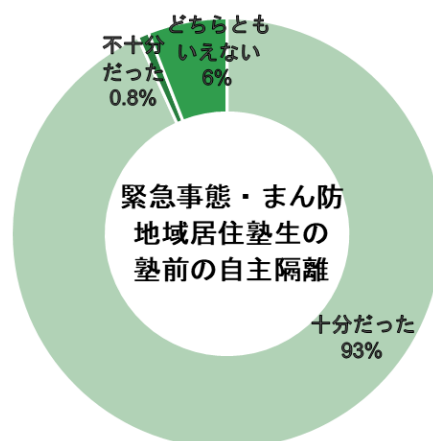
? 緊急事態・まん延防止地域に居住する塾生が、福岡で数日間自主隔離したことはコロナ感染対策として十分だったか？

十分だった 93%

- ・周りの人も本人も安心して参加できたと思う。
- ・まん防地域から来て自主隔離したが、集合する前にもう一度 PCR 検査を受けさせて貰えて、安心して他の人と合流できた。
- ・潜伏期間も考慮しての対応を考えていると思ったから。

不十分だった 0.8%

どちらともいえない 6%



? 陽性者発生後に参加者全員の陰性確認をした上で、塾生の帰宅措置をとったが、適切だったか？

適切だった 89%

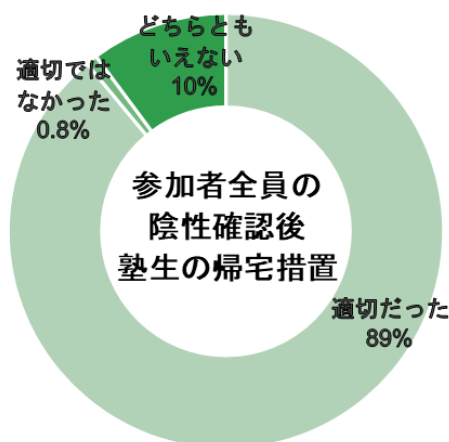
- ・検査も受けることができ安心して帰宅することができた。
- ・もし感染者が広がっては、楽しかった思い出も残念なものになってしまうので、悔しかったが速やかな帰宅は適切だった。

適切ではなかった 0.8%

- ・陰性だと判明したので、続けても良いと思った。
- ・しかしリーダー塾を対面で開催してくれたことには大変感謝している。

どちらともいえない 10%

- ・全員の陰性が確認できていたので、現地開催を続行することもできたのではないかと思います。



■ボランティアスタッフ陽性者発生後の対応についてのご意見、ご感想

事務局のみなさんが暑い中廊下を走り回り、寝ずに私たちの安全性を確保する手立てを探してくれ、また驚くほどスムーズにオンライン形式に変更していただいたことで、自分の成長につながるリーダー塾になりました。このことは絶対に忘れません。本当にありがとうございました。
非常事態を体験できたことをポジティブに捉えて、良い学びとして大切にしていこうと思います。
濃厚接触者の疑いがあるとして待機した部屋で、新しい友達を作ることが出来たので結果オーライ！
強いて言えば、塾生へ情報が伝わるのが遅かったと思います。不安になるばかりだったので、指示を待たされるよりも、状況を教えていただいた方が、塾生も自ら考えて行動できたのではないかと思います。
陽性者が出た時は少しは情報（今どうしてこうなっているのかなど）を早く教えてほしかったです。
何も分からず不安な時間もありましたが、早急かつ適切な対応をしていただき、感謝しかありません。
佐賀で一日待機になった際に状況が分からず少し混乱しましたが、その後の詳しい説明により理解することが出来ました。
スタッフの皆さんが大変だとはわかっていましたが何も知らずに不安な気持ちで過ごす時間が長く感じたのでもう少し早く情報をいただきましたかったと思った
スタッフのみなさんが優しく接してくれて不安が軽減しました。いるメンバーで一生懸命対応してくれたことに本当に感謝しています。ただ、もしできたなら隔離メンバーや状況を詳しく教えて欲しかった。
迅速に対応していただいて、ことが大きくならずにすんだと思います。ただ、何も知らされずに待機するのは大きな不安があったので、できる範囲で情報を伝えてもらいたかったです。
感染者が増えないように徹底的に対応されてあって良かったです。
事務局の方たちも大変ななか僕たちのために動いてくださりありがとうございました。
もし全員の陰性確認が取れた上で帰してくださっていただければ、仮に自分の周囲で陽性者が出た場合、自分のせいかもしれない。自分のせいで周囲が迷惑しているかもしれない。と考えてしまう方もいらっしゃるかもしれない。そうなることを事前に防げていたことも含めて、とても良かったと思う。
バスや新幹線、飛行機の手配が本当に速くて、安心することができました。

保護者へのアンケート

2週間前からの検温・事前PCR検査・当日抗原検査など
塾開始前のコロナ感染対策は十分だったか？

十分だった 94%

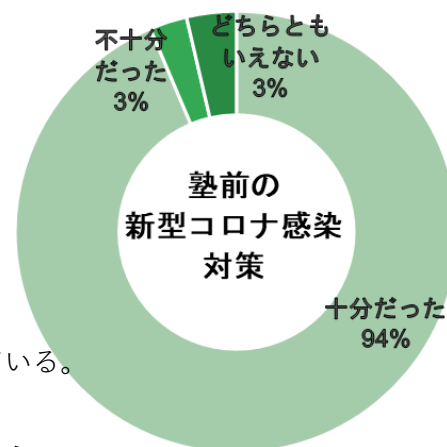
- ・看護師常駐は感心、安心した。
- ・どこで感染するかも分からない状況で、事前PCR検査、当日の抗原検査はありがたかった。

不十分だった 3%

- ・考えうる対策を十二分に講じていたと考えており、大変感謝している。同時にどれだけ対策をしたとしても、「十分な感染対策」を講じることは、どこの誰であってもできることではなかったと思う。

どちらともいえない 3%

- ・対策はしっかり行っていたが陽性者を全て判別できるわけではなく不安はゼロではなかった。



緊急事態・まん延防止地域に居住する塾生が、福岡で
数日間自主隔離したことはコロナ感染対策として十分だったか？

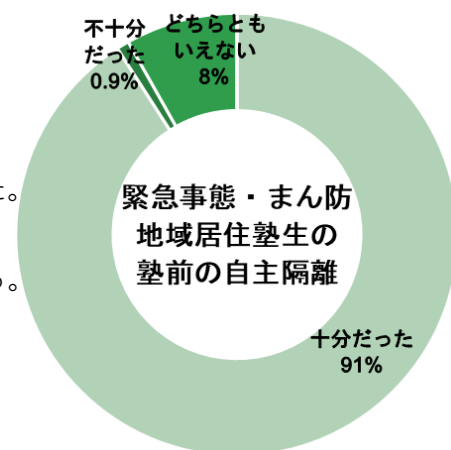
十分だった 91%

- ・その他の地域から参加する子ども達も守ってくれているのを感じた。
- ・塾期間も長いのに、さらに数日間、福岡での滞在を了承して下さった該当する参加者、保護者、スタッフの方々に感謝している。

不十分だった 0.9%

どちらともいえない 8%

- ・その地域ではなくとも感染していたかもしれないので、なんとも言えない。



陽性者発生後に参加者全員の陰性確認をした上で、
塾生の帰宅措置をとったが、適切だったか？

適切だった 75%

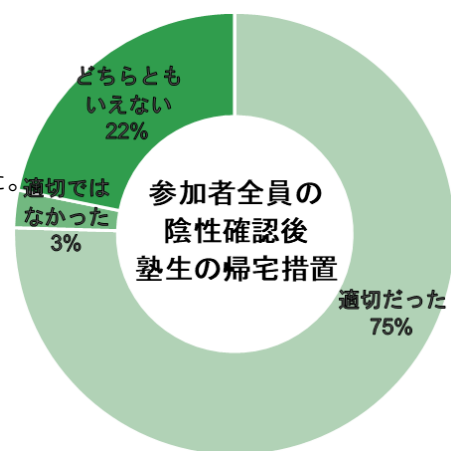
- ・同居家族の感染が心配だったので陰性確認後の帰宅は安心だった。
- ・子どもは、寮ではなく実家最寄りの空港着の飛行機を手配してもらい、速やかに帰宅することができたため、大変ありがたかった。
- ・危機管理について学んだ貴重な経験にもなったと感謝している。

適切ではなかった 3%

- ・せっかくの機会なので全員陰性だったのであれば現地で続けさせてやりたかった。

どちらともいえない 22%

- ・塾生から陽性者が出なかったのに中止になったのは残念だが、継続して感染者が拡大していたかもしれず、何とも言えない。
- ・仕方ないと思われるが、陽性者発生後のアナウンスが保護者・参加者に対してもっと必要と思われる。



■ボランティアスタッフ陽性者発生後の対応についてのご意見、ご感想

全員陰性とわかった時点で、本人保護者が希望する場合は帰宅してオンラインという形でもよかったと思う。めったにない機会なので、自分の子どもには最後まで現地で仲間と過ごさせてやりたかった。
（陽性者発生について）丁寧なメールで状況はよく理解できた。（帰宅日変更の）電話を頂いたのには大変な時にと恐縮した。子どもにスマホを渡してもらったので、子どもからも様子が聞けたのは安心した。
現地での参加が続けられなかったのは、本人が一番残念に思っていました。周りの方から刺激を受け、自分も頑張ろうと思ったときに帰宅することになったようです。
発生状況や感染されたスタッフの方の発生までの状況、発生後の対応について詳細な文面が送られてきたことや、断腸の思いで中止を判断されたことの記載もあり、保護者として心底納得できる内容でした。
家業の為、8/4の帰宅措置にすぐに対応できず、事務局の方に相談したところ、しっかり対応してくださいました。お陰様で、仕事の段取りをつけることができました。本人を帰宅後スムーズに自宅に迎え入れることができました。大変感謝しています。
参加前からこれだけの対策をされていても発生してしまうのは仕方のない。対応も十分だったと思う。
部屋で何もできない時間がそれなりに長く、それがもったいなかったと思います。状況がはっきりするまで動かせなかったとは思いますが、何かやれることがあらかじめプランされていれば…と思いました。

感染者が出たら打ち切りとは決まっていたのですが、やはりリモートより現地で受講できたなら良かったのではと思います。しかしコロナは侮れないものなので仕方ないです。1週間だけでもできて良かったです。娘も帰ってくるのが惜しくて淋しくて号泣したと言っていました。とても良い経験と出会いをしました。
リスクは理解の上で参加させていたので、諸々の対応に感謝しかありません。本人にも良い経験、思い出になったと思います。
帰宅措置をとる場合は、陽性者になった場合か、あらかじめ決めておき、塾生でない場合は毎日検査を実施しながら継続するという方法も帰路手配などの混乱がなく、選択肢のひとつになると思う。
皆が陰性の結果ならば最後までリーダー塾を続けていても良かったのではないかと思います。理由はとても充実した経験をさせていただいていたので、最後まで居たかっただろうなと思いました。
大変心配しましたが、事務局の方が出来る限りの対策、対応また参加者の方の感染予防の意識が高かったことで、感染拡大することなく無事に終えることができて良かったとおもいます。
子どもたちにも早くきちんと説明をするべきだった。不安が強く空腹もあり十分な対応とは言えない。
食事が満足いくものではなかったそうですが、大変な状況の中、一生懸命用意してくれていた姿を見たそうなので、納得したそうです。
受講生、保護者にも、少しでもその時点での情報を流す必要はあったのではないかと思います。勿論、運営上、不確実な情報提供が出来ない所は、理解できるのですが、受講生同士で不安が大きかったと、後日聞いたので、いくらかでも情報は、せめて、流してもよかったのではと思います。
自宅に帰ってからすぐに、オンラインでスムーズにプログラムが開始されたのには対応の早さに驚いた。
感染対策がきちんととられているのであれば、そのまま現地での研修継続でも良かったのかなとも思います。今回は、途中からオンラインとなり残念ではありましたが、安全を優先していただき、感染拡大することなく、対応していただけたことに感謝しています。

学校の担任教員へのアンケート



コロナ禍での開催について、ご意見・ご感想があれば教えてください。

開催していただき感謝します。結果的に感染が確認されましたが、適切な対策がとられていたおかげで感染拡大はせず安心しました。心配は大きかったですが、生徒がこのような経験をできる場がなかなかないので、いい経験になったと思います。
リモートでは得られないものがあります。今回も充分な配慮と対策がなされたようですし、よっぽどなことがない限りは、開催しても良いかと思います。ありがとうございました。
感謝しかありません。生徒たちにこのような機会を与えてくださり、ありがとうございました。
感染状況が悪化している時期だったため、初めからオンライン実施を決断してもよかったように思った。
何らかの形で開催してほしいとは思いますが、やはりオンラインだと、他の塾生との交流が限定的になり、この塾の意義が半減してしまうのかなとも思いました。
コロナ禍の中、生徒が成長する機会を提供していただき大変感謝しております。今後も開催にあたり感染予防対策にご負担をおかけしますが、生徒が成長できる機会を提供していただけるとありがたいです。
マニュアルが整備されており、それに則った対応をされていると感じた。
対面に勝るものはないのですが、ハイブリッドも意外と効果的であろうかと思っています。
開催できたことはよかったが、事前に隔離をすることになったり、途中で帰ることになったりして、色々大変だったと思う。オンラインで継続して行われたとのことだが、最初から最後まで一貫して様々な生徒たちと関わりながら進めることが望ましかったと思う。来年は普通に開催できることを願います。

資料④ 塾生概要

塾生総数 139名 22都道府県+1か国(フィリピン)

○参画道県・市推薦枠 110名

※うち、第17回参加者2名

	都道府県	人数
1	北海道	10 名
2	青森県	10 名
3	岩手県	7 名
4	静岡県	10 名
5	岐阜県	10 名
6	和歌山県	10 名
7	愛媛県	10 名
8	福岡県	21 名
9	宗像市	6 名
10	佐賀県	14 名
11	うるま市	2 名
計		110 名

○一般公募枠 29名

※うち、第17回参加者1名

	都道府県	人数
1	千葉県	1 名
2	東京都	6 名
3	神奈川県	2 名
4	愛知県	2 名
5	京都府	1 名
6	兵庫県	2 名
7	広島県	1 名
8	岡山県	1 名
9	徳島県	1 名
10	福岡県	7 名
11	大分県	1 名
12	熊本県	1 名
13	鹿児島県	2 名
14	海外	1 名
計		29 名

資料⑤ 塾生高校一覧

22都道府県+1ヶ国(フィリピン) 102校

学校所在地	学校名	学校所在地	学校名
北海道	私立遺愛女子高等学校	広島県	広島県立広島高等学校
	私立札幌新陽高等学校	岡山県	私立岡山学芸館高校清秀高等部
	私立札幌聖心女子学院高等学校	徳島県	徳島県立海部高等学校
	北海道立登別明日中等教育学校	愛媛県	愛媛県立宇和高等学校三瓶分校
	私立北星学園女子高等学校		愛媛県立西条高等学校
青森県	青森県立青森高等学校		愛媛県立松山西中等教育学校
	私立青森明の星高等学校		愛媛県立松山東高等学校
	青森県立八戸高等学校		愛媛県立松山南高等学校
	私立八戸聖ウルスラ学院高等学校		愛媛県立三崎高等学校
	青森県立八戸東高等学校		愛媛県立南宇和高等学校
	青森県立弘前南高等学校		愛媛県立八幡浜高等学校
岩手県	岩手県立一関第一高等学校	福岡県	福岡県立朝倉高等学校
	岩手県立大船渡高等学校		福岡県立ありあけ新世高等学校
	岩手県立釜石高等学校		福岡県立育徳館高校
	岩手県立千厩高等学校		福岡県立香椎高等学校
	岩手県立高田高等学校		福岡県立輝翔館中等教育学校
	岩手県立福岡高等学校		私立久留米信愛高等学校
千葉県	私立渋谷教育学園幕張高等学校		福岡県立玄洋高等学校
東京都	私立アオバジャパンインターナショナルスクール		福岡県立小倉高等学校
	私立郁文館高等学校		福岡県立小倉工業高等学校
	国立お茶の水女子大学附属高等学校		福岡県立早良高等学校
	私立国際基督教大学高等学校		福岡県立山門高等学校
	私立富士見高等学校		福岡県立修猷館高校
神奈川県	私立相模女子大学高等部		福岡県立城南高等学校
	私立湘南白百合学園高等学校		福岡県立筑紫丘高等学校
岐阜県	岐阜県立可児高等学校		私立東海大学付属福岡高等学校
	岐阜県立加茂高等学校		福岡県立戸畑高等学校
	私立岐阜東高等学校		福岡県立福岡高等学校
	私立聖マリア女学院高等学校		私立福岡工業大学附属城東高等学校
	岐阜県立関高等学校		私立福岡雙葉高等学校
	岐阜県立多治見北高等学校		私立福岡舞鶴高等学校
	岐阜県立中津高等学校		福岡県立三池高等学校
	岐阜県立長良高等学校		福岡県立宗像高等学校
	岐阜県立武義高等学校		私立明治学園高等学校
静岡県	静岡市立高等学校		福岡県立明善高等学校
	私立静岡学園高等学校		福岡県立八女高等学校
	私立静岡サレジオ高等学校	佐賀県	佐賀県立伊万里高等学校
	静岡県立清水東高等学校		佐賀県立唐津西高等学校
	私立常葉大学附属菊川高等学校		佐賀県立唐津東高等学校
	私立星陵高等学校		私立佐賀清和高等学校
	静岡県立浜松西高等学校		佐賀県立佐賀西高等学校
	私立不二聖心女子学院高等学校		佐賀県立武雄高等学校
	静岡県立沼津東高等学校		佐賀県立致遠館高等学校
愛知県	私立海陽中等教育学校		私立早稲田佐賀高等学校
	私立名古屋国際高等学校	大分県	大分県立日田高等学校
和歌山県	私立開智高等学校	熊本県	私立九州学院高等学校
	和歌山県立向陽高等学校	鹿児島県	鹿児島県立鹿児島南高等学校
	私立和歌山信愛高等学校		私立屋久島おおぞら高等学校
兵庫県	私立神戸女学院高等学部	沖縄県	沖縄県立石川高等学校
	私立三田学園高等学校		沖縄県立与勝高等学校
京都府	私立立命館高等学校	海外	International School Manila

資料⑥ クラス担任・学生リーダー及びスタッフ名簿

■クラス担任

クラス	期間	氏 名	所 属 名
1 組	前半	三角 聡子	株式会社麻生
	後半	志水 大輔	九州電力株式会社
2 組	前半	水本 翔吏	学校法人麻生塾
	後半	濱崎 享	株式会社 QTnet
3 組	前半	山口 健太	サッポロビール株式会社
	後半	河野 雄彦	西部ガス株式会社
4 組	前半	伊東 篤史	株式会社ミズ
	後半	吉田 栄作	防衛省陸上自衛隊
5 組	前半	小笹 大道	学校法人立命館
	後半	永蔭 浩文	株式会社ミズ
6 組	前半	本田 祥久	株式会社ふくや
	後半	坂 一平	学校法人立命館
7 組	前半	尾池 貴志	正興 IT ソリューション株式会社
	後半	重光 咲希	臨床心理士（7 期生）

■学生リーダー

クラス	氏 名	所 属 校
1 組	溝添 識人	立命館アジア太平洋大学（15 期生）
2 組	佐藤 珠弥	東京理科大学（14 期生）
	糸藤 友作	立命館アジア太平洋大学（15 期生）
3 組	モハマド アリ イザット	一橋大学（16 期アジア奨学生）
	濱崎 南海	立命館アジア太平洋大学（16 期生）
4 組	松山 泰斗	慶應義塾大学（13 期生）
1・4 組	高橋 はな	東京外国語大学（12 期生）
5 組	イダマルゴダ バヌカ	東京大学大学院（12 期生）
	横山 和津実	法政大学（14 期生）
6 組	田中 英明	松山大学（14 期生）
	藤田 百華	西南学院大学（15 期生）
7 組	小澤 穂	慶應義塾大学通信課程（15 期生）
	成田 玲央	東京学芸大学教職大学院

参画道県・市	堀腰 眞美子	北海道 環境生活部くらし安全局道民生活課青少年係主事
	三上 萌子	青森県 企画政策部地域活力振興課人づくりグループ主事
	田村 大樹	岩手県 教育委員会事務局教育企画室指導主事
	山田 登紀	静岡県 スポーツ・文化観光部総合教育課主事
	古川 由佳子	岐阜県 環境生活部私学振興・青少年課青少年係主任
	櫻井 卓馬	和歌山県 教育庁教育総務局総務課教育政策班政策推進員
	松田 智也	愛媛県 教育委員会事務局指導部高校教育課指導主事
	富松 文夫	福岡県 人づくり・県民生活部私学振興・青少年育成局青少年育成課長
	末信 みゆき	福岡県 人づくり・県民生活部私学振興・青少年育成局青少年育成課企画監
	武田 幸治	福岡県 人づくり・県民生活部私学振興・青少年育成局青少年育成課企画主査
	松尾 駿	福岡県 人づくり・県民生活部私学振興・青少年育成局青少年育成課主任主事
	佐藤 岳人	福岡県 人づくり・県民生活部私学振興・青少年育成局青少年育成課主事
	古賀 信幸	佐賀県 健康福祉部男女参画・こども局こども未来課長
	中山 浩政	佐賀県 健康福祉部男女参画・こども局こども未来課参事
	権藤 克斉	佐賀県 健康福祉部男女参画・こども局こども未来課係長
	山田 慶紀	佐賀県 健康福祉部男女参画・こども局こども未来課主査
	徳永 淳	宗像市 子どもグローバル人材育成担当部長
	中野 道子	宗像市 教育子ども部子ども育成課長
	占部 真珠アイリーン	宗像市 教育子ども部子ども育成課グローバル人材育成係長
	新頭 優	宗像市 教育子ども部子ども育成課グローバル人材育成係主任主事
グローバル アリーナ	安座間 ゆうな	うるま市 経済部商工労政課主事
	伊藝 祥子	うるま市 経済部商工労政課雇用推進係会計年度任用職員
	近藤 勇	株式会社グローバルアリーナ 代表取締役
事務局	ゲトフ ステファン	株式会社グローバルアリーナ
	吉丸 耕一	株式会社グローバルアリーナ
	加藤 暁子	日本の次世代リーダー養成塾 専務理事・事務局長
	梯 裕星	日本の次世代リーダー養成塾
	時津 美弓	日本の次世代リーダー養成塾（11期生）
	見良津 凜	日本の次世代リーダー養成塾（11期生）
医療関係	市川 智也	日本の次世代リーダー養成塾 アドバイザー
	大家 美希	日本の次世代リーダー養成塾 サポーター
	坂本 泰樹	医療アドバイザー（医師）
	今城 紗於里	看護師
	渡辺 恵	看護師(前半)
	橋本 頌子	看護師(後半)

ご協賛・ご協力・助成いただいた皆様

今回の日本の次世代リーダー養成塾は、次に掲げる皆様のご協賛とご協力により開催することができました。ここに、深く感謝申し上げます。(五十音順、敬称略)

■ご協賛いただいた皆様

株式会社麻生
学校法人麻生塾 麻生専門学校グループ
株式会社インスパイア
公益財団法人 オリックス宮内財団
九州電力株式会社
株式会社 QTnet
株式会社九電工
株式会社ぐるなび
国際ロータリー第2700地区
西部ガスホールディングス株式会社
株式会社サニックス
住友化学株式会社
株式会社正興電機製作所
株式会社全教研
株式会社テノ、ホールディングス
株式会社戸上電機製作所
株式会社トクスイコーポレーション
株式会社西日本シティ銀行
西日本鉄道株式会社
株式会社日本政策投資銀行
株式会社ハッピーズ
美巢（エムスタイルジャパン株式会社）
株式会社福岡銀行
株式会社福住
株式会社ふくや
フンドーキン醤油株式会社
株式会社ミズ
三井松島ホールディングス株式会社
三菱商事株式会社
株式会社安川電機
Y A S K A W A 未来クラブ

■ご協力いただいた皆様

I N ・ C O M株式会社
公益財団法人 AFS 日本協会
株式会社グローバルアリーナ
佐賀県波戸岬少年自然の家
宗像大社

■助成いただいた皆様

公益財団法人福岡県市町村振興協会



Japan Future Leaders School

日本の次世代リーダー養成塾

〒107-0062 東京都港区南青山 5-12-28 メゾン南青山 403 号
tel 03-5466-0804 fax 03-5466-0842 mail info@leaderjuku.jp
<https://leaderjuku.jp/>

